

学术交流レポート

—2016—

桐蔭横浜大学

学長挨拶



桐蔭横浜大学
学長 佐藤 宣 践

「学術交流レポート2016」が刊行されて、学術教育活動などの進展が一覧できることになり、有意義なワンステップであると思います。

レポート刊行の意義は、いよいよ大きくなっています。研究と教育を同時に推進していくところに、大学の組織としての独自性、そして主体性があります。教育は、研究の裏打ちを得てこそ真の輝きをもち、若者の精神に深い感動を呼び起こすでしょう。自由な知的土俵である大学においては、好奇心に富む柔軟な若い心に生じる素朴な疑問が端緒となって、時代を超える新しい着想や理論が生み出されることも少なくないのです。大学において教育と研究が支えあって展開されることで、社会に対する大きな貢献ができるのだと思います。このことは、学問が大きく進歩し、その最先端が加速度的な伸びを示している今日、とりわけ重要であり、大学への期待に応え、大学の存在感を一段と大きいものとするに連なるでしょう。

「学術交流レポート2016」は、単年間の専任教員による学術研究と教育活動をまとめたものです。本学は、法学、医用工学、スポーツ健康政策学の3学部体制となり、また、3つの学術大学院と1つの専門職大学院(法科大学院)がその上に配置されております。こうした進展のなかで、高等教育機関の総合的体制が整備されつつあると自負しております。そこから生まれるところの学術研究教育活動の成果を社会に発信する本レポートが刊行されることで、学の内外にわたり幅広い知的交流の機会が増大し、そのプロセスの中で、研究と教育の間のよき相乗作用が光彩を増すことになれば、まことに幸いです。

現在、本学において、地域社会と海外都市を結ぶデルタ型の仮想空間とその仕組みを動かそうとする目的が共有され、本学をいわばコミュニティのハブ組織の一つとして、研究と教育をグローバルに展開するエネルギーが盛り上がってきています。本レポートは、大学が一段と高い役割を果たしていくスプリングボードとなるものと確信しています。

学術交流レポート2016 目次

■	学長挨拶	1	
■	建学の精神	3	
■	大学組織図	4	
■	法学部		
	法律学科	5	～ 45
■	医用工学部		
	生命医工学科	46	～ 72
	臨床工学科	73	～ 103
■	スポーツ健康政策学部		
	スポーツ教育学科	104	～ 125
	スポーツテクノロジー学科	126	～ 136
	スポーツ健康政策学科	137	～ 158
■	工学研究科 医用工学専攻・情報・機械工学専攻	159	～ 164
■	スポーツ科学研究科	165	～ 168
■	法務研究科 法務専攻	169	～ 188
■	先端医用工学センター	189	～ 189
■	公開講座・セミナー・シンポジウム・イベント等開催	190	～ 198

建学の精神

社会連帯を基調とした、義務を実行する自由人たれ。

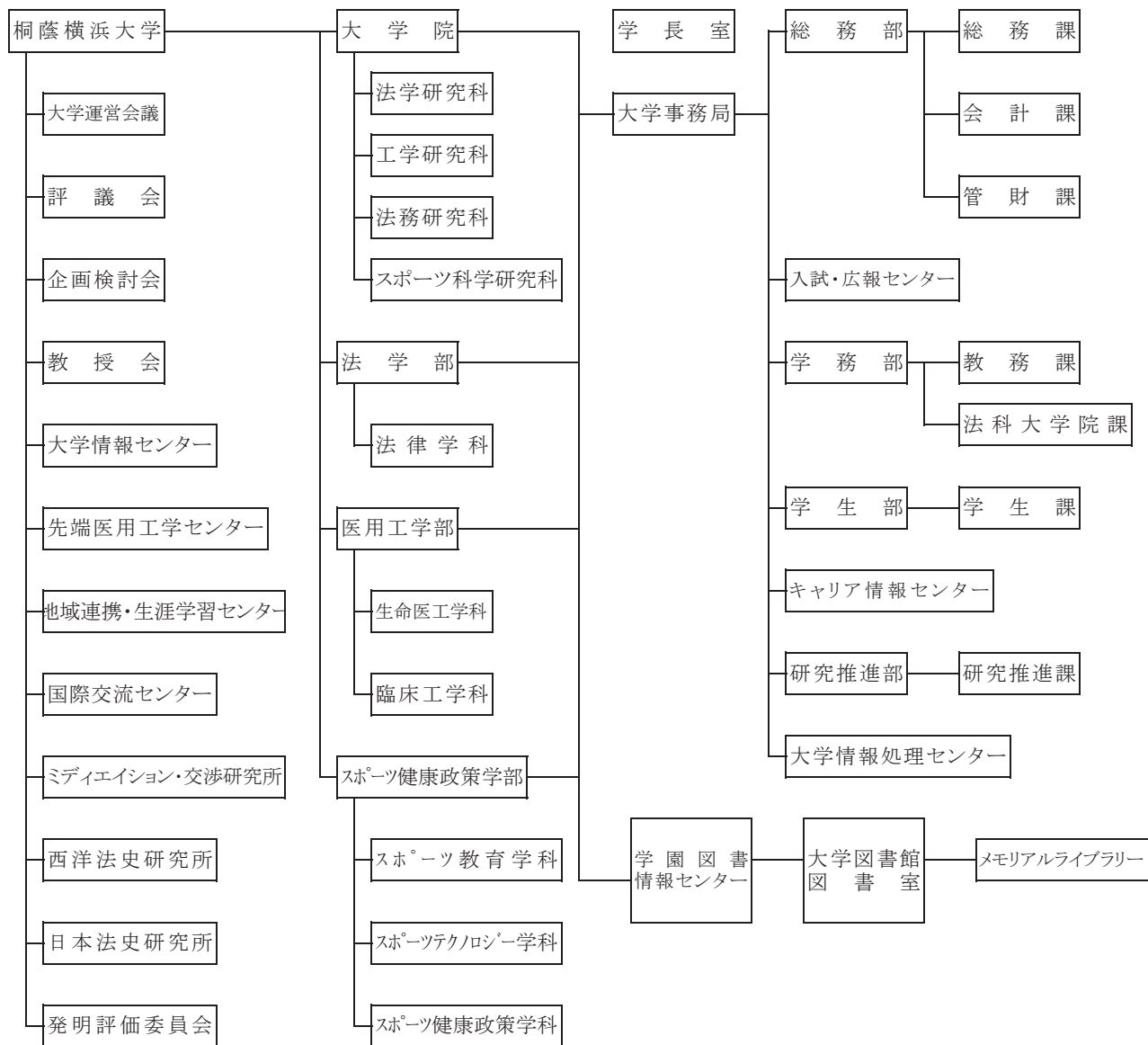
学問に徹し、求学の精神の持主たれ。

道義の精神を高揚し、誇り高き人格者たれ。

国を愛し、民族を愛する国民たれ。

自然を愛し、平和を愛する国際人たれ。

大学組織 2017.4.1現在



法学部 (Faculty of Law)

法律学科 (Department of Law)

阿部 憲二 (あべ けんじ) 教授



出生年 : 1964(昭和39)年
在籍 : 2002(平成14)年9月～
最終学歴 : サンフランシスコ大学教育学部博士課程
国際化に伴う社会教育学科修了
学位 : 教育学博士(Ed.D.)
学位論文 : Achieving High Oral Proficiency Levels in ESL
専門分野 : 国際社会病理
前職 : 北カリフォルニア大学助教授・マリン郡短期大学講師
学内役職等 : 国際交流委員(2012～)
留学 : アリゾナ州立大学(1984.6～1985.5)
サンフランシスコ大学(修士:1990.6～1991.5、博士:2000.1
～2001.12)
資格 : 中学1級・高校2級教員免許、英検1級
上級心理カウンセラー、サイコパス診断資格
非常勤講師 :
受賞・表彰 :

II 研究活動

○その他
(その他特記事項)
ラジオ日経「大人のラジオ」社会と犯罪コーナー担当(2012年9月～現在)

III 学会等および社会における主な活動

任期、活動期間等	学会等における役職等	
2009年8月～現在	府中刑務所篤志面接員	
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
府中刑務所	2012年9月～現在	入所者及び満期出所者オリエンテーション担当講師 受刑者心理カウンセリング

内ヶ崎 善英 (うちがさき よしひで) 教授



出生年 : 1958(昭和33)年
 在籍 : 1993(平成5)年4月～
 最終学歴 : 中央大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得満期退学
 学位 : 法学修士(中央大学)、Master of Laws (N.Y.U.)
 学位論文 : 勧告的意見の機能について
 専門分野 : 国際法
 前職 : 日本学術振興会特別研究員
 学内役職等 : 法学部学部長(2016～)
 留学 : New York University, School of Law
 資格 :
 非常勤講師 : 中央大学法学部
 受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(2)法学教育におけるアクティブラーニング導入の試み	2012年4月～	<ul style="list-style-type: none"> ・法学部の導入教育におけるアクティブラーニングの導入を模索している。 ・具体的には、リーガルシミュレーションゲームと称して、現実には生じうる仮定の事件を設定し、学生にその事件の当事者となってもらい、当事者であればするであろう主張を展開し、相手方との交渉を行い、最終的には両当事者の妥協点を見つけ出していく。模擬裁判とは異なり、生の形のトラブルからスタートするため法的に再構成されていない紛争の中で話し合いによる解決を模索するところに特色がある。よって、法的知識は必要でなく、相手方の利益を踏まえたうえで両当事者の双方にとって利益をもたらすような解決策を探すために、相互理解を深めていくことが肝要となる。すなわち、対話能力が培われ、自身の主観的な観点から離れ、間主観的な視点からトラブルを考えていく俯瞰的理解力の強化につながっていくことが期待できる。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
国際法学会、世界法学会、国際法理論史研究会、国際法立法研究会

鹿兒嶋 繁雄 (かごしま しげお) 教授



出生年：1950(昭和25)年
 在籍：1993(平成5)年4月～
 最終学歴：立教大学大学院文学研究科
 学位：文学修士
 学位論文：ゴート語の現在分詞について
 専門分野：ゲルマン語学
 前職：成蹊大学工学部非常勤講師
 学内役職等：
 留学：
 資格：
 非常勤講師：中央大学法学部
 受賞・表彰：

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の 年 日 日 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
Über die Herkunft des Wortes "ghetto"	単著	2016年12月15日	『桐蔭論叢』第35号		81-87頁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本独文学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
1975年4月～現在	日本独文学会 会員

笠原 毅彦 (かさはら たけひこ) 教授



出生年：1957(昭和32)年
 在籍：1993(平成5)年4月～
 最終学歴：慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程満期退学
 学位：法学修士(慶應義塾大学)
 学位論文：法判断権の所在
 専門分野：民事法、法情報学
 前職：常磐大学短期大学部講師
 学内役職等：学生部副部長(2014～)
 留学：ドイツ連邦共和国ザールラント大学(1984～1986, 1994～1995)
 資格：
 非常勤講師：国士舘大学大学院総合知的財産法学科, 早稲田大学法学部

受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
https://nodata.jp/klabo/	2000年4月～現在	授業外での学習促進のための学生間、学生・教員間の議論用オンライン会議室。
http://www.cc.toin.ac.jp/juri/fj01/	2000年4月～現在	講義内容のWEB上での公開、教材として呈示しながら講義を展開。
2.作成した教科書、教材、参考書		
http://www.cc.toin.ac.jp/juri/fj01/ https://nodata.jp/klabo/?page_id=466	2000年4月～現在	講義教材ダウンロードサイト。
https://nodata.jp/klabo/?page_id=466	2004年4月～現在	講義資料ダウンロードサイト

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略
<p>2016年も、総務省委託研究の「諸外国におけるインターネット上の権利侵害情報対策に関する調査研究」から始まった。ドイツ法を担当した。</p> <p>サイバーコート・サイバーキャンパスを研究の二つの柱にしていたが、現実の動きのあまりの遅さに、当該研究を中断し、4年ほど「通信の秘密」を研究の柱に据えていた。その一つのまとめとして、情報ネットワークロー・ビュー14巻に「通信の秘密 — ドイツ法制の示唆」を発表した。また、2017年2月には、「SIGINT活動におけるバルクデータの意義 — ドイツ法の観点から」の題で、サイバーセキュリティ第13回研究会兼公開シンポジウムに報告者およびパネリストとして参加した。</p> <p>但し、3月に東京弁護士会民事訴訟部会の依頼で、九州大学上田竹志准教授と共に「民事裁判のICT化」の題で講演をしている。</p> <p>2016年度は、特に、海外の研究者との関係を後輩研究者に引きついでもらうこと、学会間の協力体制の促進に努めている。前者は、ザールラント大学法情報学研究所所長ボルゲス教授との関係で、11月に翻訳「インターネット上のなりすまし — 責任と証明」を、情報ネットワーク・ローレビューに掲載した。また、2017年度のドイツにおける法情報学研究者向けサマースクールの講師として協力する予定。さらに、分野違いではあるが、ドイツ憲法判例研究会でロスナーゲル教授の「データ保護規則(Datenschutz-Grundverordnung)と構成国の権利との関係」の翻訳と通訳を行い、2017年の桐蔭論叢に掲載した。</p> <p>2017年6月に、内閣閣議決定に、「裁判所のIT化」が盛り込まれた。</p> <p>この研究に携わる研究者が殆どいないため、同年5月から内閣官房のお手伝いをしている。</p> <p>しばらく休んでいたサイバーコートの研究を再開すると共に、弁護士会・裁判所・学会の仲介、研究促進に努めている。具体的には、8月・9月からドイツにおける進展とスペインの新システムの調査、情報ネットワーク法学会研究大会に於ける報告を行い。司法のIT化検討会(有識者会議)に裏方として参加し、会のドイツ出張の手配・視察を行い、通訳を兼務した。12月1日の第二回検討会ではドイツ・スペインの裁判所のIT化について報告した。</p>

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
諸外国におけるインターネット上の権利侵害情報対策に関する調査研究(調査研究報告書)	共著	2016年4月	総務省委託研究		ドイツ法制度担当
(学術論文)					
A Study of Ontology for Civil Trial(学会誌)	共著	2016年6月	Proceedings of the 1st International Workshop on Juris-informatics (JURISIN 2007)	伊藤篤宇都宮大学教授, 桐生雄也, 波多野裕之, 藤井雅彦, 渡辺裕宇都宮大学大学院生	抽出不能
民事事件の裁判記録のためのオントロジーに関する一考察	共著	2016年6月	電子情報通信学会誌	伊藤篤宇都宮大学教授, 桐生雄也, 波多野裕之, 藤井雅彦, 渡辺裕宇都宮大学大学院生	抽出不能
通信の秘密 — ドイツ法制の示唆	単著	2016年6月	情報ネットワーク・ロー・レビュー14巻		215-239頁
「インターネット上のなりすまし — 責任と証明」情報ネットワーク・ローレビュー	(翻訳・通訳)	2016年11月	情報ネットワーク・ロー・レビュー15巻会議録		
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「ペッパー」と法 — 新たな科学技術に対応する法改正は必要か?」(翻訳・通訳)	2016年5月	慶應義塾大学			
「データ保護規則(Datenschutz-Grundverordnung)と構成国の権利との関係」(翻訳・通訳) 日本ドイツ憲法判例研究会におけるカッセル大学アレクザンダー・ロスナーゲル教授講演	2016年10月	専修大学			
「SIGINT活動におけるバルクデータの意義 — ドイツ法の観点から」(シンポジウム報告・パネリスト)	2017年2月	サイバーセキュリティ研究会 http://lab.iisec.ac.jp/~hayashi/170612%20IPA2016.pdf			

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本私法学会、比較法学会、慶應法学会、民事訴訟法学会、法とコンピュータ学会、日本経営実務法学会、情報ネットワーク法学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
1985年 9月～現在	手続法研究所(慶應大学)理事
1999年 4月～現在	私立大学情報教育協会法律学教育FD/IT活用研究委員会委員 2016年よりアドバイザー
2002年 7月～現在	情報ネットワーク法学会設立発起人・役員
2004年10月～現在	私立大学情報教育協会産官学連携サイバーユニバーシティ構想推進会議委員
2006年 9月～現在	Japrico Club(キャンパスツール普及促進組織)運営委員

2008年4月～現在	名古屋大学法情報研究センター(JaLII)フェロー
2009年 3月～現在	農林水産省沖縄伊江村民泊プロジェクト専門家委員会委員
2013年11月～現在	人工知能学会法情報学国際ワークショッププログラム委員
2014年2月～現在	国立情報学研究所共同研究員

勝 亦 啓 文 (かつまた ひろふみ) 教授



出生年：1973(昭和48)年
 在籍：2005(平成17)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科民法専攻博士後期課程単位取得退学
 学位：法学修士
 学位論文：フランス労働法上の非典型協定
 専門分野：労働法
 前職：東京国際大学非常勤講師、青山学院大学非常勤講師
 学内役職等：キャリア情報センター長(2014～)
 留学：
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
地域商店街との連携活動	2011年～	相模大野北口商店会との連携による学生の地域活性化事業への参加
神奈川県警との連携活動	2013年～	神奈川県警本部生活安全総務課との連携による学生防犯活動への参加
2.作成した教科書、教材、参考書		
『社会保障法第5版』(有斐閣、2016)、レジュメ(社会保障法)	2009年～	
『労働法解体新書第3版』(法律文化社、2011)、レジュメ(労働法)	2011年～	
『アクチュアル労働法』(法律文化社、2014)、レジュメ(労働法)	2014年～	

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略			
就業規則をめぐる問題についての過去の裁判例、実務問題の調査にあたった。東京都および神奈川県の労働行政に協力して、普及啓発活動にあたった。			
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「多様な働き方をめぐる労働法」	2016年7月13日	神奈川県かながわ労働センター県央支所/海老名市 特定課題講座	海老名市役所
「基礎から学べる労働法知識①～③」	2016年9月29日～10月13日(3回担当)	神奈川県かながわ労働センター県央支所	アミュー厚木
「労働法の基礎知識①～③」	2016年10月26日～11月2日(全3回)	神奈川県かながわ労働センター湘南支所/秦野市	かなテクカレッジ西部
「労働法基礎セミナーin八王子」	2016年10月17日～10月27日(全4回)	東京都労働相談情報センター	八王子労政会館
「非正規雇用をめぐる労働法と紛争事例」	2016年11月18日	神奈川県かながわ労働センター川崎支所	神奈川労働センター川支所

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本労働法学会、日独労働法協会

河合 幹雄 (かわい みきお) 教授



出生年：1960(昭和35)年
 在籍：1993(平成5)年4月～
 最終学歴：京都大学法学部博士後期課程満期退学
 学位：法学修士
 学位論文：アメリカにおける被害者の権利運動
 専門分野：法社会学
 前職：京都大学法学部助手
 学内役職等：副学長(2016～)

留学：パリ第2大学博士課程
 資格：
 非常勤講師：一橋大学法科大学院・早稲田大学法学部
 受賞・表彰：第六回日本法社会学会奨励賞
 著書「安全神話崩壊のパラドックス」に対して
 日本法社会学会 第六回奨励賞 受賞(2005年5月)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1) 刑務所参観	2010年3月 9日 2012年2月22日 2014年3月19日 2016年3月1日	ゼミ生を引率して横浜刑務所参観 ゼミ生を引率して千葉刑務所参観 ゼミ生を引率して川越少年刑務所参観 ゼミ生を引率して府中刑務所参観
(2) ゼミ合宿	2012年8月30-31日 2013年9月1-2日 2014年9月12-13日 2015年8月20-21日 2016年 9月12-13日	九十九里浜(1泊2日) 河口湖(1泊2日) 伊豆高原(1泊2日) 房総白浜(1泊2日) 水上高原温泉(1泊2日)
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
『學士會会報』 第888号		「法学教育の見直しとエリートの役割変化」26頁～30頁
4.その他教育活動上特記すべき事項		
日本学術会議特任連携会員		大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会 法学教育の参照基準造り

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略					
科学研究費 基盤S「超高齢社会における紛争経験と司法政策」2016-20をスタート、裁判所記録の調査と裁判経験者への意識調査の準備をサブリーダーとして行った。人事院国家I種採用者初任者研修、同じく課長補佐研修、矯正研修所において研修講師を務めた。雑誌、新聞、テレビなどのメディアに出演し情報発信した。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「ビギナーズ犯罪学「犯罪現象・犯罪統計」	共著	2016年5月20日	成文堂	分担執筆	323～339頁

(学術論文)					
「『少年非行激減の刑事政策以外の要因を探る』」	単著	2016年6月25日	『青少年問題』第663号	-	26～33頁
「検察に期待せず検察審査会が甘利前大臣を起訴せよ——検察の不起訴理由は理解不能、裁判官が本当の判断をすべきだ」	単著	2016年7月8日	WEBRONZA	-	http://webronza.asahi.com/national/articles/201606270004.html
「相模原障害者施設殺傷事件をどう受け止めるべきか——金閣寺放火事件のような妄想による犯行か、騒がないという日本の伝統的な犯罪対策」	単著	2016年8月19日	WEBRONZA	-	http://webronza.asahi.com/national/articles/201608170005.html
「高齢者の万引きは本当に増えているのか(上)——一人暮らしの老人の犯行では駆けつける家族なく検挙に、見えにくい発生件数の実態」	単著	2016年12月14日	WEBRONZA	-	http://webronza.asahi.com/national/articles/201611300002.html
「高齢者の万引きは本当に増えているのか(下)——この10年間は微減傾向なのに、大きく報道された結果、増加している印象を与えている」	単著	2016年12月22日	WEBRONZA	-	http://webronza.asahi.com/national/articles/201611300005.html
「いじめと刑事事件の間にある距離とは——福島からの避難児の被害者の苦しみを理解しなかった横浜市教委」	単著	2017年3月14日	WEBRONZA	-	http://webronza.asahi.com/national/articles/201703060012.html
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
「犯罪・治安対策」	2016年5月16日～20日	人事院公務員研修所平成28年度 初任行政研修 政策課題研究:基調講演	人事院公務員研修所		
「法社会学 犯罪統計・実態・大衆の認識」	2016年9月6日	矯正研究所任用研修課程高等科研修	矯正研修所		
「治安対策と社会」	2016年10月31日・11月2日	平成28年度行政研修(課長補佐級)リーダーシップ研修	人事院・人事院公務員研修所		

○その他		
(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
科学研究費補助金(日本学術振興会)	2016年4月～2021年3月	基盤研究S「超高齢社会における紛争経験と司法政策」研究分担者
(雑誌・新聞記事等掲載)		
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン(43)―野球賭博はなぜ”悪”か? その構造的要因を探る」	2016年4月18日	『サイゾー』2016年5月号 90～91頁
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン(44)―法の恣意性とドラッグ それは、なぜ”悪”なのか?」	2016年5月18日	『サイゾー』2016年6月号 104～105頁
「インタビュー河合幹雄「人類が初めて遭遇する「寝たきり100歳社会」の悪夢 後編」	2016年6月2日	『週刊新潮』6月9日号 48頁
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン(45)―世界的麻薬ビジネスに潜む”共産化阻止”というアメリカの野望」	2016年6月18日	『サイゾー』2016年7月号 98～99頁
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン(46)―横須賀刑務所の処遇に見る繰り返される米軍犯罪の実態」	2016年7月18日	『サイゾー』2016年8月号 114～115頁
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン(47)―公職選挙法の理念に隠された体制側の思惑、そして欺瞞」	2016年8月18日	『サイゾー』2016年9月号 98～99頁
「コメント河合幹雄「相模原「障害者大量殺戮」の悲劇」	2016年8月21日	『サンデー毎日』2016年8月14-21日夏季合併号 20頁
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン(48)―相模原大量殺人事件に見る関係各所の対応の”見事さ”」	2016年9月17日	『サイゾー』2016年10月号 106～107頁
「記事内コメント「日弁連「死刑廃止」宣言へ冤罪事件受け方針変更」内」	2016年10月5日	東京新聞 2016年10月5日夕刊1面
「コメント河合幹雄「異常性愛者は”更生”できない!? 性犯罪と法のスリリングな関係」	2016年10月18日	『サイゾー』2016年11月号 50～53頁
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン(49)―和解すれば起訴はなし!? 民事と刑事のビミョーな関係」	2016年10月18日	『サイゾー』2016年11月号 106～107頁
「河合幹雄「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン(50)―フクイチ事故の刑事責任が不問に付される巧妙な”カラクリ”」	2016年11月18日	『サイゾー』2016年12月号 106～107頁
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン(51)―いじめ加害者を「殺人犯」にできない刑法の限界と、政府が探る”第3の道”」	2016年12月19日	『サイゾー』2017年1月号 98～99頁
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン(52)―「暴走する高齢ドライバー激増!」誤ったイメージ醸成の理由とは?」	2017年1月18日	『サイゾー』2017年2月号 104～105頁

インタビュー河合幹雄「【社会課題の解決には、まず正しい情報から。「みらい」にはその発信を期待します。」	2017年2月15日	『ウェブ機関誌「みらい」』
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン(53)依存症批判も暴力団批判も外れ!?カジノ法案がダメな本当の理由」	2017年2月18日	『サイゾー』2017年3月号 122～123頁
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン(54)将棋界激震の不正疑惑に見る”もみ消し”と第三者委員会の共通点」	2017年3月18日	『サイゾー』2017年4月号 122～123頁
(その他特記事項)		
「インタビュー河合幹雄【相模原事件】「戦後最大級の大量殺人」専門家が語る特殊性」2016年7月26日		
「電話出演 ニュース専門局 ホウドウキョク 「みんなで作る ニュースまとめ あしたのコンパス compass」「障害者施設で入所者刺され19人死亡26歳の男逮捕」2016年7月27日		
「電話出演 RKB毎日放送ラジオ 「どんどこサタデー」「相模原事件」2016年7月28日		
「コメント ytv 「情報ライブ ミヤネ屋」「戦後最悪”障害者19人刺殺”大量殺害 標的は障害者」2016年7月29日		
「インタビュー河合幹雄【埼玉河川敷事件】改めて注目集める少年事件 しかし、実は件数が激減している」2016年8月26日		
「河合幹雄「法」では少年犯罪は減らせない」2016年12月12日『Yahoo!ニュース』「少年法」厳罰化に効果はあるか」記事内		

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本法社会学会、日本法哲学学会、日本犯罪社会学会、日本被害者学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
1999年1月～現在	法務省矯正局「矯正処遇に関する政策研究会」委員	
2005年5月～現在	日本法社会学会理事	
2010年7月7日～現在	EMA(モバイルコンテンツ審査・運用監視機構)基準策定委員会委員	
2011年5月20日～現在	全国篤志面接委員連盟評議員	
2012年5月1日～現在に至る	日本学術振興会 博士課程教育リーディングプログラム委員会専門委員	
2013年4月9日～現在に至る	公益財団法人矯正協会業務執行役員候補者審議委員会委員	
2013年6月～現在に至る	日本被害者学会理事	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
河合隼雄財団を創設し評議員就任	2012年5月～現在	

小島 奈津子 (こじま なつこ) 教授



出生年 : 1970(昭和45)年
在籍 : 2004(平成16)年4月～
最終学歴 : 法政大学大学院社会科学部法律学専攻満期中退
学位 : 法学修士
学位論文 :
専門分野 : 民法
前職 :
学内役職等 :
留学 :
資格 :
非常勤講師 :
受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
ミニテスト(授業内)の実施	民法ⅠⅡにおいて	出席を促し、学習を促進するために、授業内テストを期末試験のほかに3回程度行っている。予告を前回授業でし、復習を促している。
契約法入門の配布	民法Ⅱにおいて	テスト前の勉強に役立てるため、学生に配布した。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
私法学会

竹内明世（たけうち あきよ）教授



出生年：1969(昭和44)年
在籍：1998(平成10)年4月～
最終学歴：中央大学大学院法学研究科博士後期課程
学位：法学修士
学位論文：金融機関の決済システムとその法的諸問題
専門分野：商法、銀行取引法、民法
前職：
学内役職等：
留学：
資格：
非常勤講師：明治学院大学法科大学院(2006年4月～9月)、横浜国立大学経済学部(2013年10月～2014年3月)、横浜国立大学経営学部(2014年4月～現在)
受賞・表彰：

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本私法学会、金融法学会、日本交通法学会、法文化学会、科学技術社会論学会、臨床法学教育学会

竹村 典良 (たけむら のりよし) 教授



出生年：1957(昭和32)年
 在籍：1993(平成5)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科刑事法専攻博士後期課程
 学位：法学修士
 学位論文：刑事学的コープテーションの動因・諸相・帰趨(中央大学)
 専門分野：刑事政策、犯罪学、被害者学、刑事法
 前職：中央大学法学部兼任講師
 学内役職等：研究推進部副部長(2014～)
 留学：チュービンゲン大学(ドイツ)(2002年8月～2003年3月)
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：第3回菊田クリミノロジー賞(2002年1月)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)双方向学生参加型授業の実践	2005年4月～現在	ゼミと講義形式の授業を融合し、質問応答形式の授業を展開(いわゆるソクラテスマETHODを実践)することによって、学生の授業参加意欲ならびに問題意識を高めている。
(2)授業外における学習促進のための刑事関係施設参観	1993年～現在	刑事政策の実務について資料をもとに学習した上で、刑事施設等を参観し、実務家との間で質疑応答を行い、現状と問題点を学んでいる(横浜刑務所、府中刑務所、網走刑務所、美祢社会復帰促進センター、島根あさひ社会復帰促進センター、久里浜少年院、東京少年鑑別所、横浜少年鑑別所、旭川保護観察所沼田就業支援センター)。また、旧施設を移築した監獄博物館を見学し、刑務所をはじめとする刑事施設の歴史を学んでいる(博物館網走監獄、月形権戸博物館、旧釧路集治監)。
(3)ゼミ論文集の編纂	2005年～現在	ゼミにおけるグループ研究、個別研究の集大成として、毎年度末にゼミ論文集『犯罪と社会正義』を編纂している。

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
難民・移民統制と犯罪統制の融合および普遍的人権の再構築～境界の拡散浸透、監視統制の普遍恒常化、危険/安全パラダイムの脱構築～	単著	2016年10月	桐蔭法学、第23巻第1号	-	1-29頁
○その他					
(補助金・助成金等)					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
科学技術の発達と社会の発展による環境・エコ犯罪に関する調査研究	2015年4月～2019年3月	科学研究費補助金(日本学術振興会)			

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
Société Internationale de Criminologie、European Society of Criminology、American Society of Criminology、Australian and New Zealand Society of Criminology、Academy of Criminal Justice Sciences. 日本刑法学会、日本犯罪社会学会、日本被害者学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2008年1月～現在	Asian Journal of Criminology 編集委員

出口 雄一 (でぐち ゆういち) 教授



出生年：1972(昭和47)年
 在籍：2004(平成18)年4月～
 最終学歴：慶應義塾大学大学院法学研究科公法学専攻後期博士課程単位取得退学
 学位：法学修士
 学位論文：占領期司法改革における法継受とA・C・オプラー
 専門分野：日本法制史、日本近現代史、法文化論
 前職：桐蔭横浜大学法学部非常勤講師
 学内役職等：法学研究科専攻長(2016～)
 留学：
 資格：
 非常勤講師：慶應義塾大学法学部
 受賞・表彰：

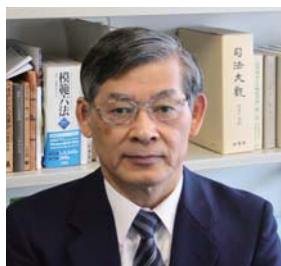
II 研究活動

○2016年度の研究活動概略					
第二次世界大戦後の占領期におけるアメリカ法継受と戦後法制改革の実証研究 GHQ法律スタッフの法思想の分析と「占領管理体制」の法的構造についての研究 近現代日本における刑事司法制度の変遷と国民の司法参加に関する研究 戦時・戦後初期の日本における法及び法学のあり方と「戦時体制」及び「戦後体制」の実証研究					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
『憲法判例からみる日本——法×政治×歴史×文化』	共編著	2016年9月20日	日本評論社	山本龍彦・清水唯一朗・出口雄一編	
『再帰する法文化』第6章「日本法理」における固有と普遍——小野清一郎の言説を中心として」	共著	2016年12月10日	国際書院	岩谷十郎編	143-174頁
(学術論文)					
From Social Law to Labor Law: The Change in Japanese Legal Theory in Connection with Social Law (Shakai-ho)	単著	2016年9月1日	Rechtsgeschichte – Legal History, Zeitschrift des Max-Planck-Instituts für europäische Rechtsgeschichte, Vol.24	—	373-379頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
戦時・戦後初期日本の法哲学における「超越」——小野清一郎、田中耕太郎、そして尾高朝雄	2016年7月30日	第42回日本近代法史研究会(慶應義塾大学)			

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2013年4月～現在	法文化学会理事
2014年4月～現在	法文化学会事務局

西 謙 二 (にし けんじ) 教授



出生年：1948(昭和23)年
 在籍：2014(平成26)年4月～
 最終学歴：一橋大学法学部
 学位：
 学位論文：
 専門分野：民法学、民事訴訟学、倒産法学
 前職：福岡高等裁判所判事
 学内役職等：
 留学：シュツットガルト地方裁判所等・ドイツ連邦共和国
 (1983年11月)
 資格：弁護士
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

II 研究活動

(総説・論説)					
「調査官判例解説」(平成4年7月17日第二小法廷判決)	単著	1992年	最高裁判所判例解説 民事篇	-	305頁
「調査官判例解説」(平成4年12月5日第三法廷判決)	単著	1992年	最高裁判所判例解説 民事篇	-	552頁
「調査官判例解説」(平成5年1月19日第三小法廷判決)	単著	1993年	最高裁判所判例解説 民事篇	-	1頁
「調査官判例解説」(平成5年3月16日第三小法廷判決)	単著	1993年	最高裁判所判例解説 民事篇	-	433頁
「調査官判例解説」(平成6年2月8日第三小法廷判決)	単著	1994年	最高裁判所判例解説 民事篇	-	163頁
「調査官判例解説」(平成6年3月22日第三小法廷判決)	単著	1994年	最高裁判所判例解説 民事篇	-	264頁
「調査官判例解説」(平成6年4月26日第三小法廷判決)	単著	1994年	最高裁判所判例解説 民事篇	-	334頁
「調査官判例解説」(平成6年10月25日第三小法廷判決)	単著	1994年	最高裁判所判例解説 民事篇	-	521頁
「調査官判例解説」(平成7年2月21日第三小法廷判決)	単著	1995年	最高裁判所判例解説 民事篇	-	85頁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
民事訴訟法学会

IV 法律実務に関する活動

任期、活動期間等	活動内容等
1990年4月～1995年3月	最高裁判所調査官(民事系)
2002年4月～2003年3月	東京高等裁判所判事(民事系)
2003年4月～2008年3月	東京地方裁判所判事(民事系)
2010年1月～2013年6月	福岡高等裁判所判事(民事系)

原 千砂子 (はら ちさこ) 教授



出生年 : 1955(昭和30)年
 在籍 : 1993(平成5)年4月～
 最終学歴 : 国際基督教大学大学院比較文化研究科博士後期課程
 学位 : 法学修士
 学位論文 :
 専門分野 : 政治思想史
 前職 : 長崎大学商科短期大学部助教授
 学内役職等 : 法律学科学科長(2016～)
 留学 :
 資格 :
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)英語の多読指導	2005年4月～現在	平易なgraded readingsを用いて、短時間に多量の英語をインプットすることにより、英語理解力の向上を狙った学習方法を、授業内に導入している。
(2)「日米法文化比較」の講義を英語で実施	2010年4月～現在	日本との比較に基づいてアメリカの社会・歴史と法との関わりを英語で講義。
4.その他教育活動上特記すべき事項		
(1)新規科目「ジェンダー論」を担当	2009年9月～現在	社会学、歴史学、心理学、生物学、政治学等の知見を広く用いながら、人間社会のジェンダー的構成についての理解を深めるための授業。学説史の説明に留まることなく、学生一人ひとりのジェンダー規範を問い直すことを目指し、学生の高い評価を得ている。

II 研究活動

○その他
(その他特記事項)
法学研究科修士論文審査

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
アメリカ学会、日本政治学会、政治思想学会、初期アメリカ学会

升 信 夫 (ます のぶお) 教授



出生年：1958(昭和33)年
在籍：1997(平成9)年4月～
最終学歴：東京大学大学院法学政治学研究科博士課程
学位：法学博士
学位論文：J. S. ミルの自由主義思想
専門分野：欧州政治思想史
前職：立教大学文学部非常勤講師
学内役職等：法学研究科長、学務部部長（2016～）
留学：ドイツ・チュービンゲン大学(2000年9月～2001年3月)
資格：
非常勤講師：
受賞・表彰：

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略

1. 明治中期修養思想の類型化
2. Bildungの概念史について
「修養」「教養」は、Bildung, cultureの訳語という性格も一面では持っていた。Bildungの概念史と修養、教養の概念史を比較することで、見えてくるものについて研究した。Bildungの場合、宗教的な事柄、あるいは超越性、無限といったこととの係わりを強く持っている。そのため、「聖化」の構造を軸にBildungの概念史を確認し、『桐蔭法学』23巻1号に、「聖化の様態からみるビルドゥング、修養、教養」を掲載した。この過程で、聖化の様態と仏教思想の関係を確認し、その視座から、清沢満之等の思想を再吟味するの必要を感じている。
3. 自由民権運動と「修養」
明治150年を前に、明治体制について再吟味が進んでいる。こうした流れを意識しつつ、自由民権運動と「修養」との関係を、植木枝盛、千葉卓三郎に注目しつつ纏め、『桐蔭法学』23巻2号に「儒学的残滓の規定性について」と題して掲載した。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本政治学会

村上 秀明 (むらかみ ひであき) 教授



出生年：1951(昭和26)年
 在籍：1993(平成5)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院体育科学研究科運動生化学専攻修了
 学位：体育学修士、農学修士
 学位論文：運動誘発性喘息(EIA)の成因について—chemical mediatorを中心として—(体育学)
 光合成細菌の肥料化について(農学)
 専門分野：公衆衛生学、健康科学、生理学、体育学
 前職：東京工業大学工学部助手, 国立身体障害者リハビリテーション研究所研究員, 国立小児病院アレルギー科研究員
 学内役職等：生涯学習副センター長 (2016～)
 留学籍：
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1) 体育実技(担当種目:バドミントン) 1) 優れた教育方法の実践例 ・オリジナルの出席カード(授業毎に内容・問題点の確認ができる) ・グループ学習によるオリジナルノート作成など 2) マルチメディア機器を活用した授業方法 ・ビデオ分析による指導 ・パソコンの動作分析ソフトを用いた問題点の確認と指導 3) 学生の授業以外における学習促進のための取り組み ・毎回、グループ毎の指導案作成 4) 学生や教員同士での授業評価等 ・半期毎に最初と最後にオリジナルの授業アンケート(学生用) ・教員は、最初に到達目標に対しての概要を提出し、最後に教員用アンケートに答え、教員相互の評価をする	2005年4月～現在	健康体力づくり・生活文化としてのスポーツについて理解を深め、自ら進んで楽しむための理論と実践を経験させている。特に、ラケット種目のバドミントンは個人技術の習得が重要となり、ゲーム(シングルス・ダブルス)を楽しむ為に中級者と初級者の交流もはかり、グループ学習を通して、集団と個人の有り方について再確認させている。内容は、基礎練習と試合を中心に授業の楽しみ方を適宜グループを変え、考えさせる。又、安全管理やマナーを習得させ、ビデオ解析による技術向上や万歩計による自己の健康・体力づくりの検討も行っている。特に、毎時間、反省・感想・意見を全員に書かせ、次回にフィードバックさせている。又、オリジナルのドリル練習方法や対戦表作成等を行い、常に授業に工夫を持たせている。
(2) 健康の科学 1) 優れた教育方法の実践例 ・オリジナルの出席カード(授業毎に内容・問題点の確認ができる) ・グループ学習によるオリジナルノート作成など 2) マルチメディア機器を活用した授業方法 ・ビデオ・CD・DVDによる授業 ・グループ学習での個人のデータやまとめをパソコンの入力し、分析ソフトを用いて、問題点の確認と指導 3) 学生の授業以外における学習促進のための取り組み ・3回に1回、メールにてレポート・資料の提出 4) 学生や教員同士での授業評価等 ・半期毎に最初と最後にオリジナルの授業アンケート(学生用) ・教員は、最初に到達目標に対しての概要を提出し、オリジナルの自己点検アンケートに答え、評価をする。	2005年4月～現在	この授業では、自ら監修した教科書「健康科学」を中心に「健康とは何か」について、オリジナルの資料やパワーポイントを用い授業を行っている。復習をかねての小テストによる確認、オリジナルの出席カード提出による学生とのコミュニケーションを図り、双方向の授業を行い、授業の充実を図っている。後半は、グループ学習による学生同士の活性化を図っている。

2.作成した教科書、教材、参考書		
教科書 (1)健康科学と運動実践 学術図書出版社(共著・監修)	2005年4月～	実技と理論の両方の授業で使用できるよう工夫した教科書で、健康と運動に関する新しい知見を取り入れている。
(2)健康科学(改訂版) 道和書院(共著・監修)	2005年4月～	「健康とは何か」について、多角的に考察を行っている教科書である。主な項目は、生命と健康・健康生活の実践・健康指標と生活習慣病の予防・現代生活とメンタルヘルス・人体の構造と機能・トレーニング処方・環境への適応・運動スポーツへの心理的適応・検査値の読み方・性の科学・健康と寿命で健康についてトータル的にとらえた新しい教科書となっている。
(3)生理学 化学同人(共著)	2016年4月～	「生理学とは何か」について、健康スポーツ関係を初めて学ぶ人のための教科書である。主な項目は、細胞、神経系、筋、骨格、心臓、血管系、呼吸器系、腎臓、消化と吸収、自律神経系、脳、内分泌系、代謝生理、血液及び生体防御、性・生殖で生理学についてトータル的にとらえた新しい教科書となっている。
教材 (4)プロジェクト・ノート(ゼミ用) (単著)学内印刷による非売品	2005年4月～	学生生活を充実させるためのゼミノートで、自発的実践をサポートするための資料やマニュアルが中心。具体的な事例が多く記載されていて、主な内容は生活表の記入・自己分析・ストレス対処法・行動療法(学習・生活習慣など)等である。尚、毎年改訂し、工夫している。
(4)その他、作成した教材は多数		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
(1)内部疾患と処方(免疫を中心として)	2005年4月～(毎年1回)	国立身体障害者リハビリテーションセンター

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本学校保健学会、日本公衆衛生学会、日本発育発達学会、日本体力医学会、日本運動生理学会、日本体育学会、日本肥満学会、日本陸上競技学会、日本ゴルフ学会

森 保 憲 (もり やすのり) 教授



出 生 年 : 1961(昭和36)年
在 籍 : 2003(平成15)年4月～
最 終 学 歴 : 中央大学大学院法学研究科博士後期課程満期退学
学 位 : 法学修士
学 位 論 文 : フランス第5共和制における「違憲審査制」
専 門 分 野 : 憲法
前 職 : 青森中央学院大学経営法学部専任講師
学 内 役 職 等 :
留 学 : ドイツ チュービンゲン大学(2008年9月～2009年3月)
資 格 :
非 常 勤 講 師 :
受 賞 ・ 表 彰 :

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本公法学会、法文化学会、青森法学会、全国憲法研究会、憲法理論研究会、ドイツ憲法判例研究会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2013年4月～	ドイツ憲法判例研究会運営委員

谷田部 玲 生 (やたべ れいお) 教授



出生年：1956(昭和31)年
 在籍：2009(平成21)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院修士課程教育研究科教育専攻社会科
 コース修了
 学位：教育学修士(筑波大学)
 学位論文：
 専門分野：教科教育学(社会科教育・公民教育)
 前職：国立教育政策研究所教育課程研究センター基礎研究部
 総括研究官
 学内役職等
 留学：
 資格：中学校教諭一級普通免許状(社会)、高等学校教諭一級
 普通免許状(社会)
 非常勤講師：東京学芸大学
 受賞・表彰：日本教育研究連合会表彰(2010年12月)

I 教育活動

2.作成した教科書、教材、参考書		
「小学社会」(日本文教出版)	2015年4月より供給	
「中学社会」(日本文教出版)	2016年4月より供給	
「高等学校 現代社会」(第一学習社)	2013年4月より供給	執筆者代表
「高等学校 新現代社会」(第一学習社)	2013年4月より供給	執筆者代表
「高等学校 政治・経済」(第一学習社)	2013年4月より供給	

II 研究活動

○その他		
(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
毎年数回主に調査のために外国出張		

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本社会科教育学会、全国社会科教育学会、日本公民教育学会、中等社会科教育学会、社会系教科教育学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
1998年4月～現在	日本社会科教育学会幹事
2000年4月～現在	日本社会科教育学会評議員
2002年6月～現在	全国高等学校NIE研究会顧問
2005年4月～現在	全国社会科教育学会理事
2014年4月～現在	中等社会科教育学会理事
2016年4月～現在	日本公民教育学会会長

(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
高等学校学習指導要領解説公民編作成協力者	～2009年11月	文部科学省
「教科書・教材のデジタル化に関する調査研究(その2)」社会科部会部会長	2013～2017年度	公益財団法人教科書研究センター
教科書研究センター調査研究企画委員会委員	2014年4月～現在	公益財団法人教科書研究センター

山口 裕博 (やまぐち やすひろ) 教授



出生年：1951(昭和26)年
 在籍：1994(平成6)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科博士後期課程民事法専攻
 学位：博士(法学)
 学位論文：芸術と法—英米法を中心とする学際的研究—
 専門分野：英米法、民法
 前職：女子美術大学芸術学部助教授
 学内役職等：
 留学：ウィスコンシン大学ロースクール客員研究員(アメリカ合衆国)
 資格：
 非常勤講師：国立音楽大学音楽学部、女子美術大学芸術学部
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
講義科目における受講生の理解を深め、知識を定着させるための授業の実践		講義科目の授業において、双方向型の授業を展開させ、受講生の理解度を深めるため、毎時間ごとに授業内容を確認する小テストを実施し、次の授業時に解説をすることで知識を定着させるとともに、授業内容に連続性を持たせる工夫を行った。

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略
比較契約法の領域においては、引き続きイギリス法における契約解釈に焦点を当て、イギリス契約法が国内外における取引社会の動向に対応すべき要請に直面しながらも、頑なに独自の立場を維持する姿勢を崩さないことにつき、契約当事者の契約上の裁量に対する司法的規制を検討するとともに、黙示的契約法理の展開に加えて、とりわけ一般条項としての信義則の受容現状について、コモンロー圏でもカナダ最高裁がそれを受容表明したことと対比する研究を行った。これらの成果を踏まえて、比較法的視点から日本法における契約解釈の在り方についての検討を加えていきたいと考えている。芸術法領域においては、音楽著作物の著作権保護の在り方についての研究を行い、その成果を「音楽大学の授業における音楽著作物の利用と演奏権」と題して桐蔭論叢誌上で発表した。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
比較法学会、日米法学会、信託法学会、日本EU学会、日本私法学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2016年11月～現在	一般社団法人平井澄子記念音楽振興会専務理事

秋田 知子 (あきた ともこ) 准教授



出生年：1973(昭和48)年
在籍：2005(平成17)年4月～
最終学歴：桐蔭横浜大学法学研究科博士後期課程
学位：法学修士
学位論文：文書提出命令の改正と文書管理のあり方～特に企業法務部門における訴訟管理対策への指針として
専門分野：民事法
前職：桐蔭横浜大学法科大学院教育助手
学内役職等：
留学：
資格：
非常勤講師：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)裁判法 I	2007年9月1日～	初学者向けに穴埋め式の教材を作成し、授業ごとに配布し、知識の確認を行った。
(4)民事訴訟法	2014年～	初学者向けに○×形式の教材を作成し、授業ごとに配布し、知識の確認を行った。
(5)民事執行保全法	2015年～	初学者向けに○×形式の教材を作成し、授業ごとに配布し、知識の確認を行った。
2.作成した教科書、教材、参考書		
(2)英語A-1、A-2で使用した教材	2013年4月～	2009年～2013年まで使用していた本学大学生向けテキストを改訂し出版した。

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略
引き続き、アメリカの法律扶助について研究を行った。特に弁護士を付ける権利と本人訴訟の関係性について検討を行った。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本交渉学会、日本民事訴訟法学会

麻妻 和人 (あさづま かずひと) 准教授



出生年：1969(昭和44)年
 在籍：2005(平成17)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科博士前期課程修了
 学位：法学修士
 学位論文：捜査の規律に関する一考察 ―盗聴―
 専門分野：刑事訴訟法
 前職：桐蔭横浜大学法科大学院教育助手
 学内役職等：
 留資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略					
刑事裁判の諸制度とりわけ裁判員裁判における評議の秘密について、アメリカ合衆国の陪審評議の例を参考にしながら検討を行った。憲法の求める公平な裁判の内容についての検討。比較法研究所米国刑事法研究会への参加。論文：「公平・公正な裁判と評議の秘密」『新時代の刑事法学―椎橋隆幸先生古稀記念(上巻)』(信山社)2016年所収。刑事判例評釈：「臨場した弁護士が、職務質問に応じない旨を明確に示しているのに、これを無視する形で行われた被疑者に対する有形力の行使が任意捜査の限界を超える違法なもの」とされた事例(東京高判平成27年10月8日 判例タ1424号168頁)刑事法ジャーナル(成文堂)51号。刑法学会大会、被害者学会大会参加。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「公平・公正な裁判と評議の秘密」	単著	2016年11月	『新時代の刑事法学―椎橋隆幸先生古稀記念(上巻)』(信山社)2016年	井田 良、川出 敏裕、高橋 則夫、只木 誠、山口 厚	427頁～448頁
(刑事判例評釈)臨場した弁護士が、職務質問に応じない旨を明確に示しているのに、これを無視する形で行われた被疑者に対する有形力の行使が任意捜査の限界を超える違法なもの」とされた事例(東京高判平成27年10月8日 判例タ1424号168頁)	単著	2017年2月	刑事法ジャーナル(成文堂)51号	-	103頁～108頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(研究報告)Montgomery v. Louisiana, 577 U.S. __ (2016)	2017年3月1日	米国刑事法研究会(中央大学市ヶ谷キャンパス)			

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本刑法学会 日本被害者学会、警察政策学会

韓 寧 (かん ねい) 准教授



出生年：1974(昭和49)年
 在籍：2007(平成19)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科博士後期課程
 学位：法学博士
 学位論文：中国における調停に関する理論及び実証的な検討一日・米法との比較の視点から
 専門分野：紛争処理法、比較法、中国法
 前職：北京法務局
 学内役職等：
 留学：群馬大学社会情報学研究科修士課程、中央大学法学研究科博士後期課程
 資格：中国弁護士
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略					
2016年度、引き続き日中民事訴訟法の比較に取り組んでおり、また、中国の司法アクセス状況にも取り組んでおりました。研究成果は、『日中民事訴訟法比較研究』(九州大学出版会)に登載しております。また、翻訳した『和解技術論』という本が中国法制出版社によって出版されております。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
『調解技術論』	共訳	2016年10月	中国法制出版社	姜雪蓮と共訳	1頁～106頁、185頁～223頁
(総説・論説)					
(論考) 法院調停に関するコメント	単著	2017年3月15日	『日中民事訴訟法比較研究』	九州大学出版会	299頁～306頁
(学術論文)					
「司法アクセスの視点から見た中国の民事訴訟」	単著	2017年3月15日	『日中民事訴訟法比較研究』	九州大学出版会	72～94頁
○その他					
(海外出張)					
用件		出張期間		出張先	
法学部三年次編入学学生募集		2016年5月11日～2016年5月14日		華東政法大學(上海)、南京師範大學(中国)	

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
仲裁ADR法学会、民事訴訟法学会、司法アクセス学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2007年4月～現在	中央大学日本比較法研究所嘱託研究員

谷 脇 真 渡 (たにわき まさと) 准教授



出 生 年 : 1974(昭和49)年
 在 籍 : 2005(平成17)年4月～
 最 終 学 歴 : 桐蔭横浜大学大学院法学研究科博士後期課程
 学 位 : 修士(法学)
 学 位 論 文 : 抽象的事実の錯誤における「符合の実質化」とその限界
 専 門 分 野 : 刑法
 前 職 : 桐蔭横浜大学法科大学院教育助手
 学 内 役 職 等 :
 留 学 :
 資 格 :
 非 常 勤 講 師 : 神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部
 受 賞 ・ 表 彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
刑法 I・II	2007年～現在	講義用レジュメの作成および授業での活用 双方向授業の実践 スマート・キャンパスの活用
社会科学特別講義Ⅲ	2015年～現在	テーマについて学生の理解を促進させるためのパワーポイントや映像教材の活用 スマート・キャンパスの活用

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略					
1.故意と錯誤に関する研究の一環として、先に桐蔭法学研究会において報告した「業務上過失致死傷罪における『業務概念』の再検討」を加筆修正し、桐蔭法学(第23巻1号31～48頁)に発表した。引き続き、故意と錯誤およびこれに関連する問題点についても研究し、さらに発展させていきたい。 2.夏休み期間中である8月31日に、本学出身でノースアジア大学法学部法律学科の秋山栄一准教授の3・4年生ゼミと私の法律ゼミ(3年生)とで「安楽死と尊厳死」、「責任能力」というテーマで合同ゼミを本学で開催し、各テーマについて討論するとともにゼミ生同士交流・親睦を深めた。 3.すでに桐蔭法学(第20巻1号)で発表してあった翻訳と他の共訳者が行った翻訳をまとめものが、「ドイツ刑事訴訟法演習 -- 君の知識を試そう」として公刊された。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「ドイツ刑事訴訟法演習 -- 君の知識を試そう」 Claus Roxin / Hans Achenbach, Strafrecht:Prüfung dein Wissen, 16. Auflage	共著	2017年3月	成文堂	光藤景皎・吉田宣之[編訳] 秋山栄一, 斎藤司, 田淵浩二, 辻本典央, 松倉治代, 山名京子, 四條北斗	40-76頁
(学術論文)					
「刑法211 条前段「業務上過失致死傷罪」における業務概念の再検討」	単著	2016年10月25日	桐蔭法学 第23巻第1号	桐蔭法学会	31-48頁

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
業務上過失致死傷罪における「業務概念」の再検討	2016年5月	桐蔭法学研究会	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本刑法学会

長濱博文(ながはま ひろふみ) 准教授 (2017年度 新任教員)



出生年：1967(昭和42)年
 在籍：2017(平成29)年4月～
 最終学歴：九州大学大学院人間環境学府発達社会システム専攻博士
 後期課程修了
 学位：博士(教育学)
 学位論文：「フィリピンの統合科目における価値教育に関する研究」(博士論文)
 専門分野：比較国際教育学、教職論、ユネスコ価値教育
 前職：目白大学人間学部子ども学科准教授
 学内役職等：
 留学：サンディエゴ州立大学大学院(米国)(2009年12月～2000年12月)
 資格：(剣道 三段)
 (書道 四段)

非常勤講師：創価大学教育学部
 受賞・表彰：

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略					
震災等を経験した地域の諸学校において期待される道徳教育等の心の教育の可能性を高める方途を探る為、東日本大震災を経験した東北、巨大台風ハイエンを経験したフィリピンを比較対象とし、それぞれの地域における心の教育の授業実践と評価法について、ナラティブ・アプローチの観点から比較考察する。そして、心の教育において有効と考えられる授業実践と評価法の共通項を抽出する。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
『フィリピンの市民性教育—アセアンのための教育』	共著	2017年3月	『アセアン共同体の市民性教育』東信堂	平田利文編	173-202頁
(学術論文)					
「ナラティブ・アプローチによる学校教育における環境教育の再検討—釜石市諸学校の防災教育からのちの教育への取り組みを中心に—」	単著	2016年9月	『東アジア研究』第20号、東アジア学会	長濱博文	25-43頁
○その他					
(補助金・助成金等)					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
『平成27-29年度科学研究費基盤研究(C)』研究代表者	2015年4月～2018年3月	日本学術振興会、「自己肯定感を促進する地域的ナラティブ形成に関する国際比較研究」			
『平成27-29年度科学研究費基盤研究(B)』研究分担者	2015年4月～2018年3月	日本学術振興会、「アジアにおける大学入試の多様化と高大接続プログラムの標準化に関する国際比較研究」[研究代表者 小川佳万 教授、他分担者12名]			

(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
第10回アジア比較教育学会[The 10th CESA Biennial Conference, Manila, Philippines, 28-30 January, 2016]での発表	2016年6月28日～30日	デ・ラサール大学(フィリピン)

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本比較教育学会、日本国際理解教育学会、日本道德教育学会、日本グローバル教育学会、ホリスティック教育協会、日本カリキュラム学会、日本道德教育方法学会、大学教育学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2015年4月～	日本グローバル教育学会 理事

茂木 洋平 (もぎ ようへい) 准教授



出生年：1981年10月
 在籍：2012年4月～
 最終学歴：東北大学大学院法学研究科後期博士課程修了
 学位：博士(法学)
 学位論文：Affirmative Actionの正当化法理 ～アメリカの判例と学説を中心に～
 専門分野：憲法
 前職：熊本学園大学経済学部リーガル・エコノミクス学科助教
 学内役職等：
 留学：
 資格：
 非常勤講師：横浜市立大学(2013年4月～)
 関東学院大学法科大学院(2016年4月～)

受賞・表彰：東北大学男女共同参画奨励賞(沢柳賞)研究部門

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
吉田仁美・渡辺暁彦編『憲法判例クロニクル』(ナカニシヤ出版)	2016年5月	

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略					
<p>2016年は、アファーマティヴアクション(AA)に判例の新しい動きがあり、それを評釈した(「大学の入学者選抜におけるAffirmative Actionと厳密な厳格審査：Fisher v. University of Texas, 136 S. Ct. 2198 (2016)」, 単著, 桐蔭法学23巻1号(桐蔭法学会)49-63頁)。この判例研究については、学会で報告を行った(「Fisher v. University of Texas, 136 S. Ct. 2198 (2016)——大学の入学者選抜における人種の使用は、目的審査では大学の判断を敬譲するが、手段審査では敬譲しない厳格審査の下で、合憲とされた事例」, 単独発表, 日米法学会, 東京大学, 2016年12月)。</p> <p>人種に基づくAAには、厳格審査が適用されることが明らかにされているが、厳格審査が如何なるものか、学説上、その内実は正確に捉えられていない。2016年は、AAだけでなく、平等関連の判例で厳格審査が何を意味するのかについて、包括的な研究を行った。その過程で、厳格審査はAAの実施機関の裁量に応じて、裁判所がその判断を敬譲し、厳格度を上下させていることが明らかとなった。2016年は、特に大学の裁量について研究し、これをまとめた成果を2017年中に公刊する予定である。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「大学の入学者選抜におけるAffirmative Actionと厳格審査：Fisher v. University of Texas, 136 S.Ct. 2198 (2016)」	単著	2016年10月	桐蔭法学23巻1号		49-63頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「Fisher v. University of Texas, 136 S. Ct. 2198 (2016)——大学の入学者選抜における人種の使用は、目的審査では大学の判断を敬譲するが、手段審査では敬譲しない厳格審査の下で、合憲とされた事例」	2016年12月	日米法学会判例部会	東京大学		

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本公法学会 憲法理論研究会 全国憲法研究会 日米法学会 東北大学公法判例研究会

箭野 章五郎(やの しょうごろう) 専任講師



出生年：1967(昭和42)年
 在籍：2015年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科刑事法専攻博士後期課程修了
 学位：博士(法学)
 学位論文：「刑事責任能力の研究」
 専門分野：刑事法
 前職：獨協大学法科大学院特任助教
 学内役職等：
 留学：
 資格：
 非常勤講師：明治学院大学法学部、中央大学法学部
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
新・判例ハンドブック 刑法総論 高橋則夫ほか編、共著、日本評論社	2016年9月21日	

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略					
刑事責任能力についての研究を継続して行った。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
責任能力と精神鑑定(特集 責任能力を巡る諸問題)	単著	2016年7月	法学教室430号		22-28頁
医療観察法鑑定における鑑定の拘束力について	単著	2017年3月	椎橋隆幸先生退職記念論文集 法学新報123号9・10号		435-453頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
研究報告「責任能力制度の理解と事前責任論」	2016年5月21日	日本刑法学会第94回大会(名古屋大学東山キャンパス 愛知県名古屋市)			
○その他					
(その他特記事項)					
2016年度総合起案演習 刑事系 I (刑法)問題作成と解説 中央大学エクステンションセンター法職事務室発行					

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
日本刑法学会	
2017年4月～現在	日本医科大学多摩永山病院倫理委員会 倫理委員

浅岡 慶太 (あさおか けいた) 助教



出生年：1974(昭和49)年
在籍：2001(平成13)年4月～
最終学歴：桐蔭横浜大学大学院法学研究科博士後期課程満期退学
学位：法学修士
学位論文：若者から少年へ—ドイツ少年刑法の歴史的前提
専門分野：ヨーロッパ近代法史
前職：
学内役職等：
留学：チュービンゲン大学(ドイツ)(2004年7月～2005年3月)
資格：
非常勤講師：
受賞・表彰：

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略

プロイセン一般ラント法(1794)第2編19章「救貧施設とその他の慈善的な基金について」研究してきたが、これに関連して近世初期ドイツの救貧行政や当時の貧困に対する行政や教会の思考について研究した。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日独法学会
青森法学会

高瀬 武志(たかせ たけし) 助教



出生年：1986(昭和61)年
 在籍：2014年(平成26)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院人間総合科学研究科体育学専攻博士前期課程修了
 学位：体育学修士
 学位論文：武士道思想における死生観に関する研究
 専門分野：武道学・日本思想史・死生学・剣道
 前職：桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部助手
 学内役職等：大学剣道部監督・高校剣道部コーチ・法学部体育科主任
 留学：
 資格：中学校・高等学校教諭1種免許(保健体育)・剣道六段
 非常勤講師：東京都市大学
 受賞・表彰：神奈川県スポーツ優秀選手表彰・神奈川文化賞スポーツ賞・筑波大学体育専門学群長賞・桐蔭横浜大学法学部エクセレントティーチャー賞

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
映像資料と教科書によるより深い知識の理解と習得	2016年	人文科学特別講義内における各単元における教科書と映像資料の連動による獲得知識の深化をはかる
2.作成した教科書、教材、参考書		
人文科学特別講義 I「武」を学ぶ	2016年	武道種目である剣道、柔道、相撲、弓道、空手、合気道、少林寺拳法、なぎなた、銃剣道について詳細に解説している。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
綾瀬市中体連剣道講習会 講師	2016年～	綾瀬市中体連主催の剣道講習会に講師として参加し中学生に剣道の基礎的技術や伝統を指導している。
4.その他教育活動上特記すべき事項		
福島県相馬市への被災地支援 剣道講習会	2014年～	福島県立相馬高校において被災地支援の一環として講習会を開催し、地元の子供たちとの触れ合いを大切にしている。

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略					
武士道思想における死生観について文献学的手法を用いて研究をすすめている。 剣道指導について実践的経験的手法において研究をすすめている。 体育実技科目におけるアクティブ・ラーニングの導入と三者共学(経験者・未経験者・教員)システムの構築へむけた研究をすすめている。 地域連携型教育としてサービスラーニングを取り入れた課外活動における教育法の研究をすすめている。 被災地支援を通じた学生における意識調査や指導体験を通じた人間教育への研究もすすめている。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
人文科学特別講義 I「武」を学ぶ	単著	2016年	桐蔭学園印刷所		1-120頁
剣道時代新企画「本番で力を出し切る」若手剣道家たちのルーチン	共著	2016年9月1日発行	(株)体育とスポーツ出版社	編集人:小林伸郎	32-33頁

(学術論文)					
武士道思想における死生観に関する一考察 -「下剋上」を中心に-	単著	2016年12月	桐蔭論叢第35号	高瀬武志	pp. 89-96
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目		年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名	
体験から学ぶ復興支援-相馬高校剣道部との交流を通じて-		2016年12月	医療ガバナンス学会	高瀬武志	
「復興は教育から」と信じて-相双地区における剣道交流会を通じて-		2017年3月	医療ガバナンス学会	高瀬武志	
被災地支援の屋台骨として-多くの出会いと学び、そして感謝-		2017年3月	ハフントン・ポスト 医療ガバナンス学会	高瀬武志	
○その他					
(雑誌・新聞記事等掲載)					
記事タイトル		掲載日	雑誌・新聞等名称		
剣道時代新企画「本番で力を出し切る」若手剣道家たちのルーチン		2016年9月1日発行	剣道時代2016年9月号		
福島民友新聞「東日本大震災特集」		2017年3月11日	福島民友新聞(地域版)		
(その他特記事項)					
NHKラジオ第1「マイあさラジオ」の復興へのメッセージ 出演(2016年12月17日)					

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本武道学会・身体運動文化会・日本武道学会剣道専門分科会・スポーツ法学会		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
東日本大震災復興支援活動	2012年～	福島県立相馬高校剣道部や近隣剣道場との交流
はまっ子ふれあいスクール剣道体験教室	2014年～	あざみ野第二小学校において開催
キッズクラブ剣道教室 主任講師	2017年～	鴨志田第一小学校
NPO法人わくわく教室 剣道 主任講師	2017年～	あざみ野第一小学校

Ⅳ 芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
第61回春季神奈川県学生剣道選手権大会	2016年6月	鶴見大学体育館	女子団体戦:第三位 男子個人戦:準優勝(長谷川)
第5回東都学生剣道優勝大会	2016年7月	城西大学体育館	女子団体戦:優勝 女子個人戦:第三位(江頭)
第6回東都学生剣道優勝大会	2016年10月	城西大学体育館	男子団体戦:第三位 女子団体戦:第三位 女子個人戦:優勝(江頭)第三位(牛込)
全日本学生オープン剣道大会	2016年12月	北海道	男子三段以下の部:第三位(石井・布施)

医用工学部 (Faculty of Biomedical Engineering)

生命医工学科 (Department of Medical Technology)

小寺 洋 (こでら よう) 教授



出生年 : 1962(昭和37)年
在籍 : 1988(昭和63)年4月～
最終学歴 : 東京工業大学理学部
学位 : 理学博士
学位論文 : Chemical modification of proteins and biological substances with polyethylene glycols.
専門分野 : 生物化学、タンパク質工学
前職 :
学内役職等 : 研究推進部部长(2014～)
研究推進部副部长(～2011)
留学 :
資格 :
非常勤講師 :
受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)学生の授業外による学習促進のための取組	2005年～現在	・毎回授業の最初15分程度を割り、前回の講義内容を中心に小テストを課している。・基礎学力が不十分な学生に関してはIndecafeへ誘導して個別指導を行わせている。
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)市販教科書からの引用により作成したプリント	2005年～現在	参考のため配布している。

II 研究活動

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
“Epistatic interaction between fcgr2b and Slam family genes in susceptibility to defective foreign protein-induced tolerance”	2016年12月5日～7日	日本免疫学会 沖縄	NISHIMURA Hiroyuki, FUJII Takuma, OBATA Masaomi, OHTSUJI Mareki, KODERA Yo , TAKAI Toshiyuki, SUDO Katsuko, HIROSE Sachiko

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本生化学会、日本免疫学会

齋藤 潔 (さいとう きよし) 教授



出生年：1956(昭和31)年
 在籍：1990(平成2)年3月～
 最終学歴：筑波大学大学院博士課程
 学位：理学博士、学術修士(環境)
 学位論文：Synthesis and Applications of Hemin Copolymer as Polymer Reagents
 専門分野：有機化学、高分子化学、機能性高分子化学、環境科学
 前職：通産省工業技術院製品科学研究所博士研究員(非常勤)
 学内役職等：学生部長(2010～2013)

留學：なし
 資格：(社)ネイチャーゲーム協会初級指導員
 非常勤講師：なし
 受賞・表彰：松籟科学技術振興財団研究助成(1996)、日本環境教育学会浦野環境教育奨励金(2000)、第9回コカ・コーラ環境教育賞奨励賞(2002)、(公益社団法人)日本化学会 化学教育賞(2015)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
学生実験、講義、演習の内容の関連付け、講義内への演示・参加型実験プログラムの組み込みの実施と改善	1993年度～現在	同一学期に開講される学生実験、講義、演習で担当科目を完全に内容を一致させるようにし、重要な概念が繰り返し学生に伝わるよう配慮した。レポート作製についても、実験時間や演習で、個別に指導するようにした。生命環境システム工学科の2年次の有機化学I,II,および、今年度生命医工、電子情報工学科2年次の有機化学I,II,において、学生の状況に合わせた実験プログラムを立ち上げ、講義時間に組み込んだ。
なんでも相談室、インディーカフェ 企画	1999年度～現在	オフィスアワーを学生に公開し、講義の補講、実験レポートの作成に関する個人相談を受け付けている。
高校生に対する課題研究指導	1996年度～現在	桐蔭高校、県内工業高校の生徒に対する課題研究の指導を行っているテーマは地球環境、導電性ポリマーなどである。
ブレイクストームングによる討論や、演習、発表などを講義の中で実施	2005年～現在	環境調和化学において国際的な環境問題を取り上げ、さらに、キャリア研究ではかだいについての小論文をまとめるための演習としてブレイクストームングを実施した 地域の小学生に対する、環境教育プログラムの開発と継続的な実践を行っている。
課外学習としてプロジェクト研究の単位化とその指導	2002年～現在	各研究室でのテーマの認定と、日本化学会普及交流委員会の化学普及活動と連携して出前実験教室を実施し、現在までに学会より250枚の感謝状が学生に「授与された。
文部省サイエンス・ボランティア(現文部科学省)、(社)日本ネイチャーゲーム協会初級指導員、環境庁こどもエコクラブ(現環境省)の環境教育活動	1995年度～現在	日本化学会の化学普及行事の企画、実施を委員として行っている。
(8) 公益社団法人 日本化学会 教育・普及部門 普及交流委員会委員、及び実験体験小委員会委員長	2012年～現在	(7)の活動を継続している。また、東日本大震災の被災地からの依頼で気仙沼、石巻、南相馬の仮設や小学校、幼稚園、図書館で実験教室を行った。

2.作成した教科書、教材、参考書		
(学内版教科書) 応用化学実験、機能化学工学実験、生命・環境システム実験テキスト電子情報工学科1,2年実験テキスト	1992年度～現在	2年次、3年次の有機化学系学生実験のテキストを作成し、配布している。
有機化学、反応有機化学、有機合成化学、理論有機化学問題集、有機化学I,II、生命医工学科有機化学I,II、高分子化学	1993年度～現在	2年次、3年次の有機化学系講義の副読本(問題集)を作成し、配布している。
生物有機化学、環境科学資料、環境調和化学、生物無機化学、大学院環境調和学特論	1993年～現在	講義資料を編集してテキストとして配布している。
課題研究及び化学普及活動用テキスト、資料	1995年度～現在	「化学は地球を救う」、「導電性ポリマーをつくってみよう」、「あやしい化学実験ノート」、「おもしろ理科教室テキスト」、「ミニ地球をつくろう」などの資料を作成し、配布した。
生命医工学科用の有機化学基礎、有機化学I, II, 高分子化学(生体高分子)	2010年～現在	臨床検査技師を目指す学生や生命科学志向の学生向けの内容に全面改定した教科書を作成して配布している。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
自己点検評価	1994年度～現在	年2回学生に対する担当講義のアンケートに基づき大学自己点検評価委員会に報告している。アンケートの結果について積極的に次年度の授業改善のために利用している。
4.その他教育活動上特記すべき事項		
公益社団法人 日本化学会 教育・普及部門普及交流委員会委員、及び実験体験小委員会委員長	2012, 2013, 2014, 2015, 2016 年	本学の学生を出前実験教室のTAとしての活動に参加させて、その活動に対する日本化学会会長からの感謝状の授与が継続している。また、東日本大震災の被災地からの依頼で気仙沼、石巻、南相馬の仮設や小学校、幼稚園、図書館で実験教室を行った。

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
カガクへの視点「理系か文系か」(巻頭言)	単著	2016年6月	化学同人「化学」、71巻、6号	齋藤 潔	11頁
○その他					
(表彰・受賞)					
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)		
公益社団法人 日本化学会 化学教育賞	2016年	公益社団法人 日本化学会	齋藤 潔		
(補助金・助成金等)					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
わくわく実験教室	2011年、2012年、2013年、2014年、2015年、2016年	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会の4団体で構成)			

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本化学会、日本化学会生体機能関連化学部会、有機合成化学協会、高分子学会、民族自然史研究会、日本内分泌攪乱化学物質学会、日本環境教育学会、植物化学調節学会、こども環境学会

任期、活動期間等	学会等における役職等	
1995年～現在	文部科学省専門教育課サイエンス・ボランティア登録	
1996年～現在	(社)ネイチャーゲーム協会初級指導員	
2011年4月～現在	公益社団法人日本化学会教育・普及部門普及交流委員会 実験体験小委員会委員長	
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
科学技術館 夏休み子ども化学実験ショー、わくわく実験教室 やってみよう！不思議な化学実験！砂糖水で手品？	2016年8月6日、7日	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会)で構成
南相馬市立中央図書館 南相馬市教育委員会共催 わくわく実験教室 犯人は誰だ？化学の技で謎を解け！	2016年8月9日、10日	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会)で構成
荒川区東日暮里ふれあい館、荒川区西日暮里ふれあい館、 わくわく実験教室 やってみよう！不思議な化学実験！砂糖水で手品？	2016年8月	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会)で構成
葛飾区青空っ子 亀有学び交流館、 カレー焼きそばと色の変わる試験紙	2016年9月	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会)で構成
町田市立南成瀬小学校 わくわく実験教室 やってみよう！不思議な化学実験！砂糖水で手品？	2016年9月	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会)で構成
江戸川区立小松川小学校 わくわく実験教室 やってみよう！不思議な化学実験！砂糖水で手品？	2016年10月	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会)で構成
大阪京セラドーム、化学の日子ども化学実験ショー わくわく実験教室 やってみよう！不思議な化学実験！砂糖水で手品？	2016年10月22日、23日	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会)で構成
日本科学未来館、科学技術振興機構、サイエンスアゴラ わくわく実験教室 やってみよう！不思議な化学実験！砂糖水で手品？	2016年11月5日、6日	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会)で構成
道灌山幼稚園、 「水性サインペンのヒミツ？」(遊びも含むクロマトグラフィーの実験)	2017年1月	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会)で構成
		夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会)で構成
		夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会)で構成
		夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会)で構成

徳岡 由一 (とくおか よしかず) 教授



出生年：1965(昭和40)年
 在籍：2001(平成13)年4月～
 最終学歴：東京理科大学大学院理工学研究科工業化学専攻修士課程
 学位：博士(工学)
 学位論文：界面活性剤水溶液による香料の可溶化
 専門分野：生体材料工学、光治療工学、薬物送達学
 前職：エステー化学株式会社 研究開発部主任研究員
 学内役職等：医用工学部 生命医工学科 学科長
 留資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：平成11年度日本油化学会進歩賞「界面活性剤水溶液による香料の可溶化と揮発制御に関する研究」

2003年度材料技術研究協会技術賞「癌の光線力学的療法用新規メタルハライドランプ」

第11回日本油化学会エディター賞「Oxidation Decomposition of Unsaturated Fatty Acids by Singlet Oxygen in Phospholipid Bilayer Membranes」

2009年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞「ラメラ構造を有するメソポーラス・アパタイトの面間隔制御」

SPACC-17 Poster Award, "Synthesis of oxovanadium(IV) complexes from hydroxyazine-type heterocycles and their apoptosis-inducing activity against leukemia cells"

Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010 Presents Poster Session Award, "Effect of 18-crown-6 on protoporphyrin IX accumulation in cultivated cancer cells"

I 教育活動

2.作成した教科書、教材、参考書		
(3) バイオマテリアル学(生命医工学科3年)の授業で「血液検査学(臨床検査学講座)」(医師薬出版)を教科書として使用	2011年～	血液学の基礎および凝固系の説明にりようする。網羅的に記載されており、国家試験のみならず、将来、臨床現場でも十分に利用できる。
(4) 生命工学セミナーⅡ(生命医工学科3年)の授業で「臨床化学検査学(臨床検査学講座)」(医師薬出版)を教科書として使用	2011年～	臨床化学に関する測定原理、測定方法等が網羅的に記載されており、国家試験のみならず、将来、臨床現場でも十分に利用できる。
(6) 生物学Ⅰ(生命医工学科2年)の授業で「生化学(臨床検査学講座)」(医師薬出版)を教科書として使用	2012年	臨床検査学を習得するのに際して必要な生化学を網羅した書籍である。
(7) 生物学Ⅱ(生命医工学科2年)の授業で「生化学(臨床検査学講座)」(医師薬出版)を教科書として使用	2012年	臨床検査学を習得するのに際して必要な生化学を網羅した書籍である。
(1) 化学(生命医工学科1年生)の授業で「化学の基礎」(岩波書店)を参考書として使用	2013年～	高校での化学の復習と書あるいは大学での化学の入門書として最適である。
(2) 化学(生命医工学科1年生)の授業で「化学(臨床検査学講座)」(医師薬出版)を教科書として使用	2013年～	臨床検査技師養成のための必要最小限の内容が網羅された書籍である。

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略					
<p>【生体材料工学】</p> <p>● オゾン-紫外線を用いて表面改質した高分子材料表面へのタンパク質の吸着抑制に関する学術論文を2報執筆し、Material TechnologyおよびColloid and Polymer Scienceに投稿した。前者ではポリスチレンを、後者ではポリエチレンテレフタレートを用いた。いずれも表面改質することによって、アルブミンおよびフィブリノゲンの吸着量は減少した。しかし、γ-グロブリンの吸着量は変化しなかった。</p> <p>● 生体材料を構築する際、生体反応を抑制するため、生体材料表面への血清タンパクの吸着抑制を考える必要がある。血清タンパクの吸着抑制法の一つに水溶性高分子による生体材料表面の改質がある。このとき、水溶性高分子としてポリエチレングリコールが多用されている。しかし、血清タンパクの吸着とポリエチレングリコールの諸物性との相関については不明な点が多い。そこで、今後はQCM法を利用して、血清タンパクの吸着とポリエチレングリコールの諸物性との相関については検討する予定である。</p> <p>【光治療工学】</p> <p>● 5-アミノレブリン酸(ALA)を用いたP.acnesへのポルフィリン化合物の集積およびPDT効果に関して学術論文の執筆を行った。さらに、ポルフィリン化合物の集積に対するアミノ酸の添加効果について検討し、一部のアミノ酸においてポルフィリン化合物の集積量の増加が認められた。今後は、その原因について詳細に検討する予定である。</p> <p>● 5-アミノレブリン酸(ALA)を用いた癌細胞へのポルフィリン化合物の集積に及ぼすポリフェノール(EGCg)の添加効果について検討した。その結果、ALA濃度一定でEGCgの添加量の増加に伴い癌細胞内プロポルフィリンIXの集積性が増加し、PDT効果も増加することが認められた。今後は、他のポリフェノールの影響についても検討する予定である。</p> <p>【薬物送達薬】</p> <p>● 非イオン系界面活性剤であるSpan系およびTween系を用いた混合系を用いてALAを内水相に含むW/Oマイクロエマルジョンを調製し、ALAの経皮吸収に及ぼす影響について検討した。その結果、Span20とTween80とを重量比8:2で混合した系を用いて調製したW/Oマイクロエマルジョンが最も経皮吸収促進に有効であることを見出した。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
Chemical-bonding states and protein adsorptions on ozone/UV treated polystyrene films.	共著	2016	Material Technology, 34 (4)	Yoshihito Sakurai, Norimichi Kawashima, and Yoshikazu Tokuoka	81-88
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
擦過傷予防の観点からの都市大方式ハイブリッド芝の有効性と病理診断	2016年5月	日本芝草学会2016年度春季大会	照井英利, 渡邊洋輔, 涌井史郎, 大辻希樹, 徳岡由一 , 堀川朗彦, 山崎正代, 飯島健太郎		
5-アミノレブリン酸を用いたPropionibacterium acnesへのポルフィリン化合物の集積に及ぼすアミノ酸の添加効果	2016年6月	第26回日本光線力学学会学術講演会	緒方亜里紗, 蓮沼裕也, 井上栞里, 石井琢也, 石塚昌宏, 徳岡由一		
Comparison of Cefotaxime Resistant Enterobacteriaceae Isolated from Domestic and Imported Broilers in Japan	2016年9月	The 32nd World Congress of the International Federation of Biomedical Laboratory Science (IFBLS)	Yuya Hasunuma, Nozomi Hiyoshi, Moe Yokemura, Yoshikazu Tokuoka		
“Comparison of Cefotaxime Resistant Enterobacteriaceae Isolated from Domestic and Imported Broilers in Japan ”	2016年9月2日	The 32nd World Congress of Biomedical Laboratory Science 神戸国際展示場	Yuya HASUNUMA, Nozomi HIYOSHI , Moe YOKEMURA, Yoshikazu TOKUOKA		
Characteristics and Molecular Epidemiology of Cefotaxime Resistant Enterobacteriae Isolated from Healthy College Students	2016年10月	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2016	Yuya HASUNUMA, Moe YOKEMURA, and Yoshikazu TOKUOKA		

Effect of epigallocatechin gallate on 5-aminolevulinic acid-induced protoporphyrin IX accumulation into cultured cells	2016年10月	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2016	Kasumi Ishii, Akira Ochiai, and Yoshikazu Tokuoka
Study of phototherapy for Staphylococcus aureus using white LED devices	2016年10月	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2016	Kohei Kanazawa, Yuya Hasunuma, Masashi Ikegami, and Yoshikazu Tokuoka
Determination of degradation of antibacterial agents by b-lactamase-producing bacteria using high performance liquid chromatography	2016年10月	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2016	Rika NARASHIMA, Yuya HASUNUMA, Yoshikazu TOKUOKA
Effect of amino acids on accumulation of 5-aminolevulinic acid-induced porphyrin compounds in Propionibacterium acnes	2016年10月	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2016	Arisa Ogata, Yuya Hasunuma, Shiori Inoue, Takuya Ishii, Masahiro Ishizuka, Yoshikazu Tokuoka
Antimicrobial susceptibility of extended-spectrum b-lactamase-producing Escherichia coli isolated clinically in Kanagawa Prefecture	2016年10月	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2016	Moe Yokemura, Ishimatsu Syo, Yuya Hasunuma, Yoshikazu Tokuoka
Seed germination characteristics of Phedimus takesimensis and Phedimus aizoon var. floribundus	2016年10月	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2016	Yosuke WATANABE, Kentaro IJIMA, Yoshikazu TOKUOKA
UV-Ozone Generator Using Microwave Plasma	2016年10月	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2016	Naoki KUSUMOTO, Rina ONO, Nanami KIGA, Shigemi HIRAOKA, Norimichi KAWASHIMA, Yoshikazu TOKUOKA
高速液体クロマトグラフィーを用いたβ-ラクタマーゼ産生菌による抗菌薬分解の検出	2017年1月	第28回日本臨床微生物学会総会・学術集会	榎島莉香, 蓮沼裕也, 角田拓也, 石松尚, 永田明義, 徳岡由一
神奈川県内で分離された基質拡張型β-ラクタマーゼ産生 Escherichia coliの疫学調査	2017年1月	第28回日本臨床微生物学会総会・学術集会	除村萌, 蓮沼裕也, 石松尚, 角田拓也, 永田明義, 徳岡由一
神奈川県内中小規模病院から分離されたCeftazidime高度耐性 ESBL産生 Escherichia coliの薬剤耐性プロファイルと分子疫学調査	2017年1月	第28回日本臨床微生物学会総会・学術集会	蓮沼裕也, 石松尚, 除村萌, 榎島莉香, 金沢浩平, 角田拓也, 永田明義, 徳岡由一
Staphylococcus aureusに対する白色LEDを用いた発育抑制効果機序の検討	2017年1月	第28回日本臨床微生物学会総会・学術集会	金沢浩平, 蓮沼裕也, 高橋篤史, 大城真奈, 齋藤潔, 池上和志, 徳岡由一
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
可溶化とマイクロエマルジョン	2016年6月	第17回日本油化学会フレッシュマンセミナー(界面科学と界面活性剤)	東京理科大学森戸記念館(新宿区)

○その他		
(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
研究指導	2016年4月1日～2017年3月31日	「細胞増殖の最適環境に関する研究」清水建設株式会社
科学研究費補助金(日本学術振興会)	2016年4月1日～2019年3月31日(3年間)	「LED白色光を用いた新規殺菌法の開発」(研究代表)

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本油化学会、材料技術研究協会、日本光線力学学会、日本光医学・光生物学会、日本バイオマテリアル学会、色材協会、ポルフィリン-ALA学会、日本化学療法学会、日本臨床微生物学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2003年4月～現在に至る	材料技術研究協会「MATERIAL TECHNOLOGY」編集委員会委員
2007年4月～現在に至る	材料技術研究協会「MATERIAL TECHNOLOGY」副編集委員長
2008年4月～現在に至る	色材協会編集委員会委員(現在に至る)
2008年4月～現在に至る	色材協会関東支部審議委員(現在に至る)

西村 裕之 (にしむら ひろゆき) 教授



出生年：1955(昭和30)年
 在籍：1994(平成6)年4月～
 最終学歴：東京工業大学大学院理工研究科博士後期課程
 学位：理学博士
 学位論文：Chemical Modification of enzymes with polyethylene glycol. A new technique to render exogenous enzymes non-immunoreactive, non-immunogenic and stable in the circulation.
 専門分野：分子生物学、免疫工学
 前職：順天堂大学医学部助教授
 学内役職等：工学研究科長(2014～)
 留学：Hospital for Joint Diseases, Beth Israel Medical Center New York N.Y., USA 研究員
 資格：
 非常勤講師：順天堂大学
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
I. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1) 英語教材を用いた専門科目教育	2008年4月12日～	学部担当科目、「臨床免疫学」および「分子生物学I」および「分子生物学II」の講義において、英語教材を取り入れる。毎回の授業内容を要約する英文(A4版1枚相当)を、授業の終わりに課題として、学生に与える。学生には、内容を平易な日本語で記述することが科せられる。およそ12回の講義を通じて、学生は専門科目の内容を学ぶと同時に、英文の読解能力を培うことができる。学生はよく努力してよい成果をあげている。
(2) 演習を中心とする大学院専門科目教育	2008年4月12日～	大学院の専門科目「バイオインフォマティクス」では、遺伝統計学の基礎と、ゲノム情報処理の初歩を実習を通じて学ばせる。遺伝統計学では、遺伝連鎖解析の方法の基礎を扱った上で、LINKAGE Softwareを用いた疾患家系を対象とする遺伝連鎖解析の実習を行う。ゲノム情報処理の基礎では、Perlを用いた文字列情報の処理について、演習する。理論的観点よりも、実際にDNAを扱ういわゆるwet領域の研究者の立場から、実地で役に立つバイオインフォマティクスを教えるプログラムを構築しているところに特徴がある。

II 研究活動

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名
“Blocking of CD11b+ cell-migration ameliorates rheumatoid arthritis-like disease spontaneously occurring in a unique Fc γ RIIB-deficient mouse model”	2016年12月5日～7日	日本免疫学会 沖縄	OHTSUJI Mareki, LIN Qingshun, OKAZAKI Hideki, IKEDA Shuri, SASAKI Hinako, AMANO Hirofumi, YAGITA Hideo, NISHIMURA Hiroyuki , HIROSE Sachiko
“Epistatic interaction between fcgr2b and Slam family genes in susceptibility to defective foreign protein-induced tolerance”	2016年12月5日～7日	日本免疫学会 沖縄	NISHIMURA Hiroyuki , FUJII Takuma, OBATA Masaomi, OHTSUJI Mareki, KODERA Yo, TAKAI Toshiyuki, SUDO Katsuko, HIROSE Sachiko

“Inhibitory IgG Fc receptor IIB on B cells and monocytes independently controls Yaa-induced murine lupus”	2016年12月5日～7日	日本免疫学会 沖縄	LIN Qingshun , TSURUI Hiromichi , AMANO Hirohumi, NISHIKAWA Keiko, OHTSUJI Mareki , NISHIMURA Hiroyuki , J.Sjef.Verbeek , HIROSE Sachiko
---	---------------	--------------	---

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本免疫学会、日本分子生物学会、日本癌学会、日本生化学会、日本臨床免疫学会、日本リウマチ学会

萩原 啓実 (はぎわら ひろみ) 教授



出生年：1957(昭和32)年
 在籍：2004(平成16)年4月～
 最終学歴：東京工業大学大学院理工学研究科博士後期課程
 学位：理学博士
 学位論文：Studies on Endothelial Cells(東京工業大学1984)
 専門分野：生物化学、分子生物学、細胞生理学、骨代謝学
 前職：東京工業大学バイオ研究基盤支援総合センター助教授
 学内役職等：医用工学部長、先端医用工学センター長(2014～)
 工学研究科長、医用工学部生命・環境システム工学科長、
 医用工学部生命医工学科長、先端医用工学センター長
 (～2013)
 留学：米国バンダービルト大学医学部(1987年4月～1988年6月)
 資格：高等学校教諭二級普通免許状(教科名生物)
 非常勤講師：筑波大学
 受賞・表彰：手島科学奨励賞(1984年)、三越医学賞(1990年)、東京高
 血圧研究会奨励賞(1991年)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)対話型授業の実施	2005年4月～	教員が一方的に話をする授業ではなく、学生に手と頭を使わせる対話型の授業を試みている。
(2)ビジュアルな教育	2005年4月～	授業の関連事項をまとめ、プロジェクターなどの機器を利用して解説する。さらに、関連するビデオ教材を用いてビジュアルに教育を行う。 毎年学生からの授業評価は高評価を受けている。
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)手製の教材の利用	2005年4月～	現在までに担当している講義はほとんど全てを市販の教科書を使用せずに実施してきた。このため教材は手製のプリントをほぼ毎回配布している。

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略					
骨形成を制御する因子の探索, ポリフェノールによるヒトがん細胞の増殖制御, 遺伝子KOマウスの表現型の解析					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
“Abnormal Spermatogenesis and Male Infertility in Testicular Zinc Finger Protein Zfp318-knockout Mice”	共著	2016年7月25日	Development, Growth & Differentiation	Masamichi ISHIZUKA, Eri OHTSUKA, Atsuto INOUE, Mirei ODAKA, Hiroataka OHSHIMA, Nirihiisa TAMURA, Kaoru YOSHIDA, Norihisa SAKO, Tadashi BABA, Shin-ichi KASHIWABARA, Masaru OKABE, Junko NOGUCHI, Hieomi HAGIWARA	doi:10.1111/dgd.12301

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
「Zfp318ノックアウトマウス二系統における妊孕性の差異について」	2016年6月24日	日本アンドロロジー学会第35回学術大会 前橋テルサ	河野説彦, 萩原啓実, 吉田薫
“The Difference of Fertility between Two Strains of Zfp318 KO”	2016年10月29日	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Yokohama, Japan	Akihiko KONO, Kaoru YOSHIDA, Hiromi HAGIWARA
“Distribution of S-(1,2-Dichlorovinyl)-L-cysteine and Its Related Substances in the Tissues in Mice by Whole-body Autoradiography”	2016年10月29日	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Yokohama, Japan	Norikazu KOMORIYA, Nobuaki SHIRAI, Hirokiu TOMISAWA, Kaoru YOSHIDA, Hiromi HAGIWARA
“Chalcone 4-Hydroxyderricin Inhibits Osteoclast Formation and Accelerates Osteoblast Differentiation”	2016年11月5日	IOF Regionals Singapore'16, 6th Asia-Pacific Osteoporosis Meeting Singapore	Hiromi HAGIWARA , Kyoko NAKATA, Kaoru YOSHIDA
「Zfp318ノックアウトマウス二系統における妊孕性の差異について」	2016年12月2日	第39回日本分子生物学会年会 パシフィコ横浜	河野 説彦, 吉田 薫, 萩原 啓実
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
トリクロロエチレン代謝産物の骨関連細胞に与える影響に関する研究	2015年5月～2016年4月	株式会社ネモト・サイエンス	
トリクロロエチレン代謝産物の骨関連細胞に与える影響に関する研究	2016年5月～2017年4月	株式会社ネモト・サイエンス	
細胞増殖の最適環境に関する研究	2016年4月～2017年3月	清水建設株式会社	
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
IOF Regionals Singapore'16, 6th Asia-Pacific Osteoporosis Meeting	2016年11月3日～11月8日	Singapore, Singapore	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本生化学会、日本分子生物学会、日本骨代謝学会、米国骨代謝学会、日本心血管内分泌代謝学会、日本軟骨代謝学会、日本血管生物医学会、日本環境ホルモン学会、日本動物細胞工学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
1994年～現在	日本血管生物医学会評議員
1999年～現在	日本心血管内分泌代謝学会評議員
2004年～現在	老人病研究所客員研究員
2005年～現在	筑波大学北アフリカ研究センター客員共同研究員
2006年～現在	桐蔭学園理事, 評議員
2011年7月～現在	日本臨床検査学教育協議会評議員

森 永 茂 生 (もりなが しげお) 教授



出生年 : 1956(昭和31)年
 在籍 : 1989(平成元)年4月～
 最終学歴 : 東京都立大学大学院博士課程
 学位 : 理学博士
 学位論文 : A Study of Insoluble Organic Matter (Kerogen) in Recent Sediments by Chemical Degradation-Gas Chromatography/Mass Spectrometry
 専門分野 : 環境化学、分析化学、有機地球化学
 前職 : 桐蔭学園工業高等専門学校講師
 学内役職等 : 学務部副部長(2014～)
 留学 :
 資格 :
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 : とうきゅう環境浄化財団研究助成A類N0.177(1994-1996)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
工学ワークショップ I テキスト(前期)	2010年～2017年	生命医工学科の工学ワークショップ I 担当のテーマに関するテキストを作成した。
工学ワークショップ II テキスト(後期)	2010年～2017年	生命医工学科および臨床工学科の工学ワークショップ II 担当のテーマに関するテキストを作成した。
生命医工学実験 I (前期)	2010年～2017年	生命医工学科コースの学生に対する、生命医工学実験 I 担当のテーマに関するテキストを作成した。
生命医工学実験 III (前期)	2010年～2017年	生命医工学科コースの学生に対する、生命医工学実験 III 担当のテーマに関するテキストを作成した。

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略

トランス脂肪酸の過剰摂取が、心臓疾患に繋がることから、世界的にも懸念されている中、どの様にしてそれらを分離するか等の検討がなされている。包接化合物の一つである、シクロデキストリン(CD)は、 α -CD、 β -CDおよび γ -CDが知られており、それらによる飽和脂肪酸、不飽和脂肪酸およびトランス脂肪酸の包接化合物は、白色沈殿を生じることで、その組合せや濃度などの条件の違いにより、分離することが可能であるかどうかの検討をしている。さらに、シクロデキストリンやその誘導体化合物を用いて、残留性汚染有機物の分離に関する基礎研究を行っている。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本化学会、日本地球化学会、日本有機地球化学会、日本腐植物質学会、日本環境化学会、日本水環境学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2012年4月～	日本芝草学会24年度査読委員

米坂知昭 (よねさか ともあき) 教授



出生年：1958(昭和33)年
在籍：2009(平成21)年1月～
最終学歴：桐蔭横浜大学大学院 工学研究科 医用工学専攻
学位：博士(工学)
学位論文：フィセチンの脂質代謝と糖代謝に及ぼす効果に関する研究
専門分野：臨床検査学、病院経営特論
前職：済生会横浜市東部病院
学内役職等：医用工学専攻長(2017～)
留資格：臨床検査技師
非常勤講師：
受賞・表彰：神奈川県公衆衛生表彰、厚生労働大臣表彰

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略

超音波診断装置を用いた頸部における甲状腺及び頸動脈の疫学的解析調査。横浜市と札幌市の医療計画における周産期医療の現状を比較し、周産期医療の問題点や今後の展望についての研究

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称

日本臨床衛生検査技師会・神奈川県臨床衛生検査技師会・日本薬理学会・分子生物学会・日本医療機器学会

任期、活動期間等

2016年4月～現在

学会等における役職等

日本ワンヘルスサイエンス学会理事

吉田 薫 (よしだ かおる) 准教授



出生年：1970(昭和45)年
 在籍：2004(平成16)年6月～
 最終学歴：東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻博士課程修了
 学位：博士(理学)
 学位論文：ニシン精子活性化タンパク質による精子活性化機構の生理生化学的研究
 専門分野：生殖生物学、生化学、細胞生物学
 前職：科学技術振興機構・戦略的創造研究推進事業「内分泌かく乱物質」岩本チーム研究員
 学内役職等：
 留学：
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略					
<p>受精時の精子機能解明に関して研究を行った。具体的には、カタユレイボヤ精子誘引物質の受容体候補の機能解析を行い、受容体として機能する証拠を幾つか得た。これらについて、論文執筆を継続した。またマウス精囊分泌タンパク質の機能に関してはこのタンパク質ファミリーに属する別のタンパク質2種についての論文が受理された。精子無力症の基礎研究に関しては臨床検体の免疫染色による検査症例について、予後調査を行い、検査結果との関連性について解析を行った結果について、論文を作成し、投稿した。また、学外との共同研究については、精子運動への水素の影響に関して、解析が終了し、論文執筆を開始した。精子鞭毛波形形成の生物物理学的検討についても解析を進め、論文執筆を開始した。また、新たに極少数の精子を凍結保存する容器の開発に協力することになり、マウスを用いた安全性試験を行った。更に、Mam1d1遺伝子機能解析についての共同研究においても、マウス精巣での機能とヒト分娩に関連する機能の両面で解析が進み、論文執筆に着手した。学内共同研究のTZF (Zfp318)ノックアウトマウスの表現系解析については、精子形成不全についての論文が受理された。この他にも、引き続きポリフェノール類の骨形成への影響、トリクロロエチレン代謝物の骨組織への影響等の共同研究を行い、データ解析および追加実験中である。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
“Critical roles of seminal plasma on sperm migration in the female reproductive tract”	共著	2016年4月	Journal of Reproduction Engineering 18(1)	Kang, W, Kawano, N, Yamatoya, K, Yoshida, K , Yoshida, M, Miyado, K	5-10
“Abnormal Spermatogenesis and Male Infertility in Testicular Zinc Finger Protein Zfp318-knockout Mice”	共著	2016年7月25日	Dev Growth Differ 58(7)	Masamichi ISHIZUKA, Eri OHTSUKA, Atsuto INOUE, Mirei ODAKA, Hiroataka OHSHIMA, Nirihiisa TAMURA, Kaoru YOSHIDA , Norihiisa SAKO, Tadashi BABA, Shin-ichi KASHIWABARA, Masaru OKABE, Junko NOGUCHI, Hiromi HAGIWARA	600-8 doi:10.1111/dgd.12301
“Seminal vesicle proteins SVS3 and SVS4 facilitate SVS2 effect on sperm capacitation”	共著	2016年8月2日	Reproduction 152(4)	Araki N, Kawano N, Kang W, Miyado K, Yoshida K, Yoshida M	313-21 doi:10.1530/REP-15-0551

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
「水素分子処置はヒト精子のATP量を増加させる」	2016年5月14日	第57回日本卵子学会 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター	中田久美子, 吉田薫, 吉田学, 山下直樹
「極少数精子凍結保存用デバイス“MAYU”を用いた精子保存条件の検討」	2016年5月14日	第57回日本卵子学会 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター	中田久美子, 河野博臣, 吉田雅人, 早川繁, 吉田薫, 吉田学, 山下直樹
「水素分子処置はヒト精子のATP量を増加させる」	2016年6月24日	日本アンドロロジー学会第35回学術大会 前橋テルサ	中田久美子, 吉田薫, 吉田学, 山下直樹
「Znクフィンゲータンパク質Zfp318のマウス精子形成における役割の系統間差異について」	2016年6月24日	日本アンドロロジー学会第35回学術大会 前橋テルサ	河野説彦, 萩原啓実, 吉田薫
“Hydrogen molecule treatment enhances ATP production in human spermatozoa”	2016年7月3日	The 32nd Annual Meeting of European Society of Human Reproduction and Embryology (ESHRE 2016), Messukeskus Expo and Convention Centre, Helsinki, Finland	Nakata, K, Yoshida, K, Yoshida, M, Yamashita, N
「ホヤ精子走化性の分子機構」	2016年10月14日	第3回ホヤ研究会 大阪大学豊中キャンパスグマホール	吉田薫, 木島大雅, 吉田学
“The Difference of Fertility between Two Strains of Zfp318 KO”	2016年10月29日	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Yokohama, Japan	Akihiko KONO, Kaoru YOSHIDA, Hiromi HAGIWARA
“Distribution of S-(1,2-Dichlorovinyl)-L-cysteine and Its Related Substances in the Tissues in Mice by Whole-body Autoradiography”	2016年10月29日	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Yokohama, Japan	Norikazu KOMORIYA, Nobuaki SHIRAI, Hiroki TOMISAWA, Kaoru YOSHIDA, Hiromi HAGIWARA
「水素分子とペントキシフィリンによるヒト精子運動性改善作用の相違点」	2016年11月3日	第61回日本生殖医学会学術講演会 パシフィコ横浜	中田久美子, 吉田薫, 吉田学, 山下直樹
「SEM結合率と妊娠結果について」	2016年11月3日	第61回日本生殖医学会学術講演会 パシフィコ横浜	山崎一恭, 吉田薫, 吉池美紀, 岩本晃明
“Chalcone 4-Hydroxyderricin Inhibits Osteoclast Formation and Accelerates Osteoblast Differentiation”	2016年11月5日	IOF Regionals Singapore'16, 6th Asia-Pacific Osteoporosis Meeting Singapore	Hiromi HAGIWARA, Kyoko NAKATA, Kaoru YOSHIDA
“CatSper3 is not a sperm-specific channel and is involved in development in the ascidian Ciona intestinalis”	2016年11月14日	The Joint meeting of the 22nd International Congress of Zoology & the 87th meeting of the Zoological Society of Japan Okinawa Convention Center, Ginowan, Okinawa, Japan	Kijima, T, Yoshida, K, Sasakura, Y, Kurokawa, D, Yoshida, M

“Comparative analysis of primary structure on PMCA: a molecular basis for species-specificity of sperm activation and chemotaxis”	2016年11月14日	The Joint meeting of the 22nd International Congress of Zoology & the 87th meeting of the Zoological Society of Japan Okinawa Convention Center, Ginowan, Okinawa, Japan	Yoshida, K, Yoshida, M
“Hydrogen molecule treatment enhances ATP production in human spermatozoa”	2016年11月14日	2016 American Society for Reproduction Medicine Scientific Congress (ASRM2016) Salt Palace Convention Center, Salt Lake City, UT, USA	Nakata, K, Yoshida, K, Yoshida, M, Yamashita, N
「妊娠41週以降に分娩に至った母娘例におけるMAMLD1遺伝子1塩基置換の同定」	2016年11月16日	第50回日本小児内分泌学会学術集会 東京国際フォーラム	勝見 桃理, 吉田 薫, 齊藤 和毅, 中村 繁, 緒方 勤, 宮戸 真美, 深見 真紀
「Genetic knockout of Mamld1 reduces testicular size but permits normal fertility in adult male mice」	2016年11月17日	the 9th biannual meeting of Asia Pacific Pediatric Endocrine Society (APPES) Tokyo International Forum, Japan	Mami Miyado, Kaoru Yoshida, Kenji Miyado, Momori Katsumi, Kazuki Saito, Shigeru Nakamura, Tsutomu Ogata, Maki Fukami
「Zfp318ノックアウトマウス二系統における妊孕性の差異について」	2016年12月2日	第39回日本分子生物学会年会 パシフィコ横浜	河野 説彦, 吉田 薫, 萩原 啓実
“Hydrogen molecule treatment has no effect on human sperm DNA fragmentation”	2017年3月30日	The 7th Congress of the Asia Pacific Initiative on Reproduction (ASPIRE 2017) Kuala Lumpur Convention Centre, Kuala Lumpur, Malaysia	Nakata, K, Yoshida, K, Yoshida, M, Yamashita, N

○その他

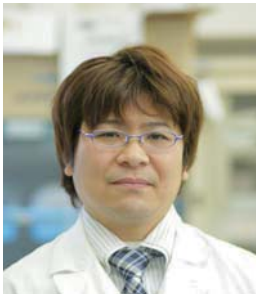
(補助金・助成金等)

事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
科学研究費補助金	2014年度～2016年度	基盤研究C、精囊分泌タンパク質による糖鎖を介した細胞膜流動性と受精能獲得制御機構解明26462465、研究代表者
科学研究費補助金	2015年度～2017年度	基盤研究B、受精における精子機能調節の分子機構の解析15H04398、研究分担者

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本動物学会、日本発生生物学会、日本分子生物学会、日本生殖医学会、日本アンドロロジー学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2012年10月～現在	日本動物学会男女共同参画委員

大 辻 希 樹 (おおつじ まれき) 専任講師



出 生 年 : 1972(昭和47)年
 在 籍 : 2009(平成21)年4月～
 最 終 学 歴 : 放送大学 教養学部
 学 位 : 博士(医学)
 学 位 論 文 : IL-6 signal blockade ameliorates the enhanced
 専 門 分 野 : 病理学、臨床病理学、免疫学、免疫遺伝学
 前 職 : 順天堂大学 医学部 病理・腫瘍学講座 助手
 学 内 役 職 等 :
 留 学 :
 資 格 : 臨床検査技師
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
病理学、免疫学の知識をもとに、病態の発症機序を教授する	2010年より現在	内因、外因、環境要因が炎症(免疫)を惹起したときに、細胞内でおこる変化を病理学の観点から教授し、その結果として病態がの進行過程を理解させる。年次ごとに改定
2.作成した教科書、教材、参考書		
病理学、臨床病理学、医学総論	2010年より現在	正常と異常の状態を、ミクロ的マクロ的に対比させた。内容に解剖学を含んでいることから、身体の中で起こる事象についても理解することができるように工夫した。年次ごとに改定
生命医工学セミナーIV(病理学実習)	2011年より現在	組織学、細胞学、病理技術学について、教科書に載っていない内容も加味した。
国試でできるシリーズ(解剖学、病理学、免疫学)	2012年より現在	臨床検査技師国家試験対策用資料集 国家試験の頻出範囲に的を絞った参考書。年次ごとに改定。

II 研究活動

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
“Epistatic interaction between fcgr2b and Slam family genes in susceptibility to defective foreign protein-induced tolerance”	2016年12月5日～7日	日本免疫学会 沖縄	NISHIMURA Hiroyuki, FUJII Takuma, OBATA Masaomi, OHTSUJI Mareki , KODERA Yo, TAKAI Toshiyuki, SUDO Katsuko, HIROSE Sachiko
“Inhibitory IgG Fc receptor IIB on B cells and monocytes independently controls Yaa-induced murine lupus”	2016年12月5日～7日	日本免疫学会 沖縄	LIN Qingshun, TSURUI Hiromichi, AMANO Hirohumi, NISHIKAWA Keiko, OHTSUJI Mareki , NISHIMURA Hiroyuki, J.Sjef.Verbeek, HIROSE Sachiko

<p>“Blocking of CD11b+ cell-migration ameliorates rheumatoid arthritis-like disease spontaneously occurring in a unique Fc•RIIB-deficient mouse model“</p>	<p>2016年12月5日～7日</p>	<p>日本免疫学会 沖縄</p>	<p>OHTSUJI Mareki, LIN Qingshun, OKAZAKI Hideki, IKEDA Shuri, SASAKI Hinako, AMANO Hirofumi, YAGITA Hideo, NISHIMURA Hiroyuki, HIROSE Sachiko</p>
--	----------------------	----------------------	--

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

<p>所属学会・機関・団体等の名称</p>
<p>日本免疫学会、アメリカ免疫学会、日本病理学会、日本リウマチ学会、超音波検査技師会、日本臨床衛生検査技師会 神奈川県臨床検査技師会</p>

清水 智美 (しみず ともみ) 専任講師



出生年：1972(昭和47)年
 在籍：2010(平成22)年4月～
 最終学歴：順天堂大学大学院 医学研究科 博士課程修了
 学位：博士(医学)
 学位論文：超長時間持久的負荷(24時間走)における炎症およびストレス反応の推移
 専門分野：臨床生理学、基礎生理学
 前職：大東文化大学スポーツ・健康科学部健康科学科
 学内役職等：講師
 留学：
 資格：臨床検査技師、日本体力医学会健康科学アドバイザー
 非常勤講師：大東文化大学スポーツ・健康科学部健康科学科
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
毎年医療現場の状況を踏まえ、講義資料を作成している。前週の小試験を行い、重要な部分を復習・解説する。回収チェック後フィードバックを行う。		
2.作成した教科書、教材、参考書		
生命工学実験Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ実習教材	2010年～	
臨床生理学Ⅱ 教材		

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略			
発汗と自律神経機能について、大学生の味覚調査(塩味)、中高年マラソンランナーの生体応答(ボランティア含む)、アルコール体質遺伝子と自覚の関係、体位変換による呼吸機能値の変化、大学生の精神的疲労度について、学会や講義中で報告する。			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
(口頭)ラクトフェリンによるストレス軽減効果の検討	2016年5月15日	第70回日本栄養・食糧学会大会	清水 智美、蓮沼 裕也、鈴木 義雄
(座長)食糧科学・食品科学:食品機能・バイオファクター(9)	2016年5月15日	第70回日本栄養・食糧学会大会	清水智美、高岡 素子
(ポスター)マラソン(50km・20km)による自律神経応答(中高年マラソンランナーの場合)(第二報)Autonomic nervous response of(50km・20km)marathon runners	2016年9月25日	第71回日本体力医学会大会	清水 智美、蓮沼 裕也、今西昭雄、鈴木政登、太田眞
(ポスター)マラソンスタート直後の心肺停止(CPA対策)CPA(cardiopulmonary arrest)measures immediately after the start of city marathons	2016年9月25日	第71回日本体力医学会大会	太田眞、清水智美、今西昭雄、小原誠、鈴木政登

(ポスター)レジスタンス運動が地域在住高齢者の血管スティフネスに及ぼす影響	2016年11月7日	第26回日本臨床スポーツ医学会学術集会	太田眞、清水智美、小笠原定雄、小堀悦孝、小原誠
(口頭)分光光度計を用いたアルコールパッチテストの評価の検討	2016年12月3日	一般社団法人 日本人間工学会 関東支部第46回大会	田村京子、菅澤威仁、清水智美、大塚裕子、牛山蓮美、大徳鉦也、丹波泰子、太田眞
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
食シグナルの認知科学の新展開と脳を活性化化する次世代機能性食品開発へのブランドデザイン	2015年4月～	SIP(戦略的イノベーション創造プログラム)次世代農林水産業創造技術	
(その他特記事項)			
臨床検査技師国家試験問題注解 2017年版(金原出版) 2016年6月1日			

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称		
日本臨床衛生検査技師会、日本臨床生理学会、日本体力医学会、日本運動生理学会、日本臨床検査医学会、日本臨床スポーツ医学会、日本看護科学会、日本栄養・食糧学会		
任期、活動期間等	学会等における役職等	
2014年9月～	日本体力医学会評議員	
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
東京都日野市 歳の鬼あしマラソン実行委員	2007年5月～2017年5月(年1回)	歳の鬼あし実行委員会 日野市文化スポーツ課
スポーツ大会、連行体操教室などの企画運営、スポーツに関する医学的な調査研究、地域間交流、青少年健全育成、健康長寿に寄与する。	2016年5月～	NPO法人 ふるさと日本元氣塾 副理事

大 沼 健 太 郎(おおぬま けんたろう) 専任講師



出 生 年 : 1974(昭和49)年
 在 籍 : 2016(平成28)年2月～
 最 終 学 歴 : 東京電機大学大学院先端科学技術研究科先端技術創生専攻
 学 位 : 博士(工学)
 学 位 論 文 : Extended-Timed-Automata外科手術モデルの構築とScrub Nurse Robot用リアルタイム視覚認識システムの開発に関する研究
 専 門 分 野 : 医用電子工学、医用システム、人工臓器
 前 職 : 国立循環器病研究センター研究所人工臓器部 特任研究
 学 内 役 職 等 :
 留 学 :
 資 格 :
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 : 東京電機大学ME会奨励賞(2016年3月)
 第36回人工心臓と補助循環懇話会 若手賞(2008年3月)
 丹羽保次郎賞(2008年3月)
 SICE SI2005ベストセッション賞(連名)(2005年12月)
 バリアフリーシステム開発財団奨励賞(2003年5月)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
講義時間外補習の実施	2016年4月～	理解度に応じて(不定期)、講義時間外の物理補習を実施
履修者の理解度に応じた追加資料の配布	2016年4月～	必要に応じて前回講義時の質問事項、演習の出来を反映した追加資料の作成・配布
物理系科目の演示	2016年4月～	以前より行われてきた演示実験を引き継いで実施、ほかに身の回りの物品等による簡易な演示で随時視覚的に板書を補足
2.作成した教科書、教材、参考書		
プリントの作成	2016年4月～	担当講義では演習、小テストにくわえて、新規に図表を用いて要点をまとめたプリントを作成、配布している

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略
<ul style="list-style-type: none"> ・自律的人工心臓制御に関する研究 生物の適応性・恒常性を表す数理モデルを応用した血液ポンプ流量制御において、デバイス側の指標(モータ駆動電流)のみを用いて駆動状態を適応的に維持するアルゴリズム構築し、簡易な模擬循環試験において外乱に対する適応的挙動を確認した。 ・循環器系シミュレータの開発 全置換型人工心臓(TAH)および補助人工心臓(VAD)の制御や、先天性心疾患の血行動態解析への応用に向けて、電気等価回路による血行動態のPCシミュレータの構築を開始した。モデルを拡張し、連続流型TAHの拍動駆動やTAHの左右流量平衡を考慮した制御について検討する予定である。

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
人工心臓埋め込みの術前検討支援プログラムの開発	共著	2016年6月15日	人工臓器, 46(1)	茂木諒介、本間章彦、住倉博仁、 大沼健太郎 、巽英介、荒船龍彦、大越康晴、福井康裕	p. 38
Development of a stent-biovalve with round-shaped leaflets: in vitro hydrodynamic evaluation for transcatheter pulmonary valve implantation (TPVI)	共著	2016年12月	J Artif Organs, 19(4)	Sumikura H, Nakayama Y, Ohnuma K , Takewa Y, Tatsumi E	pp. 357-363
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
探索手法による自律的な補助人工心臓流量制御に関する検討	2016年9月	LIFE2016(ライフサポート学会大会(32)), (宮城県仙台市)	大沼健太郎 、住倉博仁、本間章彦、築谷朋典、巽英介		
数値流体解析を応用した選択的腎灌流カテーテル式血液ポンプの流路形状に関する検討	2016年9月	LIFE2016(ライフサポート学会大会(32)), (宮城県仙台市)	住倉博仁、 大沼健太郎 、花田繁、築谷朋典、水野敏秀、本間章彦、向林宏、小嶋孝一、武輪能明、巽英介		
確率的探索手法による駆動電流を用いた自律的な補助人工心臓流量制御の検討	2016年9月	日本機械学会 2016年度年次大会, (福岡市)	大沼健太郎 、住倉博仁、本間章彦、築谷朋典、巽英介		
Hydrodynamic evaluation of a catheter-based intravascular rotary blood pump for assisting selective renal blood circulation	2016年9月	Annual European Society for Artificial Organs Congress (43), (Warsaw, POL)	Sumikura H, Ohnuma K , Hanada S, Tsukiya T, Mizuno T, Homma A, Mukaibayashi H, Kojima K, Takewa Y, Tatsumi E		
Initial in vivo evaluation of a temporary continuous flow right ventricular assist device with a hydrodynamically levitated centrifugal blood pump	2016年9月	Congress of the International Society for Rotary Blood Pumps (24), (Mito, JPN)	Sumikura H, Tsukiya T, Mizuno T, Takewa Y, Ohnuma K , Fujii Y, Togo K, Naito N, Iizuka K, Tatsumi E		
Autonomous Flow Rate Control Algorithm Using Stochastic Method for a Ventricular Assist Device	2016年10月	11th TOIN Int. Symp. on BME (Yokohama, JPN)	Kentaro Ohnuma , Hirohito Sumikura, Akihiko Homma, Tomonori Tsukiya and Eisuke Tatsumi		
空気圧駆動式補助人工心臓用モニタリングシステムの実用化に向けた設計開発	2016年11月	日本人工臓器学会大会(53), (鳥取県米子市)	大沼健太郎 、住倉博仁、本間章彦、築谷朋典、武輪能明、水野敏秀、妙中義之、片野一夫、小嶋孝一、向林宏、巽英介		
ISO13485(医療機器の品質マネジメントシステム)導入による空気駆動式補助人工心臓用空気圧駆動装置の設計開発	2016年11月	日本人工臓器学会大会(53), (鳥取県米子市)	住倉博仁、 大沼健太郎 、築谷朋典、水野敏秀、武輪能明、本間章彦、小嶋孝一、向林宏、巽英介		

Bridge to decisionに適した動圧浮上式遠心ポンプを用いた体外式補助循環システムの前臨床試験	2016年11月	日本人工臓器学会大会(53), (鳥取県米子市)	内藤敬嗣, 武輪能明, 築谷朋典, 水野敏秀, 飯塚慶, 住倉博仁, 大沼健太郎 , 東郷好美, 藤井豊, 小野稔, 巽英介
選択的腎還流用カテーテル式血液ポンプの流量制御に関する検討	2016年11月	日本人工臓器学会大会(53), (鳥取県米子市)	住倉博仁, 大沼健太郎 , 花田繁, 築谷朋典, 水野敏秀, 本間章彦, 武輪能明, 巽英介
選択的腎灌流用カテーテル式血液ポンプの研究開発 一数值流体解析を用いた流量制御法に関する検討一	2017年2月	人工心臓と補助循環懇話会 学術集会 (45), (山梨県笛吹市)	住倉博仁, 大沼健太郎 , 花田繁, 築谷朋典, 水野敏秀, 本間章彦, 武輪能明, 巽英介
○その他			
(産学協同研究)			
研究内容	研究期間	協同研究の相手方の名称	
補助人工心臓用耐久試験装置の開発	2010年4月～現在	株式会社イワキ	
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
急性心腎症候群の早期腎不全治療を目的としたカテーテル式補助循環装置の実用化研究	2016年4月～2020年3月 (予定)	科学研究費補助金・基盤研究(B), (分担)	
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
補助人工心臓の安全性を向上 循環器病研究センターなど	2012年2月1日～現在	日経新聞Web刊, URL: http://www.nikkei.com/article/DGXNASGG0600S_Z10C12A2TJM000/?at=ALL	
補助人工心臓用耐久試験装置誕生秘話(前編)	2014年10月～現在	株式会社イワキHP, URL: http://www.iwakupumps.jp/interview_laboheart_1	
補助人工心臓用耐久試験装置誕生秘話(後編)	2014年10月～現在	株式会社イワキHP, URL: http://www.iwakupumps.jp/interview_laboheart_2	
特別座談会・東京電機大学が誇る人工心臓開発者	2016年10月10日	工学情報2016秋、東京電機大学出版局 (校友会誌対談記事, 約32,000部発行)	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本人工臓器学会、ライフサポート学会、IEEE (EMBS)、米国人工臓器学会 (ASAIO)、日本生体医工学会

濤川 唯 (なみかわ ゆい) 助教



出生年：1981(昭和56)年
在籍：2011(平成23)年4月～
最終学歴：獨協大学外国語学部英語学科、大東医学技術専門学校
学位：
学位論文：
専門分野：生理学、臨床生理学、
前職：恩賜財団済生会横浜市東部病院
学内役職等：
留学：米国(4年)
資格：臨床検査技師
非常勤講師：
受賞・表彰：

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略

2016年度。日本臨床検査技師会国際委員として32年ぶりに日本での開催となったIFBLS国際学会神戸の学会準備、学会期間中の通訳、ガイド、座長2件等行った。臨床検査技師の地位向上のため各国のBLSと会談を行った。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称

日本臨床衛生検査技師会、神奈川県臨床検査技師会、超音波検査学会、

蓮 沼 裕 也 (はすぬま ゆうや) 助教



出生年：1986(昭和61)年
 在籍：2012(平成24)年4月～
 最終学歴：大東文化大学スポーツ・健康科学部健康科学科修了
 学位：健康科学士
 学位論文：
 専門分野：臨床微生物学、感染症学、細菌学、感染制御学
 前職：東海大学医学部附属病院 院内感染対策室 技術員
 学内役職等：
 留学：
 資格：臨床検査技師、認定臨床微生物検査技師、2級臨床検査士(微生物学)、遺伝子分析科学認定士(初級)
 非常勤講師：茅ヶ崎看護専門学校 非常勤講師(微生物学)
 千葉科学大学危機感理学部 非常勤講師(微生物・医動物学実習)
 受賞・表彰：一般社団法人 色材協会 2014 JSCM Most Accessed

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略					
<p>家畜から分離される抗菌薬耐性菌研究の一環として、健康人および食用肉からの耐性菌分離を行った。また臨床検査センターの協力を得て、神奈川県や東京都の病院から分離される耐性菌ESBLの疫学調査を実施した。本研究は基礎研究と臨床現場をつなぐ橋渡しの研究として、今後神奈川県近郊の耐性菌制御の一助となると確信している。</p> <p>また耐性菌制御のため、薬剤耐性菌早期検出を目指した高速液体クロマトグラフィによる検査法の確立と、抗菌薬を用いない感染症治療法として光線力学的療法PDTおよびPTによる抗菌活性について、標準菌株及び臨床菌株を用いて細菌学的立場から検討した。</p> <p>これらの成果の一部は学会発表、または論文執筆による報告を行った。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
Characteristic and Molecular Epidemiology of Cefotaxime Resistant Enterobacteriaceae Isolated from Healthy College Students.	単著	2016年	TOIN Ronso	Hasunuma, Y	71-78
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(口頭発表)ラクトフェリンによるストレス軽減効果の検討	2016年5月	第70回日本・栄養食糧学会大会, 神戸ポートピアホテル	清水智美・蓮沼裕也 他		
(口頭発表)5-アミノレブリン酸を用いた <i>Propionibacterium acnes</i> へのポルフィリン化合物の集積に及ぼすアミノ酸の添加効果	2016年6月	第26回日本PDT学会, はまぎんホール	緒方亜里紗・蓮沼裕也 他		
(口頭発表) Comparison of Cefotaxime Resistant Enterobacteriaceae Isolated from Domestic and Imported Broilers in Japan	2016年9月	The 32nd World Congress of Biomedical Laboratory Science 神戸国際展示場	Yuya HASUNUMA, Nozomi HIYOSHI, Moe YOKEMURA, Yoshikazu TOKUOKA		
(口頭発表) マラソン(50Km・20Km)による自律神経応答(中高年マラソンランナーの場合)(第二報)	2016年9月	第71回体力医学会大会, マイオスアリーナ岩手	清水智美・蓮沼裕也 他		

(ポスター) Characteristics and Molecular Epidemiology of Cefotaxime Resistant Enterobacteriaceae Isolated from Healthy College Students	2016年10月	第11回桐蔭医用工学国際シンポジウム, 桐蔭横浜大学	HASUNUMA, Y・YOKEMURA, M et al.
(ポスター) Effect of Amino Acids on Accumulation of 5-aminolevulinic Acid-induced Porphyrin Compounds in Propionibacterium acnes	2016年10月	第11回桐蔭医用工学国際シンポジウム, 桐蔭横浜大学	OGATA, A・HASUNUMA, Y et al.
(ポスター) Study of Phototherapy for Staphylococcus aureus Using White LED Devices	2016年10月	第11回桐蔭医用工学国際シンポジウム, 桐蔭横浜大学	KANAZAWA, K・HASUNUMA, Y et al.
(ポスター) Antimicrobial Susceptibility of Extended-spectrum β -lactamase-producing Escherichia coli isolated clinically in Kanagawa Prefecture	2016年10月	第11回桐蔭医用工学国際シンポジウム, 桐蔭横浜大学	YOKEMURA, M・HASUNUMA, Y et al.
(ポスター) Determination of Degradation of Antibacterial Agents by β -Lactamase-Producing Bacteria Using High Performance Liquid Chromatography	2016年10月	第11回桐蔭医用工学国際シンポジウム, 桐蔭横浜大学	NARASHIMA, R・HASUNUMA, Y et al.
(口頭発表) 神奈川県内中小規模病院から分離されたCeftazidime高度耐性ESBL産生 Escherichia coliの薬剤耐性プロファイルと分子疫学調査	2017年1月	第28回日本臨床微生物学会総会, 長崎ブリックホール	蓮沼裕也・石松尚 他
(口頭発表) 神奈川県内で臨床分離された基質拡張型 β -ラクタマーゼ産生 Escherichia coliの疫学調査	2017年1月	第28回日本臨床微生物学会総会, 長崎ブリックホール	除村萌・蓮沼裕也 他
(口頭発表) Staphylococcus aureusに対する白色LEDを用いた発育抑制効果機序の検討	2017年1月	第28回日本臨床微生物学会総会, 長崎ブリックホール	金沢浩平・蓮沼裕也 他
(口頭発表) 高速液体クロマトグラフィーを用いた β -ラクタマーゼ産生菌による抗菌薬分解の検出	2017年1月	第28回日本臨床微生物学会総会, 長崎ブリックホール	檜島莉香・蓮沼裕也 他
○その他			
(その他特記事項)			
株式会社 保健科学研究所と共同で、神奈川近郊の病院から検出される耐性菌の疫学調査を実施(2014年12月～現在)			

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本臨床衛生検査技師会、日本臨床微生物学会、日本臨床検査自動化学会、日本細菌学会、日本体力医学会、LAMP法研究会、PCR感染症研究会、臨床微生物迅速診断研究会、動物用抗菌薬研究会

臨床工学科 (Department of Clinical Engineering)

佐藤 敏夫 (さとう としお) 教授



出生年：1961(昭和36)年
在籍：1997(平成9)年12月～
最終学歴：慶應義塾大学工学部計測工学科
桐蔭横浜大学大学院工学研究科博士後期課程制御システム工学専攻
東京女子医科大学医学部研究生
学位：博士(医学)、博士(工学)
学位論文：Evaluation of blood access dysfunction based on a wavelet transform analysis of shunt murmurs (医学博士論文)
非線形破壊力学に基づいた歯科用低溶陶材の信頼性評価に関する研究(工学博士論文)
専門分野：生体工学、破壊力学、音響工学、臨床工学
前職：(株)東京計器 MRDセンター副主事
学内役職等：キャリア情報センター副センター長(2013～)
留学：
資格：第1種ME技術実力検定試験合格、第2種ME技術実力検定試験合格、臨床工学技士免許
非常勤講師：千葉科学大学危機管理学部医療機器管理学科
読売医療福祉専門学校臨床工学専攻科
受賞・表彰：科学技術庁から第51回注目発明選定証を受賞(1992)
2002年度材料技術研究協会討論会 技術賞
2003年度材料技術研究協会討論会 ゴールドポスター賞
2008年度材料技術研究協会討論会 ゴールドポスター賞
2011年度ものづくり技術交流会 ポスター賞
2013年度日本医工学治療学会学術大会 優秀演題賞
2013年度日本人工臓器学会 第51回日本人工臓器学会大会コメディカル賞(腎臓)
2014年日本人工臓器学会 第52回日本人工臓器学会大会第1回萌芽研究ポスターセッション 優秀賞
2016年日本人工臓器学会 第54回日本人工臓器学会大会萌芽研究ポスターセッション 優秀賞
第32回ライフサポート学会大会,第16回日本生活支援工学会大会,日本機械学会 福祉工学シンポジウム2016 若手プレゼンテーション賞

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略

臨床工学技士が従事する体外循環、血液浄化分野において直面する様々な問題の解決を目指した新しいデバイスの開発および理論解析等を実施した。どのテーマも臨床工学技士の業務推進および向上に直結しており、研究成果はこれまでと同様に日本人工臓器学会、日本医工学治療学会、日本音響学会、日本生体医工学会、桐蔭医用工学国際シンポジウム等で報告した。特に血液透析用留置針の最適形状を実験的に検討したテーマは、第54回日本人工臓器学会大会萌芽研究ポスターセッションにおいて報告したところ、高い評価を受けて優秀賞を受賞することができた。さらに、第32回ライフサポート学会大会,第16回日本生活支援工学会大会,日本機械学会 福祉工学シンポジウム2016では、新しい高齢者の嚥下機能スクリーニング検査方法について検討した内容を報告したところ、臨床現場や介護現場からの反響も大きく、若手プレゼンテーション賞を受賞することができた。

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
“Effects of side holes on blood removal characteristics based on measurement of the pressure distribution inside dialysis puncture needles”	共著	2016年6月15日	桐蔭論叢 第34号	Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi	91-96頁
血液凝固前後の吸光度変化測定に基づく血液回路内凝固の非侵襲検出	共著	2016年6月15日	桐蔭論叢 第34号	坂元英雄, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫 , 阿岸鉄三	97-101頁
「圧力センサー付ガイドワイヤーを用いた透析用留置針内部の圧力分布測定(第2報:側孔数と配置の違いが脱血特性に及ぼす影響)」	共著	2016年7月1日	医工学治療 Vol.28 No.2	山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫 , 阿岸鉄三	80-91頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「血液透析用17G留置針の実血流量確保を目的とした側孔の最適化設定の試み」	2016年4月26日～28日	第55回日本生体医工学会大会 富山国際会議場、富山市民プラザ	田口友樹, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫 , 阿岸鉄三		
「光吸光度測定に基づく血液回路内凝固の非侵襲検出方法」	2016年4月26日～28日	第55回日本生体医工学会大会 富山国際会議場、富山市民プラザ	坂元英雄, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫 , 阿岸鉄三		
「数値流体力学解析による血液透析用留置針の側孔が実血流量に及ぼす影響に関する理論検討」	2016年4月26日～28日	第55回日本生体医工学会大会 富山国際会議場、富山市民プラザ	島崎直也, 中根紀章, 田口友樹, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫 , 阿岸鉄三		
「非侵襲嚥下機能評価を目的とした嚥下音の時間-周波数分析」	2016年4月26日～28日	第55回日本生体医工学会大会 富山国際会議場、富山市民プラザ	可児雅弥, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫 , 阿岸鉄三		
“Time-frequency Analysis of Swallowing Sounds in Non-invasive Evaluation of Swallowing Function”	2016年6月15日～18日	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO’s 62th Annual Conference San Francisco	Masaya Kani, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi		
“Optimized Settings for Side Holes to Ensure Actual Blood Flow Through 17G Indwelling Needles for Hemodialysis”	2016年6月15日～18日	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO’s 62th Annual Conference San Francisco	Yuki Taguchi, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi		
“A Study of the Effects of Side Holes in Indwelling Needles for Hemodialysis on Actual Blood Flow Rate Using Computational Fluid Dynamics Analysis”	2016年6月15日～18日	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO’s 62th Annual Conference San Francisco	Naoya Shimazaki, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi		
“A Theoretical Analysis of Shape Optimization to Minimize Clinging of Double Lumen Catheters with Side Holes”	2016年6月15日～18日	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO’s 62th Annual Conference San Francisco	Youichi Marushita, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi,		

“Non-invasive Detection of Coagulation in Blood Circuits Based on Measurement of Light Absorbance”	2016年6月15日～18日	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO’s 62th Annual Conference San Francisco	Hideo Sakamoto, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi,
“ Examination of Mechanism Underlying Shunt Sound Using Numerical Computation”	2016年6月15日～18日	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO’s 62th Annual Conference San Francisco	Noriaki Nakane, Naoya Shimazaki, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
「嚥下音信号のウェーブレット変換による嚥下機能の非侵襲かつ定量的評価の試み」	2016年 9月4日	LIFE2016(第32回ライフサポート学会大会,第16回日本生活支援工学会大会,日本機械学会 福祉工学シンポジウム2016) 東北大学青葉山キャンパス	可児雅弥, 古滝莉加, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫 , 阿岸鉄三
“Method for Swallowing Sound Extraction for Non-invasive Assessment of Swallowing Function”	2016年10月29日	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Msaya Kani , Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi , Tsuneo Takahashi
“Experimental Investigation of Side Hole Placement to Develop Thin Indwelling Needles with Low Deviation in Flow Rate for Hemodialysis”	2016年10月29日	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Yuki Taguchi, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
“Selective Visualization of the Interior of Indwelling Needles with Particle Image Velocimetry (PIV)”	2016年10月29日	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Daisuke Arai , Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
“Proposal of a Non-invasive Method for Assessing Swallowing Function and Tests of the Swallowing Function Improvement Effects by Carbonic Beverage”	2016年10月29日	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Rika Furutaki, Masaya Kani , Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato , Tetsuzo Agishi, Tsuneo Takahashi
“Pulsatile Circulation System for Testing a Non-invasive Method for Assessing Vascular Access Function”	2016年10月29日	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Shuto Inoue, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
“Examination of Mechanism Underlying Shunt Sound Using Numerical Computation”	2016年10月29日	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Noriaki Nakane, Naoya Shimazaki , Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi , Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
“Color Sensors for Detection of Blackening of Intracircuit Blood with Coagulation”	2016年10月29日	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Syouhei Oota , Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi , Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
“Theoretical Study Using Computational Fluid Dynamics to Optimize Side Holes on 17G Indwelling Needles for Hemodialysis”	2016年10月29日	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Naoya Shimazaki , Noriaki Nakane , Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi , Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
“Artificial Blood Clot Generator for Testing an Intracircuit Coagulation Detection Method by Monitoring Changes in Blood Flow Sound”	2016年10月29日	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Takuya Shioda , Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi , Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
“Method for Simulating Gradual Coagulation in a Blood Circuit and Proposal of Optimal Drip Chamber Shape for Coagulation Suppression”	2016年10月29日	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Jyunya Yamamoto, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi , Toshio Sato , Tetsuzo Agishi

「高設定流量でも実流量との乖離がない留置針の実現を目的とした側孔配置の実験的検討」	2016年11月23～25日	第54回日本人工臓器学会大会 米子コンベンションセンター・米子市文化ホール	田口友樹, 島崎直也, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「血液透析用留置針の側孔最適化を目的としたCFD解析」	2016年11月23～25日	第54回日本人工臓器学会大会 米子コンベンションセンター・米子市文化ホール	島崎直也, 中根紀章, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「嚙下音の時間-周波数解析による非侵襲嚙下機能評価-嚙下音を構成する3音の安定的採取方法-」	2016年11月23～25日	第54回日本人工臓器学会大会 米子コンベンションセンター・米子市文化ホール	可児雅弥, 古滝莉加, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三, 高橋常男
「バスキュラーアクセス機能の非侵襲評価を目的とした臨床におけるシャント音を忠実に再現するための循環モデルの検討」	2016年11月23～25日	第54回日本人工臓器学会大会 米子コンベンションセンター・米子市文化ホール	井上周杜, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「コアクシャル型ダブルルーメンカテーテルにおけるへばりつき発生の定量的評価システム」	2016年11月23～25日	第54回日本人工臓器学会大会 米子コンベンションセンター・米子市文化ホール	菅野聖乃, 鈴木勇人, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「カラーセンサによる凝固に伴う回路内血液の黒色化検出の試み」	2016年11月23～25日	第54回日本人工臓器学会大会 米子コンベンションセンター・米子市文化ホール	太田祥平, 坂元英雄, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「回路内血液の凝固前後における吸光度変化の波長依存性とその要因に関する検討」	2016年11月23～25日	第54回日本人工臓器学会大会 米子コンベンションセンター・米子市文化ホール	坂元英雄, 太田祥平, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「非侵襲嚙下機能評価方法の提案とそれを用いた炭酸強度の違いによる嚙下機能改善効果の検証」	2016年11月23～25日	第54回日本人工臓器学会大会 米子コンベンションセンター・米子市文化ホール	古滝莉加, 可児雅弥, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「緩徐な回路内凝固の進展を模擬するための凝固塊発生装置の評価と血流音変化のモニタリングによる回路内凝固検出の試み」	2016年11月23～25日	第54回日本人工臓器学会大会 米子コンベンションセンター・米子市文化ホール	塩田卓也, 小田島 奨, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「粒子画像流速測定法(PIV)による血液透析用留置針内部の選択的可視化の試み」	2016年11月23～25日	第54回日本人工臓器学会大会 米子コンベンションセンター・米子市文化ホール	荒井大輔, 善波奨之, 田口友樹, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
○その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
“Award of Excellence (Posterl session)”	2016年10月29日	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Naoya Shimazak , Noriaki Nakane, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
“Award of Excellence (oral session)”	2016年10月29日	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Masaya Kani , Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi, Tsuneo Takahashi

「若手プレゼンテーション賞」	2016年11月17日	第32回ライフサポート学会大会,第16回日本生活支援工学会大会,日本機械学会 福祉工学シンポジウム2016 東北大学青葉山キャンパス	可児雅弥, 古滝莉加, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「高設定流量でも実流量との乖離がない留置針の実現を目的とした側孔配置の実験的検討」	2016年11月23～25日	日本人工臓器学会 将来計画・学会活性化委員会 米子コンベンションセンター・米子市文化ホール	田口友樹, 島崎直也, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
ASAIO 62th annual conference	2016年6月15日～18日	San Francisco(米国)	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本医工学治療学会、日本透析医学会、日本医療機器学会、日本臨床工学技士会、日本音響学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2009年1月1日～2016年12月31日	日本医工学治療学会 評議員
2009年1月～現在	日本医工学治療学会 編集委員
2017年5月22日～現在	日本医工学治療学会 特別理事

佐野元昭 (さの もとあき) 教授



出生年：1959(昭和34)年
 在籍：1999(平成11)年4月～
 最終学歴：東京工業大学大学院理工学研究科物理学専攻博士後期課程
 学位：理学博士
 学位論文：光複屈折による六方晶ABX₃型反強磁性体の相転移の研究
 専門分野：信号処理、画像処理、コンピュータグラフィックス
 前職：東京工業大学大学院総合理工学研究科助手
 学内役職等：教務委員(工学系学部)(2003～2012)
 規程検討委員会委員(2008～2015)
 おもしろ理科教室実行委員会委員(2009～)委員長(2011
 入試・広報センター(2013～2015)、
 アドミッション委員(2012～2015)
 大学入試センター試験 試験場本部 統括責任(2012～
 図書館運営委員(2013～2015)
 ハラスメント対策委員(2013)
 情報処理教育委員(2013～)
 インディカフェ(2013～2015)
 (社)私立大学情報教育協会(2013～)窓口
 (電算事故調査委員会委員(2015))
 学生部長(2016)、学生委員会(委員長)(2016～)
 文化教育推進本部(2016～)
 留学：
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：電気学会論文発表賞(1992)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
コンピュータリテラシ	2009年4月 2010年4月 2011年4月 2012年4月 2013年4月 2014年4月 2015年4月 2016年4月 2017年4月	毎年新生を対象に行われる情報処理関係のオリエンテーションの資料として、情報処理演習室の使い方から、インターネット基礎およびWord、Excel、PowerPointの簡単な説明までを1冊にまとめた参考書である。
物理 I 物理 II	2010年4月および9月 2011年4月および9月 2012年4月および9月 2013年4月および9月 2014年4月および9月 2015年4月および9月 2016年4月および9月 2017年4月および9月	工学系学部を対象にした「物理 I」、「物理 II」のテキストである。小林講師、中丸非常勤、私の3名で担当しており、私の分担は、物理 I は静力学、物理 II は電荷、電流・電圧、回路である。2012年からは、小林講師と私の2名になったので改定。

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略					
<p>新たな科研費の研究として、通常のCCDカメラを用いた葉の固有振動解析により、植物の水ストレスを推定するための研究を行った。その結果、植物の葉の固有振動数を測定し、その日周変化を計測する場合、高価なハイスピードカメラやレーザ変位計を用いなくても、一般に市販されているごく普通のCCDカメラで、十分な精度が得られることが確認され、安価に植物の水ストレスが推定できる可能性が示唆された。この成果は、日本音響学会で発表した。また、この内容を桐蔭論叢に投稿した。なお、この研究では、葉の固有振動数を計測する方法として、葉の特徴点の相関追尾によりその振動変位を求め、それをフーリエ解析しているが、来年度は、特徴点の追尾を行わず、画像全体の揺らぎ情報から、葉の固有振動数を推定する方法を検討する予定である。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「新・基礎 電磁気学演習」	共著	2016年6月10日	サイエンス社	永田一清、 佐野元昭 、轟木義一	特定不可
(学術論文)					
「植物の葉の固有振動数のモデル化に関する研究」	共著	2016年	桐蔭論叢 第34号	内川千春、杉本恒美、 佐野元昭 、中川裕	139-143 頁
「高分子厚膜の圧力センサを用いた土壌圧力の測定に関する研究」	共著	2016年	桐蔭論叢 第34号	大平武征、杉本恒美、 佐野元昭 、白川貴志、中川裕、内川千春	145-148 頁
「レーザ変位計を用いた葉の同時多点振動解析による植物の水ストレスの推定」	共著	2016年	桐蔭論叢 第34号	佐野元昭 、内川千春、中川裕、安齋拓也、大平武征、白川貴志、杉本恒美	155-158 頁
「縦挿し型送受信機を用いた土壌中の伝搬速度計測」	共著	2016年6月28日	桐蔭論叢 第34号	白川貴志、大平武征、中川裕、 佐野元昭 、杉本恒美	135-138 頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「葉の同時多点振動解析による植物の水ストレスの推定」	2016年9月13日	日本生物環境工学会2016年金沢大会	佐野元昭 、内川千春、中川裕、大平武征、白川貴志、杉本恒美		
“Examination of sound wave propagation velocity and volume water content in Komatsuna (Japanese mustard spinach) settled compost ”	2016年10月29日	11th Toin International Symposium on Biomedical Engineering Sophos Hall, Toin Gakuen Academium B1F	Takeyuki OHDAIRA, Tsuneyoshi SUGIMOTO, Motoaki SANO , Takashi SHIRAKAWA , Yutaka NAKAGAWA , Chiharu UCHIKAWA		
“Propagation velocity in soil using Handheld Sound Source and Sensors(II)”	2016年10月29日	11th Toin International Symposium on Biomedical Engineering Sophos Hall, Toin Gakuen Academium B1F	Takashi SHIRAKAWA, Takeyuki OHDAIRA , Yutaka NAKAGAWA, Motoaki SANO , Tsuneyoshi SUGIMOTO		
“Study on the modeling of the resonance frequency of a plant leaf(II)”	2016年10月29日	11th Toin International Symposium on Biomedical Engineering Sophos Hall, Toin Gakuen Academium B1F	Chiharu UCHIKAWA, Tsuneyoshi SUGIMOTO, Motoaki SANO , Yutaka Nakagawa, Takeyuki OHDAIRA		
「通常のCCDカメラを用いた葉の固有振動数解析による植物の水ストレス推定」	2017年3月17日	日本音響学会春季研究発表会 明治大学生田キャンパス	佐野元昭 、内川千春、中川裕、大平武征、白川貴志、杉本恒美		

○その他		
(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
科学研究費助成事業	2015年4月～2018年3月	独立行政法人日本学術振興会 学術研究助成基金助成金(基盤研究(C))
科学研究費助成事業	2016年4月～2019年3月	独立行政法人日本学術振興会 学術研究助成基金助成金(基盤研究(C))

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本物理学会、応用物理学会、電気学会、日本音響学会、日本生物環境工学会

竹内 真一 (たけうち しんいち) 教授



出生年：1956(昭和31)年
 在籍：1994(平成6)年4月～
 最終学歴：武蔵工業大学大学院工学研究科修士課程電気工学専攻
 ：桐蔭横浜大学大学院工学研究科博士課程材料工学専攻
 学位：博士(工学)
 学位論文：信号処理による超音波診断装置の分解能改善に関する研究(修士)
 Study on applicability of microbubbles in harmonic imaging and development of ultrasound transducer for harmonic imaging(博士)
 専門分野：超音波工学、音響工学、医用生体工学、電子通信工学
 前職：(株)キメック研究開発センター計測電子システム部副主事
 学内役職等：医用工学部臨床工学科長(2012～)
 学務部副部長(2010・2011)
 留資格：第1級陸上無線技術士、第1種電気通信主任技術者(伝送交換)、第2種ME技術実力検定試験合格
 非常勤講師：日本工学院専門学校・臨床工学専攻科、東京工科大学・医療保健学部・理学療法士学科、看護学科、作業療法士学科
 受賞・表彰：第51回注目発明に選定(超音波流量測定方法およびその装置)、日本超音波医学会・超音波工学フェロー、電子情報通信学会・シニア会員、2000年度材料技術研究協会討論会ポスター賞受賞、2002年度材料技術研究協会技術賞、2002年度材料技術研究協会討論会ポスター賞、2005年度材料技術研究協会討論会ポスター奨励賞、Japanese Journal of Applied Physics：“Spotlight Paper”，2015年11月6日、

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略					
当研究室は主に、超音波の医療応用を目的とした研究を実施している。特に、本年も、超音波照射による脳腫瘍の治療を目的としたがん細胞のアポトーシス誘導の研究、心臓および血管内の治療診断を目的としたIVUS(Intra Vascular Ultrasound Imaging System)に使用する超小型超音波モーターの開発、IVUS用超音波プローブの研究、低強度パルス超音波を利用した骨折治癒促進システムに応用する簡易形超音波骨折部位検出装置の研究、音響キャビテーションの発生を伴う高強度の超音波音場でも壊れることなく音圧や音響強度の空間分布を計測可能な堅牢方ハイドロホンの研究と実用化のための共同研究を行っている。さらに高強度の超音波音場計測技術の研究を行っている。本年度は、本学当学科を中心として日本音響学会2016年春季研究発表会を本学キャンパスで開催し、私が実行委員長を務めた。佐藤学長、萩原学部長、内藤事務局長、当学科の教員の先生方のご助力をいただいで、この研究発表会を成功させることができた。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
“Development of anticavitation hydrophone using a titanium front plate: Effect of the titanium front plate in high-intensity acoustic field with generation of acoustic cavitation”	共著	2016年7月	Japanese Journal of Applied Physics vol. 55	Michihisa Shiiba, Nagaya Okada, Minoru Kurosawa, and Shinichi Takeuchi	07KE16 -1～5

“Micro-particle manipulation by single beam acoustic tweezers based on hydrothermal PZT thick film”	共著	2016年	AIP Advances 6, 035102 (2016); doi : 10.1063/1.4943492	Benpeng Zhu, Jiong Xu, Ying Li, Tian Wang, Ke Xiong, ,Changyang Lee, Xiaofei Yang, Michihisa Shiiba, Shinichi Takeuchi , , Qifa Zhou, and K. Kirk Shung	
◇ STATE OF THE ART 超音波測定技術の進歩◇ チタン前面板裏面に水熱合成チタン酸ジルコニウム酸鉛を成膜した耐音響キャビテーションハイドロホン	共著	2016年	日本超音波医学会誌・超音波医学 (Jpn J Med Ultrasonics)、Vol. 43 No. 2 (2016)	椎葉 倫久、岡田 長也、内田 武吉、黒澤 実、 竹内 真一	
チュートリアルーはじめての超音波圧電素子:圧電材料の選択法、特性測定法や等価回路、そして応用例についてー はじめての水中超音波トランスデューサ	単著	2016年	日本音響学会誌第72巻 5号	竹内 真一	pp.264~272
ナノダイヤモンド微粒子の超音波照射条件による粒子径への影響	共著	2016年	桐蔭論叢, 34(2016)	遠田 リキ, 池上 和志, 竹内真一	pp113-118
血管内での使用を目的としたアウトロータ型CS-USMの基礎検討 Basic Study of the outer rotor type CS-USM for the purpose used in intravascular	共著	2016年	桐蔭論叢, 34(2016)	栗田恵亮, 大関誠也, 竹内真一	pp123-126
ハイドロホン校正を目的とした高強度超音波音源の2次元音場シミュレーションによる音場設計 Acoustic Field Design by 2D Acoustic Field Simulation for High-intensity Ultrasound Source System for Calibration of hydrophone	共著	2016年	桐蔭論叢, 34(2016)	五十嵐 茂, 森下 武志、 竹内 真一	pp.127-133
膵臓癌細胞への超音波照射によるアポトーシス誘導に関する基礎研究 Basic research on the effect of ultrasound irradiation on the survival rate of pancreatic cancer cells	共著	2016年	桐蔭論叢, 34(2016)	佐藤 貴亮, 菅俣浩明、, 西村裕之、吉田 薫、萩原啓実、 竹内 真一	pp.103-107
コイル状ステータ超音波モータの音響導波路材料の基礎研究 Fundamental Study on acoustic waveguide material for the Coiled Stator Ultrasound Motor	共著	2016年	桐蔭論叢, 34(2016)	上原 長佑、大関 誠也、 竹内 真一	pp119-122
癌細胞にアポトーシスを誘導するための超音波照射装置に関する基礎研究 —φ35シャーレと96ウェルプレートの底の振動速度の測定— Basic study on the ultrasound exposure system for apoptosis induction to cancer cells - Measurement of vibrating velocity on the bottom of φ35 dish and well plate -	共著	2016年	桐蔭論叢, 34(2016)	菅俣 浩明、佐藤 貴亮、 竹内 真一	pp.109-1112

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
“Anti-cavitation hydrophone with hydrothermal lead zirconate titanate polycrystalline film, titanium front plate and backing”	May 16-17, 2016	13th Annual Ultrasonic Transducer Engineering Conference (UTEC 2016), Torrance Marriott Redondo Beach (Torrance, CA, U.S.A.)	Shinichi Takeuchi , Michihisa Shiiba and Nagaya Okada
コイル状ステータ超音波モータの音響導波路材料の基礎検討	2016年5月28日	日本超音波医学会第89回学術集会(国立京都国際会館、京都)	上原長佑、大関誠也、 竹内真一
血管内超音波検査システム用コイル状ステータ超音波モータの試作	2016年5月29日	日本超音波医学会第89回学術集会(グランドプリンスホテル京都、京都)	栗田恵亮、大関誠也、 竹内真一
癌細胞の治療を目的とした超音波照射システムにおける水槽内の音場測定 ー固定した細胞培養容器内に透過した超音波の音場分布ー	2016年5月29日	日本超音波医学会第89回学術集会(国立京都国際会館、京都)	菅俣 浩明、佐藤 貴亮、椎葉 倫久、 竹内 真一
受音面をチタンとした耐高音圧ハイドロホンの開発-HIFU音場の測定-	2016年5月29日	日本超音波医学会第89回学術集会(グランドプリンスホテル京都、京都)	椎葉倫久、岡田長也、内田武吉、黒澤実、 竹内真一
脳腫瘍の治療を目的とした超音波照射システムの基礎検討 Basic study of ultrasound irradiation system for the purpose of treatment of brain tumors	2016年6月	第35回日本脳神経超音波学会総会(産業貿易センタービル・神奈川シンポジア)	菅俣浩明、佐藤貴亮、椎葉倫久、 竹内真一
超音波照射がラット神経膠腫細胞株 C6 へ与える効果に関する検討	2016年 9月	日本音響学会2016年春秋研究発表会講演論文集(富山大学、富山)	菅俣 浩明、佐藤 貴亮、 竹内 真一
アウターロータ型コイル状ステータ超音波モータの試作	2016年 9月	日本音響学会2016年春秋研究発表会講演論文集(富山大学、富山)	栗田 恵亮、上原 長佑、大関 誠也、 竹内 真一
中空パイプを用いたコイル状ステータ超音波モータの作製	2016年 9月	日本音響学会2016年春秋研究発表会講演論文集(富山大学、富山)	上原 長佑、栗田 恵亮、大関 誠也、 竹内 真一
Developing of Tough Hydrophone for High Intensity Acoustic Field at Low Frequency	18 Sep - 21 Sep 2016	2016 IEEE International Ultrasonics Symposium (IUS), Convention Center Vinci (Tours, France)	Nagaya Okada, Michihisa Shiiba, Minoru K. Kurosawa, Shinichi Takeuchi
可変角超音波探触子を用いた骨折部位の簡易超音波診断システムの基礎研究	2016年 10月	平成28年度 神奈川県ものづくり技術交流会 プログラム 28th Oct. 2016, (神奈川産業技術センター、神奈川)	遠山大樹、 竹内真一
血管内での使用を目的としたアウターロータ型CS-USMの試作 -実用化に向けた小型化-	2016年 10月	平成28年度 神奈川県ものづくり技術交流会 プログラム 28th Oct. 2016	栗田恵亮、上原長佑、大関誠也、 竹内真一

医療応用を目的としたコイル状ステータ超音波モータの基礎検討-音響導波路の形状による検討-	2016年 10月	平成28年度 神奈川県ものづくり技術交流会 プログラム 28th Oct. 2016	上原長佑、栗田恵亮、大関誠也、 竹内真一
“Effects of ultrasound irradiation at frequency of 1.75MHz to the rat glioma cell line C6”	2016, Oct. 29	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering (Yokohama)	Hiroaki SUGAMATA and Shinichi TAKEUCHI
“Study on technique for measuring the amount of generated acoustic cavitation”	2016, Oct. 29	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering (Yokohama)	Takeyoshi Uchida, Shinichi Takeuchi and Tsuneo Kikuchi
“Consideration of Experimental System for High Intensity Ultrasound Source using Cylindrical Acoustic Waveguide - Material selection and Fabrication Method for Acoustic Waveguide -”	2016, Oct. 29	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering (Yokohama)	Shigeru Igarashi, Takeshi Morishita and Shinichi Takeuchi
“Outer rotor type coiled stator ultrasound motor for use in intravascular - Consideration of miniaturization toward practical application-”	2016, Oct. 29	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering (Yokohama)	Keisuke KURITA, Choyu UEHARA, Seiya OZEKI and Shinichi TAKEUCHI
“Developing of Tough Hydrophone for the Ultrasonic Cleaner and the HIFU System”	2016, Oct. 29	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering (Yokohama)	Nagaya Okada, Michihisa Shiiba and Shinichi Takeuchi
“Basic consideration on relationship between deposition time and crystal growth process for Hydrothermally Synthesized PZT Polycrystals”	2016, Oct. 29	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering (Yokohama)	Seiya OZEKI and Shinichi TAKEUCHI
“Fundamental Study of coiled stator ultrasound motor using wire acoustic waveguide”	2016, Oct. 29	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering (Yokohama)	Choyu UEHARA, Keisuke KURITA, Seiya OZEKI and Shinichi TAKEUCHI
“Actualizing risks of an erroneous operation due to model change of infusion pumps”	2016, Oct. 29	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering (Yokohama)	Akihiro Watanabe, Satoshi Suzuki and Shinichi Takeuchi
超音波照射がラット神経膠腫細胞株C6に及ぼす影響の基礎検討	2016年11月12日	超音波照射がラット神経膠腫細胞株C6に及ぼす影響の基礎検討”、第15回日本超音波治療研究会、第3回超音波分子診断治療研究会共催、東京女子医科大学 TWIns (東京)	菅俣浩明、佐藤貴亮、 竹内真一
“Effect of hydrophone on high-intensity acoustic fields with generation of acoustic cavitation bubbles”	2016年11月16日	The 37th Symposium on Ultrasonic Electronics (USE 2016), Nov. 16th 2016, Pukyong National University (Busan, Korea)	Nagaya Okada, Michihisa Shiiba, Shinichi Takeuchi
“Effect of hydrophone on high-intensity acoustic fields with generation of acoustic cavitation bubbles”	2016年11月16日	The 37th Symposium on Ultrasonic Electronics (USE 2016), Nov. 16th 2016, Pukyong National University (Busan, Korea)	Nagaya Okada, Michihisa Shiiba, Shinichi Takeuchi

“Experimental evaluation of high intensity ultrasound source system using acoustic waveguide for calibration of hydrophone”	2016年11月16日	The 37th Symposium on Ultrasonic Electronics (USE 2016) , Nov. 16th 2016, Pukyong National University (Busan, Korea)	Shigeru Igarashi, Takeshi Morishita, Takeyoshi Uchida, Shinichi Takeuchi
“Examination of the inner rotor type coiled stator ultrasound motor using wire acoustic waveguide”	2016年11月16日	The 37th Symposium on Ultrasonic Electronics (USE 2016) , Nov. 16th 2016, Pukyong National University (Busan, Korea)	Choyu Uehara, Keisuke Kurita, Seiya Ozeki, Shinichi Takeuchi
“Examination of the outer rotor type coiled stator ultrasound for intravascular”	2016年11月16日	The 37th Symposium on Ultrasonic Electronics (USE 2016) , Nov. 16th 2016, Pukyong National University (Busan, Korea)	Keisuke Kurita, Choyu Uehara, Seiya Ozeki, Shinichi Takeuchi
“Development of anti-cavitation hydrophone using a titanium front plate: durability test in the high intensity focused ultrasound field”	November 28, 2016	th Joint Meeting of the Acoustical Society of America and the Acoustical Society of Japan, Hilton Hawaiian Village (Honolulu, Hawaii, U.S.A.)	M. Shiiba, N. Okada and S. Takeuchi
“Micro ultrasound motor with coiled stator for rotationally driving of ultrasound beam of Intravascular ultrasound imaging system”	December 02, 2016	th Joint Meeting of the Acoustical Society of America and the Acoustical Society of Japan, Hilton Hawaiian Village (Honolulu, Hawaii, U.S.A.)	S. Takeuchi , K. Kurita, C. Uehara and S. Ozeki
“Acoustic field measurement of high-intensity ultrasound source system using acoustic waveguide for calibration of hydrophone”	December 02, 2016	th Joint Meeting of the Acoustical Society of America and the Acoustical Society of Japan, Hilton Hawaiian Village (Honolulu, Hawaii, U.S.A.)	S. Igarashi; T. Morishita; S. Takeuchi
“Study on ultrasound irradiating conditions for apoptosis induction in the rat glioma cell line C6”	December 02, 2016	th Joint Meeting of the Acoustical Society of America and the Acoustical Society of Japan, Hilton Hawaiian Village (Honolulu, Hawaii, U.S.A.)	H. Sugamata, T. Sato and S. Takeuchi
可変角超音波探触子を用いた骨折部位の簡易超音波診断システムの基礎研究	2016年12月	電子情報通信学会・日本音響学会共催超音波研究会、電子情報通信学会技術報告 vol. 116, no. 352, US2016-62, pp. 7-12	遠山大樹、竹内真一
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
“Anti-cavitation hydrophone with hydrothermal lead zirconate titanate polycrystalline film, titanium front plate and backing”	May 16-17, 2016	13th Annual Ultrasonic Transducer Engineering Conference (UTECE 2016), May 16-17, 2016, Torrance Marriott Redondo Beach (Torrance, CA, U.S.A.)	Shinichi Takeuchi, Michihisa Shiiba and Nagaya Okada
○その他			
(産学協同研究)			
研究内容	研究期間	協同研究の相手方の名称	
「ハイドロホン、超音波モータおよび超音波診断治療技術の研究」	2016年4月1日～現在	本多電子株式会社	

(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
「ハイドロホン、超音波モータおよび超音波診断治療技術の研究」	2016年4月1日～現在	本多電子・奨学寄附金
(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
13th Annual Ultrasonic Transducer Engineering Conference (UTEC 2016), May 16-17, 2016 ,Torrance Marriott Redondo Beach (Torrance, CA, U.S.A.)	2016年5月16日～17日	Torrance, CA, U.S.A
The 37th Symposium on Ultrasonic Electronics (USE 2016) , Nov. 16th 2016, Pukyong National University (Busan, Korea)	2016年11月16日～18日	Busan, Korea
th Joint Meeting of the Acoustical Society of America and the Acoustical Society of Japan, Hilton Hawaiian Village (Honolulu, Hawaii, U.S.A.)	2016年11月28日～12月3日	Honolulu, Hawaii, U.S.A

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
IEEE、MRS、電子情報通信学会、日本音響学会、日本超音波医学会、日本脳神経超音波学会、日本非破壊検査協会、材料技術研究協会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2009年05月～現在	日本超音波医学会・超音波検査士制度委員会委員(基礎領域・領域副責任者)
2008年05月～現在	日本音響学会・研究発表会・プログラム編集委員
2011年5月～現在	超音波シンポジウム論文委員会委員
2009年04月～現在	電子情報通信学会・シニア会員
2009年05月～現在	日本超音波医学会・超音波工学フェロー
2015年08月～現在	日本超音波医学会・超音波専門医制度委員会委員(基礎領域・領域副責任者)
2010年04月～現在	電子情報通信学会・シニア会員
2011年04月～現在	電子情報通信学会・超音波専門委員会委員(再任)
2014年04月～現在	日本音響学会・研究発表会・準備委員会・委員



出生年：1955(昭和30)年
 在籍：1994(平成6)年4月～
 最終学歴：長岡技術科学大学大学院情報制御工学専攻博士後期課程修了
 学位：工学博士
 学位論文：レジスタ転送レベルのハードウェア設計における機能検証
 専門分野：(情報処理工学)最適化アルゴリズム、(電子工学)携帯医療機器のハードとソフト
 前職：株式会社日立製作所中央研究所客員研究員
 学内役職等：学生委員会委員、研究推進部委員、ハラスメント相談員、
 (前年度学内役職等)：入試試験委員会委員
 留学：
 資格：アマチュア無線技士(電話級)
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)学部の一部の担当科目用のホームページを作成し、授業の講義内容等を公開している	2009年～現在	公開ページのリンクは、下記の通りである。 http://www.cc.toin.ac.jp/sc/palacios/portal/education_j.html
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)幾つかの科目の教科書や参考書等を作成	2007年～現在	公開ページのリンクは、下記の通りである。 http://www.cc.toin.ac.jp/sc/palacios/portal/books_j.html
4.その他教育活動上特記すべき事項		
(1)日本ペルー共生協会のNPOのボランティア・グループで外国籍の児童等の教育	2001年～現在	文化庁や国際移住機関駐日事務所「IOM」と日本国文部科学省の支援事業等の補助金で色々な補習や就学支援の教室やコース等の活動に関わっている。 http://www.ajape.org/

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略					
医用画像のノイズ軽減方法に関する技術論文を国際学会で発表した。ヒュリスティック・アルゴリズムを臨床データの選択に使用して、これまで検討して来ている最近傍法(kNN:k Nearest Neighbor)の正答率向上の検討を開始した。遺伝的アルゴリズムの基本的な仕組みを用いる研究テーマも4年生の一人がやってもらって、その結果は本学出版の学術雑誌「桐蔭論叢」に投稿し、(2017年の)第36号に搭載される。また、遺伝的アルゴリズムの交叉率と突然変異率を動的に行うような方法も検討して、この方法で得られた結果をGlobal Medical Engineering Physics Exchanges and Pan American Health Care Exchanges GMEPE/PAHCE 2017の国際学会で発表した。さらに、進化論的なアルゴリズム及び免疫アルゴリズムの検討も開始した。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「ウェーブレットを用いた医用画像のノイズ軽減方法」	共著	2016年6月15日	桐蔭論叢第34号	保崎誠, Palacios Pawlovsky Alberto	159-163頁
「携帯機器用生体信号処理システム」	共著	2016年6月15日	桐蔭論叢第34号	永島孝浩, Palacios Pawlovsky Alberto	165-172頁

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
“A New Way of Applying Spatial Filters and Wavelets to Reduce Noise in Medical Images”	2016年11月24日	TENCON 2016 Singapore	Alberto Palacios Pawlovsky , Makoto Hozaki
“The Use of a Novel Genetic Algorithm in Component Selection for a kNN Method for Breast Cancer Prognosis”	2017年3月23日	Global Medical Engineering Physics Exchanges and Pan American Health Care Exchanges GMEPE/PAHCE 2017 Tuxtla-Gutierrez, Chiapas, Mexico	Alberto Palacios Pawlovsky , Hiroki Matsuhashi

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称		
ペルー工学会、IEEE(Senior Member)、電子情報通信学会(IEICE)、およびACMの各会員		
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
NPOの日本・ペルー共生協会(東京都)	2002年から現在まで	理事長

池上 和志 (いけがみ まさし) 准教授



出生年：1973(昭和48)年
 在籍：2006(平成18)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院化学研究科化学専攻修了
 学位：博士(理学)
 学位論文：Photochemical Reactions of Intra- and Intermolecularly Hydrogen Bonded Compounds (分子内及び分子間水素結合系の光化学反応に関する研究)
 専門分野：光化学、光電気化学
 前職：ペクセル・テクノロジーズ(株) 研究開発部博士研究員
 学内役職等：
 留学：
 資格：甲種危険物取扱者
 非常勤講師：
 受賞・表彰：グリーンサステナブルネットワーク文部科学大臣賞(2009)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
色素増感太陽電池実験キットの実用化と、学生実験での採用。高校生、中学生等への教育	2008年～	色素増感太陽電池の実験キットを活用して、環境問題、エネルギー問題を考える授業を展開。科学館、高校等でも小学生、中学生、高校生向けの講座を実施。
2.作成した教科書、教材、参考書		
色素増感太陽電池実験キット	2008年～	プラスチックフィルムを使い、きわめて安全な方法により、太陽電池を作製することができる実験キット。特開2008-198488

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略					
有機無機ハイブリッド化合物を用いた新型太陽電池であるペロブスカイト太陽電池の高効率化と軽量フレキシブル化に関する研究を進めた。特に、プラスチックフィルム上にn型半導体を製膜する技術、具体的には粒子径15nm以下の酸化チタンナノ粒子をプラスチックフィルム上で電極膜にする研究を進めることで、プラスチックフィルム型固体型ペロブスカイト太陽電池において変換効率15%以上と、世界最高水準まで高めることに成功した。また、フレキシブルエレクトロニクスの広い分野に活用できる酸化物半導層/透明導電層を積層したプラスチックフィルムを開発し、ペロブスカイト太陽電池にも応用した。この新型フィルムを用いることで、ペロブスカイト太陽電池の制作が各段に効率的となり、高校生の実験教室でも新型太陽電池を制作できるようになった。2016年度桐蔭横浜大学学園祭では、ノーベル化学賞受賞者の白川英樹先生をお招きし、桐蔭高校生と一緒に、ペロブスカイト太陽電池を制作する実験教室を行った。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
「ブルッカイトTiO ₂ 電子収集層を用いたフレキシブルペロブスカイト太陽電池(ペロブスカイト太陽電池の研究開発と実用化最新動向)」	共著	2016年6月	会報光触媒 49,	古郷敦史, 池上和志, 宮坂 力	88-91
「溶液法で作る高効率ペロブスカイト太陽電池」	共著	2016年8月7日	セラミックス 第51巻 8月号(2016年)	小島陽広, 池上和志	514-517

(学術論文)					
"Effect of Electron Transporting Layer on Bismuth-Based Lead-Free Perovskite (CH ₃ NH ₃) ₃ Bi ₂ I ₉ for Photovoltaic Applications"	共著	2016年5月26日	ACS Appl. Mater. Interfaces, 2016, 8	T. Singh, A. Kulkarni, M. Ikegami , and T. Miyasaka	14542-14547
"SnO _x -Brookite TiO ₂ Bilayer Electron Collector for Hysteresis-less High Efficiency Plastic Perovskite Solar Cells Fabricated at Low Process Temperature"	共著	2016年5月31日	Chem. Commun., 2016, 52	A. Kogo, M. Ikegami , and T. Miyasaka,	8119-8122
"Revealing and reducing the possible recombination loss within TiO ₂ compact layer by incorporating MgO layer in perovskite solar cells",	共著	2016年7月19日	Solar Energy, 2016, 136	A. Kulkarni, A. K. Jena, H.-W. Chen, Y. Sanehira, M. Ikegami , and T. Miyasaka	379-384
"Efficiency Enhancement of Hybrid Perovskite Solar Cells with MEH-PPV Hole-Transporting Layers"	共著	2016年10月4日	Scientific Reports, 2016, 6	H. -W. Chen, T. -Y. Huang, T. -H. Chang, Y. Sanehira, C. -W. Kung, C. -W. Chu, M. Ikegami , T. Miyasaka and K. -C. Ho	Article number: 34319
"Low-temperature and Ambient Air Processes of Amorphous SnO _x -based Mixed Halide Perovskite Planar Solar Cell",	共著	2016年12月24日	Chem.Lett., 2017, 46	P. Pinpithak, H.-W. Chen, A. Kulkarni, Y. Sanehira, M. Ikegami , and T. Miyasaka	382-384
"Degradation of CH ₃ NH ₃ PbI ₃ perovskite due to soft x-ray irradiation as analyzed by an x-ray photoelectron spectroscopy time-dependent measurement method"	共著	2017年2月28日	J. Appl. Phys., 2017, 121	K. Motoki, Y. Miyazawa, D. Kobayashi, M. Ikegami , T. Miyasaka, T. Yamamoto, and K. Hirose	085501
"An Ultrathin Sputtered TiO ₂ Compact Layer for Mesoporous Brookite-based Plastic CH ₃ NH ₃ PbI ₃ -xCl _x Solar Cells"	共著	2017年2月1日	Chem.Lett., 2017, 46	A. Kogo, S. Iwasaki, M. Ikegami , and T. Miyasaka	530-532
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
LiイオンドープBrookite TiO ₂ を用いたペロブスカイト太陽電池	2016年9月13日～16日	第77回応用物理学会秋季学術講演会、朱鷺メッセ	古郷 敦史, 實平 義隆, 沼田 陽平, 池上 和志 , 宮坂 力		
ナノ構造制御による二次元ペロブスカイトの結晶配向性と太陽電池特性への影響	2016年9月13日～16日	第77回応用物理学会秋季学術講演会、朱鷺メッセ	實平 義隆, 古郷 敦史, 沼田 陽平, 池上 和志 , 宮坂 力		
酸化チタン/ハロゲン化鉛ペロブスカイト複合膜の作製	2016年9月13日～16日	第77回応用物理学会秋季学術講演会、朱鷺メッセ	市井諒, 池上和志 , 宮坂 力		
バインダーフリー低温製膜酸化チタンペーストを用いるペロブスカイト太陽電池の特性	2016年9月13日～16日	第77回応用物理学会秋季学術講演会、朱鷺メッセ	秋山 航汰, 池上和志 , 宮坂 力		
Brookite TiO ₂ -Based High Performance Perovskite Solar Cells by Low Temperature Fabrication	2017年2月3日～4日	AP-HOPV, Pacifico Yokohama,	Atsushi Kogo, Yoshitaka Sanehira, Masashi Ikegami , Tsutomu Miyasaka		

Crystalline orientation effect of 2D-perovskite on photovoltaic properties of solar cells prepared on TiO ₂ nanowire array	2017年2月3日～4日	AP-HOPV, Pacifico Yokohama,	Yoshitaka Sanehira, Youhei Numata, Masashi Ikegami , Tsutomu Miyasaka
Performance Degradation and Possible Recycle of The Perovskite Films to Recover The Cell Performance	2017年2月3日～4日	AP-HOPV, Pacifico Yokohama,	Ajay Jena, Masashi Ikegami , Tsutomu Miyasaka
Photosensitive diode characteristics of thick CH ₃ NH ₃ PbI ₃ layers on TCO substrate	2017年2月3日～4日	AP-HOPV, Pacifico Yokohama	Ryo Ichii, Masashi Ikegami , Tsutomu Miyasaka
低温製膜TiO _x /ブルッカイトTiO ₂ 電子収集層による高効率ペロブスカイト太陽電池	2017年3月14日～17日	第64回応用物理学会春季学術講演会、パシフィコ横浜	古郷 敦史、實平 義隆、沼田 陽平、 池上 和志 、宮坂 力
水蒸気加熱法によるペロブスカイト太陽電池用酸化チタン層の結晶化処理	2017年3月14日～17日	第64回応用物理学会春季学術講演会、パシフィコ横浜	實平 義隆、古郷 敦史、沼田 陽平、 池上 和志 、宮坂 力
Enhancement of light harvesting and photovoltaic properties by synergistic effect between indoline dye and methylammonium lead bromide perovskite on mesoporous TiO ₂ thin film	2017年3月25日～27日	電気化学会第84回大会、首都大学東京南大沢キャンパス	ピンビタック ピラタット、クルカルニアシシ、 池上 和志 、宮坂 力
Bismuth based Light Absorbing Materials for Lead Free Perovskite Solar Cell	2017年3月25日～27日	電気化学会第84回大会、首都大学東京南大沢キャンパス	クルカルニ アシシ、 池上 和志 、宮坂 力
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
水系前駆体溶液を用いたペロブスカイト太陽電池の低温製膜法	2016年12月5日	2016年度有機エレクトロニクスシンポジウム	京都大学宇治キャンパス きはだホール
有機系太陽電池における構成部材の開発動向と高効率化技術	2017年2月13日	情報機構技術セミナー	東京・大井町 きゅりあん
ペロブスカイト太陽電池の材料開発と特性評価の課題	2017年3月22日	技術情報協会セミナー	技術情報協会セミナールーム(東京・五反田)
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
有機無機ハイブリッド太陽電池における酸化物半導体の役割解明と軽量太陽電池への展開	2016年度～2018年度	平成28年度 科学研究費補助金 基盤研究(C)	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称		
日本化学会、光化学協会、日本光医学・光生物学会、電気化学会、アメリカ電気化学会		
任期、活動期間等	学会等における役職等	
2016年1月1日～12月31日	2016年国際固体素子・材料コンファレンス論文委員・Vice Chair	
2017年1月1日～12月31日	2016年国際固体素子・材料コンファレンス論文委員・Vice Chair	
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
ペクセル・テクノロジーズ株式会社 取締役	2009年6月～現在	ペクセル・テクノロジーズ株式会社

森 下 武 志 (もりした たけし) 准教授



出生年：1967(昭和42)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：横浜国立大学大学院工学府博士後期課程修了
 学位：博士(工学)
 学位論文：小型両眼視覚ロボットと教育への展開
 専門分野：医用システム統合工学、福祉環境工学、教育工学
 前職：神奈川県教育委員会職員 教諭 主任主事兼務(2004)
 学内役職等：入試広報副センター長 (2013～)
 留学：東京大学大学院知能機械情報学系研究科 情報システム工学研究室(井上・稲葉研究室)内地留学(2003)
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：Best Paper Award, Presented at the 22th International Symposium on Artificial Life and Robotics (AROB 2017)
 3rd International Micro-Mechanism Contest Excellent Award (2009)
 第26回全国高等学校総合文化祭 ロボットコンテスト(相撲ロボット自立型部門)優勝(2002)
 第12回全日本ロボット相撲 in USA 国際大会 自立型 サンプルランシスコ場所 準優勝(2000)
 神奈川県知事賞受賞(1995,1996,1997,1998,2002,2011)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)資格試験対策の効果的教育法への取り組みと指導	2013年3月～現在	第2種ME技術実力検定試験の試験対策学習方の実践
(2)医用工学部学生へのものづくり体験の推進・指導	2012年4月～現在	時間的制約を考慮した実践的ものづくり教育の展開
(3)福祉住環境教育に対する学習促進	2013年4月～現在	高齢化・福祉・居住環境に関する意識付けと動機を喚起する教育の実践
(4)医療系学生への工作機械を用いた機械加工学と体験的学習の指導	2013年4月～現在	医療系技術者育成における、工作物が製造されるまでの設計・製図・加工・評価の一連の流れを体験させ実践力を養う指導を実践
(5)医療系学生への工学的実験検証体験の指導	2014年4月～現在	座学で学ぶ工学的理論を、実験によって確認させることでより深い理解力を養う指導を実践
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)科目:医用工学総論 I	2012年4月～現在	3段式の復習を実現する第2種ME技術実力検定試験対策指導テキストと問題の作成
(2)科目:工学WS I 実習教材	2012年4月～現在	各種計測機器、設計製図、機械加工、実験的評価を系統立てた実践的教材とテキスト開発
(3)科目:工学WS II 実習教材	2012年4月～現在	実験計測と誤差、および統計的処理方に関する、実践的テキスト開発と実験での体験教育
(4)科目:福祉工学	2013年4月～現在	高齢社会、障害者など一般社会人として医療技術者として有用な知識を検定試験形式での教育教材の開発と実践
(5)科目:基礎工学実験教材	2014年4月～現在	交流回路実験を通して、波形、回路、位相、ベクトル等を座学や国試験問題等の裏付けを実験的に検証する教材開発

(6)科目:医用電磁気学	2014年8月～現在	ME検定試験、国家試験の電気系全般に網羅する範囲を確実な資格試験対応力を養う演習教材の開発
(7)科目:工学へのステップテキスト	2015年8月～現在	数値の科学的処理方法、電子回路作成方法などのできる限りわかりやくしたテキストの全面改訂版作成

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略					
医用システム統合学に関する研究 : メカトロニクス技術と医療機器とを融合した体外循環装置の開発に関する調査研究 マシンインテリジェンスに関する研究 : ロボット技術を応用した人工臓器開発に関する調査 福祉環境工学研究 : 高齢社会対策のための支援機器に関するシステムの開発に関する研究 健康工学に関する研究 : 科学技術の観点からアプローチする健康維持、美容・アンチエイジングに関する研究					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
ハイドロホン校正を目的とした高強度超音波音源の有限要素シミュレーションによる音場設計	共著	2016年6月15日	桐蔭論叢, 第34号	五十嵐茂、森下 武志、竹内真一	pp127-133
Integer inverse kinematics for arm control of compact autonomous robot	共著	2017年1月20日	Proceedings of 22nd International Symposium on Artificial Life and Robotics (AROB 22nd 2017)	Osamu Tojo, Takeshi Morishita	pp:308-313
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
リザーバーの重量変動を考慮した圧力センサを用いた貯血槽の貯血レベル計測に関する調査	2016年6月9日	日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会'16 講演論文集,1A2-01b5	山本愛里紗,小林悦弘,森下 武志		
人工心肺の貯血レベル安定化自動制御法に関する検討	2016年9月7日	第34回日本ロボット学会学術講演会' 講演論文集, 1W1-02	山本愛里紗, 川島朋之, 森下 武志		
人工心肺装置動脈フィルタの気泡除去装置開発に関する検討	2016年11月11日	第59回自動制御連合講演会'16 概要集, FrA8-5	山本愛里紗, 小林悦弘, 森下 武志		
Consideration on Experimental System for High Intensity Ultrasound Source using Cylindrical Acoustic Waveguide - Material Selection and Fabrication Method for Acoustic Waveguide -	2016年10月29日	Abstracts of TOIN International Symposium on Biomedical Engineering, pp108-109	Shigeru IGARASHI, Takeshi MORISHITA, Shinichi TAKEUCHI		
○その他					
(表彰・受賞)					
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)		
Best Paper Award	2017年1月	22th International Symposium on Artificial Life and Robotics (AROB 2017)	Takeshi Morishita and Osamu Tojo		

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称		
日本ロボット学会、日本機械学会、日本医療機器学会		
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
横浜北工業会学校幹事	2015年4月～現在	神奈川県

石河 睦生 (いしかわ むつお) 専任講師



出生年：1976(昭和51)年
 在籍：2011(平成23)年4月～
 最終学歴：東京工業大学大学院総合理工学研究科博士後期課程修了
 学位：博士(工学)
 学位論文：水熱合成法による圧電性多結晶膜の成膜と超音波トランスデューサへの応用
 専門分野：超音波工学、制御システム、電子機能システム、応用物理、人間工学
 前職：東京工業大学大学院 研究員、東京大学大学院 特任助教
 学内役職等：
 留学：University of Southern California (USA) (2009年11月～2010年10月)
 資格：第2種ME技術実力検定試験合格
 非常勤講師：
 受賞・表彰：2003年度材料技術研究協会学生論文賞(2003年)
 第25回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム奨励賞(2004年)
 平成21年度 コニカミノルタ画像科学奨励賞 (2009年)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
実験系授業における教材	2011年4月～現在	工学ワークショップ、基礎工学実験、医用工学実験における各授業での教材の作成と資料配付
第2種ME試験対策用教材	2012年4月～現在	試験対策用に勉強期間を設定し、8種類の資料作成と配布
物理学、電気工学、人間工学におけるそれぞれの教材	2013年4月～現在	前期後期共に、各授業15回分の授業における教材資料の作成と配付

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本音響学会、精密工学会、日本超音波医学会、電子情報通信学会、応用物理学会、材料技術研究協会、IEEE、MRS	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2008年8月～現在	NPO法人健康福祉工学会 理事
2014年4月～現在	材料技術研究協会 理事
2014年4月～現在	麗澤会 常任理事

本橋由香（もとはし ゆか）専任講師



出生年：1982(昭和57)年
 在籍：2009(平成21)年4月～
 最終学歴：桐蔭横浜大学大学院工学研究科医用工学専攻博士後期課程修了
 学位：博士(工学)
 学位論文：生体音の時間-周波数解析に基づく非侵襲診断方法に関する研究ーバスキュラーアクセス及び嚥下機能評価への適応ー
 専門分野：生体計測、臨床工学
 前職：桐蔭横浜大学職員
 学内役職等：
 留学：
 資格：第2種ME技術実力検定試験合格(2002)
 非常勤講師：
 受賞・表彰：桐蔭工学会賞(2007)
 2011年度ものづくり技術交流会 ポスター賞
 2013年度日本医工学治療学会学術大会 優秀演題賞
 2013年度日本人工臓器学会 第51回日本人工臓器学会大会コメディカル賞
 2014年日本人工臓器学会 第52回日本人工臓器学会大会第1回萌芽研究ポスターセッション 優秀賞
 2016年日本人工臓器学会 第54回日本人工臓器学会大会萌芽研究ポスターセッション 優秀賞
 第32回ライフサポート学会大会,第16回日本生活支援工学会大会,日本機械学会 福祉工学シンポジウム2016 若手プレゼンテーション賞

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略					
2015年度に引き続き、生体音の時間-周波数解析に基づく生体機能評価方法に関する研究を中心に行った。特に高齢化社会の到来によって、高齢者の嚥下機能を簡便に評価し、適切な食事を提供する試みが一般的になってきた。そのため、第32回ライフサポート学会大会,第16回日本生活支援工学会大会,日本機械学会 福祉工学シンポジウム2016 において、嚥下音の評価による嚥下機能スクリーニング検査方法に関する研究内容を報告したところ、その内容に対して高い評価を受け、若手プレゼンテーション賞を受賞することができた。また、前年度まで実施してきた血液透析用留置針やダブルルーメンカテーテルの最適形状の提案を目的とした有限要素法を用いた理論解析および体外循環中の血液回路内などに関する研究成果についても日本人工臓器学会、日本医工学治療学会、日本音響学会、桐蔭医用工学国際シンポジウム等で発表し、参加者らと臨床現場や介護現場での実用化に向けた議論を行うことができた。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
Effects of side holes on blood removal characteristics based on measurement of the pressure distribution inside dialysis puncture needles	共著	2016年6月15日	桐蔭論叢 第34号	Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi	91-96頁
血液凝固前後の吸光度変化測定に基づく血液回路内凝固の非侵襲検出	共著	2016年6月15日	桐蔭論叢 第34号	坂元英雄, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三	97-101頁
「圧力センサー付ガイドワイヤーを用いた透析用留置針内部の圧力分布測定(第2報:側孔数と配置の違いが脱血特性に及ぼす影響)」	共著	2016年7月1日	医工学治療 Vol.28 No.2	山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三	80-91頁

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
「血液透析用17G留置針の実血流量確保を目的とした側孔の最適化設定の試み」	2016年4月26日～28日	第55回日本生体医工学会大会 富山国際会議場、富山市民プラザ	田口友樹, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「光吸光度測定に基づく血液回路内凝固の非侵襲検出方法」	2016年4月26日～28日	第55回日本生体医工学会大会 富山国際会議場、富山市民プラザ	坂元英雄, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「数値流体力学解析による血液透析用留置針の側孔が実血流量に及ぼす影響に関する理論検討」	2016年4月26日～28日	第55回日本生体医工学会大会 富山国際会議場、富山市民プラザ	島崎直也, 中根紀章, 田口友樹, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「非侵襲嚥下機能評価を目的とした嚥下音の時間-周波数分析」	2016年4月26日～28日	第55回日本生体医工学会大会 富山国際会議場、富山市民プラザ	可児雅弥, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
“Time-frequency Analysis of Swallowing Sounds in Non-invasive Evaluation of Swallowing Function”	2016年6月15日～18日	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO’s 62th Annual Conference San Francisco	Masaya Kani, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Optimized Settings for Side Holes to Ensure Actual Blood Flow Through 17G Indwelling Needles for Hemodialysis”	2016年6月15日～18日	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO’s 62th Annual Conference San Francisco	Yuki Taguchi, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“A Study of the Effects of Side Holes in Indwelling Needles for Hemodialysis on Actual Blood Flow Rate Using Computational Fluid Dynamics Analysis”	2016年6月15日～18日	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO’s 62th Annual Conference San Francisco	Naoya Shimazaki, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“A Theoretical Analysis of Shape Optimization to Minimize Clinging of Double Lumen Catheters with Side Holes”	2016年6月15日～18日	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO’s 62th Annual Conference San Francisco	Youichi Marushita, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi,
“Non-invasive Detection of Coagulation in Blood Circuits Based on Measurement of Light Absorbance”	2016年6月15日～18日	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO’s 62th Annual Conference San Francisco	Hideo Sakamoto, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi,
“Examination of Mechanism Underlying Shunt Sound Using Numerical Computation”	2016年6月15日～18日	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO’s 62th Annual Conference San Francisco	Noriaki Nakane, Naoya Shimazaki, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
「嚥下音信号のウェーブレット変換による嚥下機能の非侵襲かつ定量的評価の試み」	2016年 9月4日	LIFE2016(第32回ライフサポート学会大会,第16回日本生活支援工学会大会,日本機械学会 福祉工学シンポジウム2016) 東北大学青葉山キャンパス	可児雅弥, 古滝莉加, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
“Method for Swallowing Sound Extraction for Non-invasive Assessment of Swallowing Function”	2016年10月29日	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Msaya Kani, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi, Tsuneo Takahashi
“Experimental Investigation of Side Hole Placement to Develop Thin Indwelling Needles with Low Deviation in Flow Rate for Hemodialysis”	2016年10月29日	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Yuki Taguchi, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Selective Visualization of the Interior of Indwelling Needles with Particle Image Velocimetry (PIV)”	2016年10月29日	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Daisuke Arai, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi

“Proposal of a Non-invasive Method for Assessing Swallowing Function and Tests of the Swallowing Function Improvement Effects by Carbonic Beverage”	2016年10月29日	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Rika Furutaki, Masaya Kani, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi, Tsuneo Takahashi
“Pulsatile Circulation System for Testing a Non-invasive Method for Assessing Vascular Access Function”	2016年10月29日	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Shuto Inoue, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Examination of Mechanism Underlying Shunt Sound Using Numerical Computation”	2016年10月29日	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Noriaki Nakane, Naoya Shimazaki, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Color Sensors for Detection of Blackening of Intracircuit Blood with Coagulation”	2016年10月29日	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Syouhei Oota, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Theoretical Study Using Computational Fluid Dynamics to Optimize Side Holes on 17G Indwelling Needles for Hemodialysis”	2016年10月29日	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Naoya Shimazaki, Noriaki Nakane, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Artificial Blood Clot Generator for Testing an Intracircuit Coagulation Detection Method by Monitoring Changes in Blood Flow Sound”	2016年10月29日	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Takuya Shioda, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Method for Simulating Gradual Coagulation in a Blood Circuit and Proposal of Optimal Drip Chamber Shape for Coagulation Suppression”	2016年10月29日	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Jyunya Yamamoto, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
「高設定流量でも実流量との乖離がない留置針の実現を目的とした側孔配置の実験的検討」	2016年11月23～25日	第54回日本人工臓器学会大会 米子コンベンションセンター・米子市文化ホール	田口友樹, 島崎直也, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「血液透析用留置針の側孔最適化を目的としたCFD解析」	2016年11月23～25日	第54回日本人工臓器学会大会 米子コンベンションセンター・米子市文化ホール	島崎直也, 中根紀章, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「嚥下音の時間-周波数解析による非侵襲嚥下機能評価-嚥下音を構成する3音の安定的採取方法-」	2016年11月23～25日	第54回日本人工臓器学会大会 米子コンベンションセンター・米子市文化ホール	可児雅弥, 古滝莉加, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三, 高橋常男
「バスキュラーアクセス機能の非侵襲評価を目的とした臨床におけるシャント音を忠実に再現するための循環モデルの検討」	2016年11月23～25日	第54回日本人工臓器学会大会 米子コンベンションセンター・米子市文化ホール	井上周杜, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「コアクシヤル型ダブルルーメンカテーテルにおけるへばりつき発生の定量的評価システム」	2016年11月23～25日	第54回日本人工臓器学会大会 米子コンベンションセンター・米子市文化ホール	菅野聖乃, 鈴木勇人, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「カラーセンサによる凝固に伴う回路内血液の黒色化検出の試み」	2016年11月23～25日	第54回日本人工臓器学会大会 米子コンベンションセンター・米子市文化ホール	太田祥平, 坂元英雄, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「回路内血液の凝固前後における吸光度変化の波長依存性とその要因に関する検討」	2016年11月23～25日	第54回日本人工臓器学会大会 米子コンベンションセンター・米子市文化ホール	坂元英雄, 太田祥平, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「非侵襲嚥下機能評価方法の提案とそれを用いた炭酸強度の違いによる嚥下機能改善効果の検証」	2016年11月23～25日	第54回日本人工臓器学会大会 米子コンベンションセンター・米子市文化ホール	古滝莉加, 可児雅弥, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三

「緩徐な回路内凝固の進展を模擬するための凝固塊発生装置の評価と血流音変化のモニタリングによる回路内凝固検出の試み」	2016年11月23～25日	第54回日本人工臓器学会大会 米子コンベンションセンター・米子市文化ホール	塩田卓也, 小田島 奨, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「粒子画像流速測定法(PIV)による血液透析用留置針内部の選択的可視化の試み」	2016年11月23～25日	第54回日本人工臓器学会大会 米子コンベンションセンター・米子市文化ホール	荒井大輔, 善波奨之, 田口友樹, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
○その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
“Award of Excellence (Poster session)”	2016年10月29日	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Naoya Shimazaki, Noriaki Nakane, Shinobu Yamauch, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Award of Excellence (oral session)”	2016年10月29日	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Masaya Kani, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi, Tsuneo Takahashi
「高設定流量でも実流量との乖離がない留置針の実現を目的とした側孔配置の実験的検討」	2016年11月23～25日	日本人工臓器学会 将来計画・学会活性化委員会 米子コンベンションセンター・米子市文化ホール	田口友樹, 島崎直也, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「若手プレゼンテーション賞」	2016年11月17日	第32回ライフサポート学会大会, 第16回日本生活支援工学会大会, 日本機械学会 福祉工学シンポジウム2016 東北大学青葉山キャンパス	可児雅弥, 古滝莉加, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本透析医学会、日本医工学治療学会、日本医療機器学会、日本音響学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2013年1月1日～2016年12月31日	日本医工学治療学会 評議員

山内 忍 (やまうち しのぶ) 専任講師



出生年：1976(昭和51)年
 在籍：2012(平成24)年～
 最終学歴：桐蔭横浜大学大学院工学研究科博士後期課程医用工学専攻
 学位：博士(工学)
 学位論文：血液透析用留置針内の圧力分布測定に基づく側孔の最適化に関する研究

専門分野：臨床工学、生体機能代行装置学
 前職：日本工学院専門学校臨床工学科
 学内役職等：
 留資格：臨床工学技士、透析技術認定士、呼吸療法認定士、第2種ME技術実力検定試験合格

非常勤講師：
 受賞・表彰：2013年度日本医工学治療学会学術大会 優秀演題賞
 2013年度日本人工臓器学会 第51回日本人工臓器学会大会コメディカル賞
 2014年日本人工臓器学会 第52回日本人工臓器学会大会第1回萌芽研究ポスターセッション 優秀賞
 2016年日本人工臓器学会 第54回日本人工臓器学会大会萌芽研究ポスターセッション 優秀賞
 第32回ライフサポート学会大会,第16回日本生活支援工学会大会,日本機械学会 福祉工学シンポジウム2016 若手プレゼンテーション賞

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略					
2016年度に実施した主な研究テーマとして、嚙下音の時間-周波数解析に基づく嚙下機能評価方法の提案、血液透析用留置針やダブルルーメンカテーテルの最適形状の提案を目的とした流れの可視化、有限要素法を用いた理論的解析、人工心肺用血液回路や透析用血液回路内での血液凝固発生の早期検出を目的としたシステムの開発などを行った。研究成果はこれまでと同様に、日本人工臓器学会、日本医工学治療学会、米国人工臓器学会、LIFE等で発表を行った。第54回日本人工臓器学会では萌芽研究ポスターセッションにおいて優秀賞を受賞、第32回ライフサポート学会大会,第16回日本生活支援工学会大会,日本機械学会福祉工学シンポジウム2016では若手プレゼンテーション賞を受賞した。どのテーマも臨床業務に携わる臨床工学技士をはじめとする医療従事者や医療機器メーカーの開発担当者からのニーズを反映した開発要素を含むことから、高い評価を得ている。次年度以降も安全な医療の提供に貢献できる技術開発を実施していく予定である。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
Effects of side holes on blood removal characteristics based on measurement of the pressure distribution inside dialysis puncture needles	共著	2016年6月15日	桐蔭論叢 第34号	Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi	91-96頁
血液凝固前後の吸光度変化測定に基づく血液回路内凝固の非侵襲検出	共著	2016年6月15日	桐蔭論叢 第34号	坂元英雄, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三	97-101頁
「圧力センサー付ガイドワイヤーを用いた透析用留置針内部の圧力分布測定(第2報:側孔数と配置の違いが脱血特性に及ぼす影響)」	共著	2016年7月1日	医工学治療 Vol.28 No.2	山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三	80-91頁

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
「血液透析用17G留置針の実血流量確保を目的とした側孔の最適化設定の試み」	2016年4月26日～28日	第55回日本生体医工学会大会 富山国際会議場、富山市民プラザ	田口友樹, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「光吸光度測定に基づく血液回路内凝固の非侵襲検出方法」	2016年4月26日～28日	第55回日本生体医工学会大会 富山国際会議場、富山市民プラザ	坂元英雄, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「数値流体力学解析による血液透析用留置針の側孔が実血流量に及ぼす影響に関する理論検討」	2016年4月26日～28日	第55回日本生体医工学会大会 富山国際会議場、富山市民プラザ	島崎直也, 中根紀章, 田口友樹, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「非侵襲嚥下機能評価を目的とした嚥下音の時間-周波数分析」	2016年4月26日～28日	第55回日本生体医工学会大会 富山国際会議場、富山市民プラザ	可児雅弥, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
“Time-frequency Analysis of Swallowing Sounds in Non-invasive Evaluation of Swallowing Function”	2016年6月15日～18日	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO’s 62th Annual Conference San Francisco	Masaya Kani, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Optimized Settings for Side Holes to Ensure Actual Blood Flow Through 17G Indwelling Needles for Hemodialysis”	2016年6月15日～18日	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO’s 62th Annual Conference San Francisco	Yuki Taguchi, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“A Study of the Effects of Side Holes in Indwelling Needles for Hemodialysis on Actual Blood Flow Rate Using Computational Fluid Dynamics Analysis”	2016年6月15日～18日	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO’s 62th Annual Conference San Francisco	Naoya Shimazaki, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“A Theoretical Analysis of Shape Optimization to Minimize Clinging of Double Lumen Catheters with Side Holes”	2016年6月15日～18日	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO’s 62th Annual Conference San Francisco	Youichi Marushita, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi,
“Non-invasive Detection of Coagulation in Blood Circuits Based on Measurement of Light Absorbance”	2016年6月15日～18日	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO’s 62th Annual Conference San Francisco	Hideo Sakamoto, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi,
“Examination of Mechanism Underlying Shunt Sound Using Numerical Computation”	2016年6月15日～18日	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO’s 62th Annual Conference San Francisco	Noriaki Nakane, Naoya Shimazaki, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
「嚥下音信号のウェーブレット変換による嚥下機能の非侵襲かつ定量的評価の試み」	2016年 9月4日	LIFE2016(第32回ライフサポート学会大会,第16回日本生活支援工学会大会,日本機械学会 福祉工学シンポジウム2016) 東北大学青葉山キャンパス	可児雅弥, 古滝莉加, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三

“Method for Swallowing Sound Extraction for Non-invasive Assessment of Swallowing Function”	2016年10月29日	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Msaya Kani, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi, Tsuneo Takahashi
“Experimental Investigation of Side Hole Placement to Develop Thin Indwelling Needles with Low Deviation in Flow Rate for Hemodialysis”	2016年10月29日	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Yuki Taguchi, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Selective Visualization of the Interior of Indwelling Needles with Particle Image Velocimetry (PIV)”	2016年10月29日	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Daisuke Arai, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Proposal of a Non-invasive Method for Assessing Swallowing Function and Tests of the Swallowing Function Improvement Effects by Carbonic Beverage”	2016年10月29日	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Rika Furutaki, Masaya Kani, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi, Tsuneo Takahashi
“Pulsatile Circulation System for Testing a Non-invasive Method for Assessing Vascular Access Function”	2016年10月29日	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Shuto Inoue, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Examination of Mechanism Underlying Shunt Sound Using Numerical Computation”	2016年10月29日	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Noriaki Nakane, Naoya Shimazaki, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sat, Tetsuzo Agishi
“Color Sensors for Detection of Blackening of Intracircuit Blood with Coagulation”	2016年10月29日	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Syouhei Oota, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Theoretical Study Using Computational Fluid Dynamics to Optimize Side Holes on 17G Indwelling Needles for Hemodialysis”	2016年10月29日	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Naoya Shimazaki, Noriaki Nakane, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Artificial Blood Clot Generator for Testing an Intracircuit Coagulation Detection Method by Monitoring Changes in Blood Flow Sound”	2016年10月29日	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Takuya Shioda, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Method for Simulating Gradual Coagulation in a Blood Circuit and Proposal of Optimal Drip Chamber Shape for Coagulation Suppression”	2016年10月29日	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Jyunya Yamamoto, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
「高設定流量でも実流量との乖離がない留置針の実現を目的とした側孔配置の実験的検討」	2016年11月23～25日	第54回日本人工臓器学会大会 米子コンベンションセンター・米子市文化ホール	田口友樹, 島崎直也, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「血液透析用留置針の側孔最適化を目的としたCFD解析」	2016年11月23～25日	第54回日本人工臓器学会大会 米子コンベンションセンター・米子市文化ホール	島崎直也, 中根紀, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「嚥下音の時間-周波数解析による非侵襲嚥下機能評価-嚥下音を構成する3音の安定的採取方法-」	2016年11月23～25日	第54回日本人工臓器学会大会 米子コンベンションセンター・米子市文化ホール	可児雅弥, 古滝莉加, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三, 高橋常男
「バスキュラーアクセス機能の非侵襲評価を目的とした臨床におけるシャント音を忠実に再現するための循環モデルの検討」	2016年11月23～25日	第54回日本人工臓器学会大会 米子コンベンションセンター・米子市文化ホール	井上周杜, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三

「コアクシャル型ダブルルーメンカテーテルにおけるへばりつき発生の定量的評価システム」	2016年11月23～25日	第54回日本人工臓器学会大会 米子コンベンションセンター・ 米子市文化ホール	菅野聖乃, 鈴木勇人, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「カラーセンサによる凝固に伴う回路内血液の黒色化検出の試み」	2016年11月23～25日	第54回日本人工臓器学会大会 米子コンベンションセンター・ 米子市文化ホール	太田祥平, 坂元英雄, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「回路内血液の凝固前後における吸光度変化の波長依存性とその要因に関する検討」	2016年11月23～25日	第54回日本人工臓器学会大会 米子コンベンションセンター・ 米子市文化ホール	坂元英雄, 太田祥平, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「非侵襲嚙下機能評価方法の提案とそれを用いた炭酸強度の違いによる嚙下機能改善効果の検証」	2016年11月23～25日	第54回日本人工臓器学会大会 米子コンベンションセンター・ 米子市文化ホール	古滝莉加, 可児雅弥, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「緩徐な回路内凝固の進展を模擬するための凝固塊発生装置の評価と血流音変化のモニタリングによる回路内凝固検出の試み」	2016年11月23～25日	第54回日本人工臓器学会大会 米子コンベンションセンター・ 米子市文化ホール	塩田卓也, 小田島 奨, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「粒子画像流速測定法(PIV)による血液透析用留置針内部の選択的可視化の試み」	2016年11月23～25日	第54回日本人工臓器学会大会 米子コンベンションセンター・ 米子市文化ホール	荒井大輔, 善波奨之, 田口友樹, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
○その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
“Award of Excellence (Posterl session)”	2016年10月29日	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Naoya Shimazaki , Noriaki Nakane, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi , Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
“Award of Excellence (oral session)”	2016年10月29日	11th TOIN International Symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Masaya Kani , Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi , Toshio Sato , Tetsuzo Agishi , Tsuneo Takahashi
「高設定流量でも実流量との乖離がない留置針の実現を目的とした側孔配置の実験的検討」	2016年11月23～25日	日本人工臓器学会 将来計画・学会活性化委員会 米子コンベンションセンター・ 米子市文化ホール	田口友樹, 島崎直也, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「若手プレゼンテーション賞」	2016年11月17日	第32回ライフサポート学会大会,第16回日本生活支援工学会大会,日本機械学会 福祉工学シンポジウム2016 東北大学青葉山キャンパス	可児雅弥, 古滝莉加, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
ASAIO 62th annual conference	2016年6月15日～18日	San Francisco(米国)	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称

日本臨床工学技士会、日本透析医学会、日本音響学会

宮坂 力 (みやさか つとむ) 特任教授



出生年：1953(昭和28)年
 在籍：2001(平成13)年12月～
 最終学歴：東京大学大学院工学系研究科合成化学専攻博士課程
 学位：工学博士
 学位論文：光合成初期過程の電気化学シミュレーション
 専門分野：光電気化学、環境エネルギー化学
 前職：富士写真フイルム足柄研究所主任研究員
 学内役職等：研究推進部長(2012)
 留学：カナダ・ケベック大学トアリビエール校生物物理学科
 (1979～1980)
 資格：危険物取扱甲種主任
 受賞・表彰：2002年 (財)化学技術戦略推進機構「アカデミアショーケース」
 2004年 横浜市ベンチャービジネスプランコンテスト「アカデミー賞」
 2005年 Scientific American 50 selection (2005)
 2009年 GSC(グリーンサステナブルケミストリー)・文部科学大臣賞
 2012年 日本写真学会 学術賞

II 研究活動

○その他		
(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
「NEDO太陽光発電システム次世代高性能技術の開発」	2010年4月～現在	受託テーマ「フィルム型軽量低価格色素増感太陽電池の研究開発」、産学連携型
「有機無機ハイブリッド太陽電池の高効率化開発」	2013年10月～現在	科学技術振興機構(JST)、先端的低炭素化技術開発(ALCA)による研究助成、代表:桐蔭横浜大学(担当:宮坂力)
「有機金属のメソ構造体ハイブリッド化による物質変換と高機能化」	2014年4月～2019年度	科学研究費補助金・基盤B 研究助成
(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
2016 MRS Spring Meeting	2016年3月28日～4月2日	Phoenix Convention Center, Phoenix, USA
(雑誌・新聞記事等掲載)		
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称
「太陽電池の新星登場で、街中で発電が可能に ビルや電車が“発電所”になる日」	2016年2月号	Forbes JAPAN, No19

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本化学会、電気化学会、光化学協会、高分子学会、アメリカ電気化学会、MRS(Material Research Society)、写真学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2009年4月～現在	(独)科学技術振興機構(JST) 国際科学技術協力推進委員、審査委員
2010年4月～現在	研究開発支援プログラム(FIRST) サブテームリーダー
2010年4月～現在	(社)電気化学会評議員
2012年～現在	日本学術振興会、科学研究補助金評価委員

スポーツ健康政策学部 (Faculty of Culture and Sport Policy)

スポーツ教育学科 (Department of Sport Education)

井筒次郎 (いづつ じろう) 教授



出生年 : 1949(昭和24)年
在籍 : 2008(平成20)年4月～
最終学歴 : 日本体育大学大学院体育研究科修了
学位 : 修士(体育学)
学位論文 : 横浜市における社会体育の振興に関する調査研究
専門分野 : スポーツ教育学、保健体育科教育学、安全教育学
前職 : 流通経済大学スポーツ健康科学部教授
学内役職等 :
留学 :
資格 :
非常勤講師 :
受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
保健体育科教育学法	2009年9月～	体育・スポーツ専攻学生のための体育科教育学法、保健科教育学法講義用教科書。学習指導要領の改訂に伴って新たに出版されて。高等学校の「陸上競技」の部分執筆。106-109頁
「学校安全」講義資料	2011年9月～	教職必修科目である「学校安全」16回分の教材を冊子として作成。110頁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体育学会、日本学校保健学会、日本スポーツ教育学会、日本安全教育学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2008年9月～現在	日本安全教育学会監事
2007年4月～現在	(財)日本学校保健会健康教育推進学校表彰審査委員会委員

佐藤 豊(さとう ゆたか) 教授



出生年：1962(昭和37)年
 在籍：2016(平成28)年4月～
 最終学歴：横浜国立大学大学院教育学研究科修士課程修了
 学位：教育学修士
 学位論文：「高等学校における野外教育プログラムの効果及び評価について(横浜国立大学:教修第1930号)」(修士論文)
 専門分野：体育科教育学、スポーツ教育学、野外教育学
 前職：鹿屋体育大学スポーツ人文応用社会科学系教授
 学内役職等：教職課程委員会、FD委員会
 留学：
 資格：高等学校(保健体育)専修教員免許状
 中学校(保健体育)一種教員免許状
 学校心理士(学校心理士認定運営機構第72333号)
 非常勤講師：福岡教育大学
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
単元構造図方式によるユニットプラン作成ツールを用いたグループワークによる演習授業	2009～現在	学習指導に際しての俯瞰力および観点別学習評価理解のための演習ツールを開発し、大学、現職教員研修で実施、改良を図っている。
体づくり運動授業用アプリを用いたICT活用の効果的授業の模擬授業演習	2012～現在	一斉指導、個別指導、学習評価を踏まえたアプリを開発し、モデル校における研究成果を学会等で公表した。
単元計画、模擬授業、中学校授業演習、ビデオ省察の繰り返しによる実践的指導力の育成カリキュラム	2013～現在	教育実習前の実践的指導力育成のためのカリキュラムを開発し、大学紀要で成果を公表した。
大学版単元構造図の開発と、資質・能力評価シートの開発	2013～現在	カリキュラムポリシーに基づく15時間のユニットプラン(観点別学習評価計画)と効率的・効果的な評価シートの開発
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
平成28年度福岡県小中学校体力向上指導者研修会	2016年4月21日	福岡県内の体力向上の指導者養成のため学校における体力向上の取り組みについて講演をおこした。
兵庫県平成28年度県立学校体育主任会	2016年5月9日	学習指導要領の充実した取組みとこれからの授業づくりについてと題して、学習指導要領の改訂の動向について、中央教育審議会の論議の分析等の見解を述べた。
平成28年度福岡県専門研修(断続研修)保健体育研修講座	2016年6月14日	学習指導要領に基づく授業設計と学習評価について、単元構造図の作成を通したワークショップを行うとともに、体育授業におけるICT活用に向けて体づくり運動アプリを使った授業方法について演習を行った。
神奈川県行政職員自主研究会風の会研究会「2019ラグビーワールドカップ、2020オリンピック・パラリンピックを見据えたスポーツ行政の在り方」	2016年6月24日	神奈川県におけるオリンピック・パラリンピックの取り組みに向けて、何ができるかというテーマについて、情報提供を行い、意見交換をした。
山形県教育委員会いじめ防止・体罰等根絶に向けた運動部活動運営統括責任者研修会	2016年7月13日～14日	いじめ防止・体罰等の根絶に向けた運動部活動運営についての講演及び事例を踏まえたケース研究についての指導講評を実施した。

横浜市小学校体育科研修「体育・保健体育科におけるカリキュラムマネジメント」	2016年7月26日	新たな学習指導要領で求められているカリキュラム・マネジメントの概念及びその具体的な取り組み事例について紹介した。
香川県中学校教育研究会保健体育部会夏季研修会	2016年7月29日	これからの保健体育学習の在り方と題して、新学習指導要領の論議の動向を踏まえた授業づくりの在り方について見解を述べた。
第59回「筑波学校体育研究会・夏期研修会」	2016年8月1日	新学習指導要領における体育の動向について中央教育審議会の動向等を基にした体育授業への見解を述べた。
名古屋市学校体育研究会全国発表会	2016年8月2日	「次期改訂に向けて、今学校でできることは？」をテーマに新学習指導要領における体育の動向について中央教育審議会の動向等を参考とした見解を述べた。
2016International Sports Teaching Symposium(台湾)	2016年8月3日	台湾小中高教員対象に体づくり運動アプリの実技講習会を実施した。
鳥取県教育センター―「指導と評価の一体化を意識した授業づくり～「態度」の育成をめざして～」研修	2016年9月9日	学習指導要領に基づいた指導と評価の一体化及び「態度」の育成を意識した授業づくりを学ぶことにより、実践的指導力の向上を図るための演習を実施した。
福岡市体力向上のための指導者研修会	2016年9月16日	体力向上の指導者養成のため学校における体力向上の取り組みについて講演をおこした。
第59回富山県中学校教育課程研究大会保健体育部会 保健体育科におけるICT活用	2016年10月23日、24日	学習指導要領を踏まえた体育授業におけるICT活用に向けて体づくり運動アプリを使った授業方法について講義を行った。
宮崎県第57回研究大会高等学校部会	2016年10月26日	豊かなスポーツを継続する資質・能力をテーマとした公開授業に対する指導講評を行った。
全国学校体育研究大会和歌山ブレ大会 海南市立第三中学校	2016年11月17日	学習指導要領改訂を見据えた今後の保健体育学習のあり方について
高槻市(大阪)体育授業研修会	2016年12月1日	体づくり運動タブレットを活用した授業の実践について紹介した。
秋田県横手市体育研究会	2017年1月6日	学習指導要領改訂を見据えた今後の保健体育学習のあり方について
第32回愛知県高等学校保健体育研究大会	2017年1月25日	「次期学習指導要領改訂に向けた現行保健体育の充実について」
平成28年度(第60回)岩手県教育研究発表会	2017年1月10日	学校におけるオリンピック・パラリンピック教育の推進に向けて「オリンピック・パラリンピック教育の意味と価値」
第29回 神奈川県学校体育研究連合会研究大会 平成28年度 神奈川県児童生徒健康・体力づくり推進委員会	2017年3月7日	新たな学習指導要領の改訂と2020年オリンピック・パラリンピックに向けて今できる体育・保健体育の充実

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略

科学研究費補助金(日本学術振興会)基礎研究B(15H0364)教師養成、現職教員の協働によるアクション・ラーニング研修プログラムの開発をテーマとして、体育・保健体育ネットワーク研究会 <http://kyushunet.com/?from=m> (北海道・東北、北信越、中国・四国、九州)を23回開催およびホームページを通じて、学習指導要領の理解促進、授業づくり等をテーマに大学、教育委員会、教諭、教職を目指す学生の意見交換を中心としたアクション・ラーニング型研修の実践を図るとともに、韓国中央大学との研究交流協定、JADA(日本アンチドーピング機構)、日本体操学会、台湾師範大学と共同した授業改善に向けた研究を行った。日本体育学会、日本教育学会、Sports Mals in Italy等でのICT活用事例の研究成果の発表、教師教育における実践的指導力育成のためのカリキュラム研究について、大学紀要等で成果報告を行った。

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
組体操・競技 運動会の事故を防ごう、文部科学省の指針を読み解く	単著	2016.9	楽しい体育の授業9月号,no324	佐藤豊	4-5頁
次期学習指導要領改訂に向けた現行保健体育の充実について	単著	2017.1	第32回愛知県高等学校保健体育保健体育研究大会研究収録	佐藤豊	p57-73
スポーツの価値を基盤とした授業を通して目指すもの、授業づくりグループワーク	単著	2017.3	日本アンチ・ドーピング機構(JADA)スポーツの価値を基盤とした授業づくりワークショップ報告書2017	佐藤豊	pp9-13, pp44-70
(学術論文)					
学習指導要領の情報共有システム構築のための試論	共著	2016.6	スポーツ科学研究13号	佐藤豊, 友添秀則, 柴田一浩, 大越正大, 深見英一郎	pp.12-27
新たな時代の保健体育のアウトカムを考える『保健と体育の充実に向けた教育課程の可能性』:九州体育・保健体育ネットワーク研究会 2016ファイナル in福岡	共著	2016.12	桐蔭論叢, 35号	佐藤豊, 菊幸一, 森良一, 高橋修一	pp.35-41
単元構造図を用いた授業づくりアクション・ラーニング型研修プログラムの効果的活用に向けて、平成27年度～30年度 科学研究費助成事業 基礎研究B(15H0364)「教師養成、現職教員の協働によるアクション・ラーニング研修プログラムの開発 中間報告書	共著	2017.3	九州体育・保健体育ネットワーク研究会ホームページ https://kyushunet.com/sns/uploads/111_20170214055851.pdf	佐藤豊, 友添秀則, 日野克博, 吉野聡, 本多壮太郎, 高橋修一, 梶ちか子	P282
2016年台湾における教育行政及び小・中・高等学校の現状、平成27年度～30年度 科学研究費助成事業 基礎研究B(15H0364) 成果報告書	共著	2017.3	九州体育・保健体育ネットワーク研究会ホームページ https://kyushunet.com/sns/uploads/111_20170214055851.pdf	佐藤豊, 木原慎介, 清田美紀, 四方田健二, 大津展子, 青木哲也, 吉野聡, 本多壮太郎	
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
大学版単元構造図に基づく授業設計の試み(体育科教育学研究33-1,p67,2017.3)	2016年7月10日	日本体育科教育学会 第21回大会(滋賀県)	佐藤豊, 高橋修一, 大越正大, 木原慎介, 梶ちか子		
体育系大学のダンス授業において学習者が獲得したスキルについての検討ー単元構造図に基づく検証を通してー	2016年8月25日	第67回日本体育学会大会, 大阪	梶ちか子, 小松恵理子, 佐藤豊		
教師養成、現職教員の協働によるアクション・ラーニング研修プログラムの開発-2011年～2015年における体育の教員研修における単元構造図活用の有用性の検討-	2016年8月25日	第67回日本体育学会大会, 大阪	佐藤豊, 友添秀則, 高橋修一, 吉野聡, 本多壮太郎, 清水将, 日野克博, 梶ちか子		
高等学校体育におけるスポーツVI(体づくり運動)の指導体験が生徒の資質・能力の育成に及ぼす効果の検討	2016年8月25日	第67回日本体育学会大会, 大阪	佐藤若, 佐藤豊, 吉野聡		

○その他		
(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
アメリカオハイオ州立大学、近隣小中学校、ニューヨーク大学等における体育科教育の動向調査及び大学研究者との意見交換	2016年8月29日～9月7日	アメリカオハイオ州立大学他
The 2016 International Conference for the 5th East Asian Alliance of Sport Pedagogy 東アジアスポーツ教育学会(台湾・台北)	2016年12月2日～3日	National Taiwan Normal University (台湾師範大学)
ソウル近郊小学校、中学校、高等学校及び韓国中央大学への体育授業調査	2017年3月12日～15日	韓国中央大学他
(その他特記事項)		
九州体育・保健体育ネットワーク研究会, 第9回鹿屋ファイナルラウンド研究紀要, 2016,		

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
Ieasep(国際スポーツ教育学会)、日本体育学会、日本体育科教育学会、日本野外教育学会、日本体操学会、日本学校心理士会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2013年～2016年	日本体育科教育学会理事	
2012年～	日本スポーツ教育学会理事	
2012年～2016年	国立教育政策研究所指定研究開発学校(北広島町挑戦科)調査協力委員会座長	
2011年～2016年	長崎県地域スポーツ人材活用による運動部活動等推進事業委員会座長	
2011年～	毎日新聞社中学校体力づくりコンテスト審査委員	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
大学・教育委員会、学校の多様で広域な連携モデルによる授業研究会(33名) 千葉市弁天小学校	2016年5月22日	関東・北信越体育・保健体育研究会ネットワーク研究会 ピーナッツラウンド(千葉県事務局)
大学・教育委員会、学校の多様で広域な連携モデルによる授業研究会(35名)	2016年6月6日	北海道・東北体育・保健体育研究会ネットワーク研究会 宮城牛タンラウンド(宮城県事務局)
大学・教育委員会、学校の多様で広域な連携モデルによる授業研究会(29名) 北海道教育大学札幌駅前サテライト	2016年8月22日	北海道・東北体育・保健体育研究会ネットワーク研究会 宮城牛タンラウンド(宮城県事務局)
大学・教育委員会、学校の多様で広域な連携モデルによる授業研究会(31名) 新潟プラスサード	2016年9月26日	北信越体育・保健体育研究会ネットワーク研究会 新潟ときめきラウンド(新潟県事務局)
大学・教育委員会、学校の多様で広域な連携モデルによる授業研究会(34名) 山形中央高校	2016年10月3日	北海道・東北体育・保健体育研究会ネットワーク研究会 さくらんぼラウンド(山形県事務局)
大学・教育委員会、学校の多様で広域な連携モデルによる授業研究会(25名) 岩手大学	2016年11月7日	北海道・東北体育・保健体育研究会ネットワーク研究会 わんこそばラウンド(岩手県事務局)
大学・教育委員会、学校の多様で広域な連携モデルによる授業研究会(60名) 三菱総研	2016年12月26日	体育・保健体育研究会ネットワーク研究会+JADA(日本アンチドーピング機構)

大学・教育委員会、学校の多様で広域な連携モデルによる授業研究会(38名) 秋田県スポーツ科学センター	2017年1月9日	北海道・東北体育・保健体育研究会ネットワーク研究会 秋田きりたんぼラウンド(秋田県事務局)
大学・教育委員会、学校の多様で広域な連携モデルによる授業研究会(39名) コラッセ福島	2017年2月6日	北海道・東北体育・保健体育研究会ネットワーク研究会 福島ビーチラウンド(福島県事務局)
大学・教育委員会、学校の多様で広域な連携モデルによる授業研究会(8名) 台湾文科省、台北市立中山女子高級中学他	2017年3月17日～18日	体育・保健体育研究会ネットワーク研究会＋台湾師範大学
大学・教育委員会、学校の多様で広域な連携モデルによる授業研究会(60名) 鹿児島市勤労者交流センター 安全な組体操他	2017年3月26日	体育・保健体育研究会ネットワーク研究会＋日本体操学会

松原 静郎 (まつばら しずお) 教授



出生年：1951(昭和26)年2月
 在籍：2009(平成21)年4月～
 最終学歴：東京都立大学大学院理学研究科修士課程(化学専攻)修了
 学位：理学修士
 学位論文：「鉄-57およびスズ-119を含む化合物のメスバウアー分光学的研究」(修士論文)
 専門分野：科学教育、化学教育
 前職：国立教育政策研究所 教育課程研究センター 基礎研究部 総括研究官
 学内役職等：スポーツ教育学科長 (2016～)
 留学：オーストラリア教育研究所(オーストラリア)(1985.8-1986.6)
 資格：中学校教諭一級普通免許状(理科), 高等学校教諭二級普通免許状(理科)
 非常勤講師：首都大学東京 都市教養学部
 青山学院大学 教育人間科学部
 受賞・表彰：日本科学教育学会「科学教育研究奨励賞」受賞(1988年7月)
 日本科学教育学会「年会発表賞」受賞(2007年8月)
 日本化学会「化学教育賞」受賞(2010年3月)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
組立ブロックによる表現力育成に関する活動	2009年4月～現在	組立ブロックを用いて組み立てた形を、絵や文字で示し、他の人がそれを読んで同じものを再現する活動を行った。自分の表現方法を評価するとともに、再現に重要な点を確認した。重要な点は、科学におけるレポートの記載にも通じると考えている。
学生主導型授業	2015年4月～現在	4人班の中で学生が教師役を順次担当し、小学校理科の内容を教師役学生が授業日以前の昼休み2回を使って予備学習・予備実験をし、授業時には教師役学生が各班3人の児童役学生対象に授業を進めていく。プリント等の作成および指導の仕方は各教師役学生が工夫する。
2.作成した教科書、教材、参考書		
持続可能な発展に関する教材(プリント)	2008年4月～現在	持続可能な発展を目指した科学技術のあり方について、発電を題材として考察する。水力発電から火力発電、原子力発電、新エネルギーへと発電方法が広がっていく過程を知ることで、その過程がそれぞれの発電の問題点を積極的に解決していく努力によるものであることを理解し、自らの判断・意思決定や活動について考察していくとともに、次世代のことも考慮に入れる必要性について理解する。
理科の世界(大日本図書;文部科学省検定済中学校理科教科書)	2012年～現在	第一分野の「粒子」を柱とした内容に関して、構成、プロット、観察、実験活動、解説など、全般にわたって関与している。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
東京都福生市立第一小学校「東京都教育委員会学力ステップアップ推進地域指定事業」福生市	2016年9月7日	研究授業に対する指導講評と「理科での予想し表現する力」と題して、育成すべき資質・能力の三つの柱、特に表現する力の育成について講演した。

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略					
<p>科学研究費による次の研究を中心に進めた。(1) 持続可能な発展教材として開発実践してきたプラスチック教材を再検討し、① 時間不足、② 密度と浮き沈みの関係の理解不足、③ 実験とその結果の活用についての理解不足、④ 科学者や技術者の努力への認識不足の4点を解消するため、新たにペットボトル教材として開発し直した。この教材では実験として、液体の密度の測定と、液体中でのプラスチックの浮き沈みで分類する活動が入っており、いくつかの実験方法を開発検討中である。また、生徒が立案した実験計画で行う実験授業に生徒主導型実験PIEを導入することで、安全面でも実験面でも学習意欲面でも教師役の存在が大きく、生徒の安全確保や実験計画修正時の支援がより適切に行え、生徒の化学への学習意欲や理解度も高められたと考えられた。一方、課題としては、予備実験の負担、難易度の設定の難しさが挙げられた。(2) 実験教材では、引き続き、空気電池を用いた高橋式酸素センサを使って研修講座等で実践をしていただいた。酸素センサを自ら作製し小学校での使用場面を想定した学習プログラムと併せて提案した研修講座では、作製自体は概ねスムーズに実施でき、酸素センサの有用性も理解していたと考えるが、使用場面の紹介時間や動作の確認時間が不足していたこともあり、学校で自ら活用することに対しては、難しさや不安を抱く受講者が複数いたことがわかった。(3) モデル化学習については、これまでの実践結果も踏まえ、科学教育研究に投稿し掲載された。また、実践中のペットボトル教材で、モデル化学習への展開についても検討していく。(4) アジア諸国との協働研究では、韓国の晋州教育大学校で第7回国際ワークショップIWS-7が開催された。日本と韓国、マレーシア、フィリピンから教育関係者が参加し、この1年間に進めてきた研究について各自報告するとともに、韓国での教育状況を視察し、共通理解を深めた。そのほか、前年度に引き続いて小学校理科教科書分析をはじめ、デジタル教科書や化学のタブレット使用型試験についての検討を行った。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
『モデル化学習』の考え方、進め方に関する一考察 高校化学の試行実践を通して	共著	2016年6月10日	科学教育研究、40巻2号	後藤頭一、松原憲治、野内頼一、宮内卓也、北川輝洋、寺谷敏介、 松原静郎	166-179頁
中等教育化学領域でのモデル化学習における要素の定型化の枠組-化学実験での一連の活動への適用-	共著	2016年6月10日	科学教育研究、40巻2号	寺谷敏介、後藤頭一、松原憲治、野内頼一、 松原静郎	180-185頁
「理科教育における体験を通じた問題解決能力の育成—第3学年『電気の通り道』を例に—」	共著	2016年6月15日	桐蔭論叢 第34号	松原静郎 、岩間淳子	33-45頁
「生命倫理問題に対する大学生の意見—教育学科と看護学科の学生を比較して—」	共著	2016年6月15日	桐蔭論叢 第34号	岩間淳子、 松原静郎	59-69頁
「小学校理科「人の体のつくりと働き」の内容と変遷—体験を通じた体の構造と機能の理解に向けて—」	共著	2016年12月15日	桐蔭論叢 第35号	岩間淳子、 松原静郎	23-32頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「生徒主導型授業PIEの実践」	2016年8月6～7日	日本理科教育学会全国大会 発表論文集第14号、402頁、第66回全国大会(信州大学)	柳澤秀樹、北野賢一、 松原静郎		
「モデル化学習をとり入れた実験計画を立てる学習—中学校2年生「スチールウールの燃焼」の実践を通して—」	2016年8月6～7日	日本理科教育学会全国大会 発表論文集第14号、341頁、第66回全国大会(信州大学)	宮内卓也、寺谷敏介、松原憲治、 松原静郎		
「アクティブラーニングの視点からの授業改善—無機化学実験を通しての生徒の変容—」	2016年8月6～7日	日本理科教育学会全国大会 発表論文集第14号、324頁、第66回全国大会(信州大学)	高野裕恵、後藤頭一、 松原静郎		

「小学校理科における水中の微小生物の扱いとその変遷」	2016年8月6～7日	日本理科教育学会全国大会 発表論文集第14号、293頁、 第66回全国大会(信州大学)	岩間淳子、 松原静郎
「理科教科書に見る 問題解決能力育成の扱い —第6学年「水溶液の性質」—」	2016年8月6～7日	日本理科教育学会全国大会 発表論文集第14号、801頁、 第66回全国大会(信州大学)	松原静郎 、岩間淳子
「空気亜鉛電池を使った酸素センサの機能について」	2016年8月6～7日	日本理科教育学会全国大会 発表論文集第14号、404頁、 第66回全国大会(信州大学)	高橋三男、藪部幸枝、飯田寛志、 後藤頌一、 松原静郎
「水中の微小生物の観察を通じた生物多様性の理解と生命観育成—中学校第1学年「水中の微小な生物」を例に—」	2016年8月19～21日	日本科学教育学会年会論文集第40号、283-284頁、日本科学教育学会第40回年会(大分大学)	岩間淳子、 松原静郎
「高大接続に資するタブレットを用いる評価問題の開発—映像や動的オブジェクトを含む問題—」	2016年8月19～21日	日本科学教育学会年会論文集第40号、197-200頁、日本科学教育学会第40回年会(大分大学)	安野史子、西村圭一、山下卓弥、柳澤秀樹、浪川幸彦、根上生也、 松原静郎 、林誠一、笹尾幸夫、寺谷敏介、鮫島朋美、三宅正武、石川朝洋
「高大接続を視野に入れた化学のタブレット型試験の検討(1)」	2016年8月19～21日	日本科学教育学会年会論文集第40号、203-206頁、日本科学教育学会第40回年会(大分大学)	山下卓弥、柳澤秀樹、林誠一、 松原静郎 、笹尾幸夫、寺谷敏介、鮫島朋美、石川朝洋、安野史子
「高大接続を視野に入れた化学のタブレット型試験の検討(2)」	2016年8月19～21日	日本科学教育学会年会論文集第40号、207-208頁、日本科学教育学会第40回年会(大分大学)	柳澤秀樹、山下卓弥、林誠一、 松原静郎 、笹尾幸夫、寺谷敏介、鮫島朋美、石川朝洋、安野史子
「タブレット使用型試験予備調査における質問紙(化学)の結果」	2016年8月19～21日	日本科学教育学会年会論文集第40号、209-210頁、日本科学教育学会第40回年会(大分大学)	松原静郎 、山下卓弥、柳澤秀樹、林誠一、笹尾幸夫、寺谷敏介、鮫島朋美、石川朝洋、安野史子
“Opinions of Japanese University Students about Issues of Bioethics: Comparison between Male Students and Female Students”	2016年8月26～28日	EASE (East-Asian Association for Science Education), p.46, Tokyo University of Science, Tokyo, Japan	IWAMA Junko, UMENO Kunio and MATSUBARA Shizuo
“Development of “Plastics around us” Educational Materials and Sharing the Practices with Each Countries”	2016年8月29日～9月1日	IWS-7 (Seventh International Workshop for Sustainability), pp.84-92, Chinju National University of Education, Jinju, Korea	MATSUBARA Shizuo and Miyauchi Takuya
「生活科における植物を通じた生命への気付き—第2学年『やさしい』で扱われる植物教材を例に—」	2016年12月10日	日本理科教育学会第55回関東支部大会(埼玉大学)研究発表要旨集、47頁	岩間淳子、 松原静郎
「中学校理科における動物解剖の扱いとその変遷」	2017年1月7～8日	日本生物教育学会第101回全国大会(東京学芸大学)研究発表予稿集、49頁	岩間淳子、梅基國夫、 松原静郎 、鳩貝太郎
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
東京都教育委員会学カステップアップ推進地域指定事業での研究授業に対する指導助言及び講演	2016年9月7日	東京都福生市立第一小学校「東京都教育委員会学カステップアップ推進地域指定事業」	東京都福生市立第一小学校

○その他		
(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
「持続発展を題材としモデル化学習により科学知の活用と探究能力を育成する国際協働研究」	2014年4月～2018年3月	科学研究費補助金基盤研究(B)(課題番号26282040) 研究代表者
「我が国における各教科のデジタル教科書の活用及び開発に関する総合的調査研究」	2014年4月～2017年3月	科学研究費補助金基盤研究(B)(課題番号26285184) 研究分担者
「化学実験レポートにおける考察記述を活用し思考力の獲得につなぐ学び方に関する実証的研究」	2014年4月～2017年3月	科学研究費補助金基盤研究(C)(課題番号26350260) 研究分担者
(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
Seventh International Workshop of Science Education for Sustainable Development, Educational Co-research of Sustainabilityでの発表	2016年8月29日～9月1日	晋州教育大学(韓国)ほか

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本化学会、日本科学教育学会、日本理科教育学会、日本生活科・総合的学習教育学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2016年1月～2017年9月	第23期日本学術会議 科学と社会委員会 科学力増進分科会 高校理科教育検討小委員会 委員
2016年5月～2017年3月	国立教育政策研究所 国際数学・理科教育動向調査 国内専門委員
2013年3月～2017年2月	日本化学会 教育・普及部門 普及・交流委員会 化学教育フォーラム企画小委員会 委員
2011年3月～2016年5月	日本化学会 教育・普及部門 学校教育委員会 化学教育カリキュラム構築小委員会委員
2007年4月～現在	日本理科教育学会 評議員
2013年4月～現在	公益財団法人 教科書研究センター 特別研究員
2013年4月～現在	公益財団法人 教科書研究センター 教科書・教材のデジタル化に関する調査研究 企画運営部会及び理科部会 委員
2015年4月～2016年3月	平成27年度 附属学校研究会プロジェクト研究 共同研究者(東京学芸大学)
2015年9月～2016年3月	平成27年度 富山県立高岡東高等学校 土曜授業・評価委員

松本 格之祐 (まつもと かくのすけ) 教授



出生年：1952(昭和27)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院修士課程体育研究科修了
 学位：修士(体育学)
 学位論文：小学校体育授業における仲間づくりの可能性の検討ーチャレンジ運動とボール運動の授業実践を通してー
 専門分野：体育科教育学
 前職：びわこ成蹊スポーツ大学教授
 学内役職等：スポーツ健康政策学部学部長(2016～)

 留学：
 資格：保健体育教諭専修免許(中学、高校)
 非常勤講師：桜美林大学
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
模擬授業における授業評価、授業分析のフィードバック	2005年～現在	学生の模擬授業における形成的授業評価、期間記録等による授業の振り返り
マイクロティーチングの導入	2007年～現在	教材と場面が決められた短い時間での指導の経験。全員が指導の経験が可能。
2.作成した教科書、教材、参考書		
小学校・保健教科書の執筆	2011年～	小学校・保健6年の教科書「地域の保健活動」(学研)の執筆。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
初等教育研究会、筑波学校体育研究会、日本スポーツ教育学会、体育授業研究会、日本体育学会、日本体育科教育学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2014年4月～現在	研筑波学校体育研究会理事

宮津大蔵 (みやづ だいぞう) 教授



出生年 : 1959(昭和34)年
 在籍 : 2009(平成21)年4月～
 最終学歴 : 東京学芸大学教育学部卒業
 学位 :
 学位論文 :
 専門分野 : 国語科教育学
 前職 : 東京都公立小学校教諭
 学内役職等 : 大学情報センター長(大学図書館長)
 留学 :
 資格 :
 非常勤講師 : 東京家政学院大学現代生活学部(国語科教育)
 淑徳大学人文学部兼任講師(文章表現論)
 受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
小学校国語教科書(学校図書) 小学校国語音声言語教材台本 小学校国語教師用指導所 小学校教科書単元別到達目標と評価規準 国語 (日本標準)	2005年度版～現在	教科書改訂に伴う執筆、編集。説明文教材の執筆、「聞く・話す」教材の執筆、言語教材の開発、文学教材の選定など小学校国語科の全ての分野、全ての学年の教材開発に携わっている。 教師用指導書音声編の台本を執筆する。解説書に収録内容を解説し、学習目標を設定し、発展的な学習活動例を開発する。
(1)ソーシャルスキルワークの授業実践開発 (2)みんなと学ぶ小学校国語教科書1～6年(学校図書) (3)みんなと学ぶ小学校国語教師用指導書1～6年(学校図書) (4)学校教科書単元別・到達目標と評価規準<国語> (5)みんなと学ぶ小学校国語CD教師用指導書音声編 (6)文部科学省後援事業 日本語検定公式練習問題集改訂版6級) (7)小学校国語指導資料 新しい学力観に立つ国語科の授業の工夫 文部省	2005年度版～現在	

3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
<p>(1)「読書指導と図書館利用指導」神奈川県総合教育研究センター自己研鑽のための研修講座講師</p> <p>(2)小田原市教育研究会国語部講演講師「論理性を育てる」</p> <p>(3)成城学園初等学校初任者研修会講演講師 国語「修飾語」</p> <p>(4)東京都武蔵村山市教育研究会講演講師「アクティブラーニングで読む国語科説明文の授業・学校図書館を活用して」</p> <p>(5)平成20～27年度「世田谷9年教育」研究課題校「読書力の育成」</p> <p>(6)神奈川県座間市教育課程等研究推進委託事業座間市立東原小学校研究発表会記念講演講師「国語表現力の育成」</p> <p>(7)平成26・27年度「世田谷9年教育」研究開発校「学校図書館の活用」世田谷区立玉川小学校研究発表会講演講師</p> <p>(8)静岡県田方地区教育研究会夏季研修会講演講師「新しい国語科の展開と学校図書館」</p> <p>(9)東京都東村山市教育委員会研究奨励校・東京都言語能力向上拠点校研究校北山小学校研究発表会講演講師「自分の考えをもち、深める児童の育成. ～国語 単元を貫く言語活動を通して～」静岡県伊東市教育研究会講演講師「学習指導要領における国語科指導のポイント」講演講師「正しい日本語の使い方」富山県立山町教育委員会、国立立山自然少年の家静岡県東伊豆地区(熱海市・伊東市)教科等指導リーダーによる国語授業研究会講師神奈川県座間市教育課程等研究推進委託事業座間市立東原小学校研究発表指導・講演講師</p>		

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
<p>日本国語教育学会、日本演劇学会、日本教材学会、東京学芸大学国語教育学会、日本教育方法学会、図書館情報学会相模原市小中学校PTA連絡協議会家庭教育事業講演会講師「『ツカメン！お父ちゃんたちの宝塚』にみる子育て術～子どもたちがたくましく育つ親の見守り方～」</p>

木村和宏 (きむら かずひろ) 准教授



出生年：1964(昭和39)年
在籍：2008(平成20)年4月～
最終学歴：日本体育大学大学院体育科学研究科博士前期課程修了
学位：修士(体育科学)
学位論文：バスケットボール競技のチーム戦術に関する一考察ー世界
トップレベルのセット・オフENSEの傾向ー
専門分野：コーチング科学、スポーツ方法学(バスケットボール)
前職：日本体育大学運動処方研究室研究員
学内役職等：
留学：
資格：
非常勤講師：早稲田大学オープン教育センター
受賞・表彰：

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略

ワンドフルスポーツ(新学社:中学実技書)次号のバスケットボール部分を改訂した。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本体育学会、スポーツ方法学会

任期、活動期間等

2006年10月～現在

学会・機関・団体等における役職等

公認バスケットボール上級コーチ

城田直彦 (しろた ただひこ) 准教授



出生年 : 1962(昭和37)年
 在籍 : 2015(平成27)年4月～
 最終学歴 : 奈良教育大学大学院教育学修士課程修了
 学位 : 教育学修士
 学位論文 : 「数学における「中1ギャップ」の要因に関する考察」(修士論文)
 専門分野 : 数学教育
 前職 : 白鳳女子短期大学
 校内役職等 :
 留学 :
 資格 : 小学校専修免許状、中学数学専修、高校数学専修、中学英語2級、幼稚園2級
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
メールを利用した課題提出、フィードバック	2015年4月～現在	講義内に出された課題を、学生はメールで提出。学生のつまずきを次回の授業に生かす。
マイクロティーチングの導入	2015年4月～現在	教師役、児童役を決めて短時間で行う。
2.作成した教科書、教材、参考書		
小学校 算数科、中学校 数学科の教科書	2015年～現在	日本文教出版
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
「中学数学を深くわかりやすく理解できるようにするための工夫と手立てについて」	2016年7月16日	茨城県 新算研 県西支部 第1回総会及び研修会(下妻市)

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
『単位知識王』	単著	2016年7月5日	楓葉社文化	—	—
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(口頭発表)「小学校算数、中学校数学での『公式』について」	2016年7月2日	ブライムゼミ(奈良教育大学)			
○その他					
(雑誌・新聞記事等掲載)					
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称			
席替えの「非同席率」	2016年4月1日	中学校教育フォーラム 2016年 冬号(大日本図書)			
日常に潜む算数 「円の大きさを直径で表す」	2016年5月1日	新しい算数研究 2016年5月号(第544号)			

面積の単位[m ²]の小さな「2」の意味は？	2016年5月1日	「としょかん通信 ぶらす・あるふぁ」2016年5月号
「長さの単位メートル」、「人名に由来する単位」	2016年5月1日	としょかん通信 小学生版、中・高校生版 第314号(2016.5.1)
「不思議!」から始まる定理	2016年9月1日	中学校教育フォーラム 2016年 秋号(大日本図書)
読み解く数学偉人伝 エラトステネス —素数を効率よく発見できるアルゴリズムを考案—	2016年10月31日	算数・数学情報誌 ROOT Vol.19
1を素数に含めるとまずい理由	2017年1月5日	中学校教育フォーラム 2017年 冬号(大日本図書)
(その他特記事項)		
「21_21 DESIGN SIGHTの企画展「雑貨展」にて展示された作品『雑学マンダラ』への協力。2016年2月26日～6月 5日 (主催:21_21 DESIGN SIGHT、公益財団法人 三宅一生デザイン文化財団)		
「21_21 DESIGN SIGHTの企画展 in 台北「単位展」の学術協力」2016年7月1日～2017年9月16日、台北、松山文創園區 五號倉庫で開催された「単位展」(主催:啟藝文創 INCEPTION CULTURAL & CREATIVE Co., Ltd.)の学術協力		

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本数学教育学会、全国数学教育学会、近畿数学教育学会、和算問題教材化研究会		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
21_21 DESIGN SIGHT 企画展 in 台北「単位展」学術協力	2016年7月1日～9月16日	21_21 DESIGN SIGHT、公益財団法人 三宅一生デザイン文化財団

谷本直美 (たにもと なおみ) 准教授



出生年：1960(昭和35)年
 在籍：2009(平成21)年4月～
 最終学歴：東京学芸大学大学院教育学研究科音楽教育専攻音楽科教育講座修了
 学位：教育学修士(東京学芸大学)
 学位論文：シュタイナー学校における音楽教育
 専門分野：教育学
 前職：東京学芸大学附属竹早小学校教諭
 学内役職等：キャリア情報センター副センター長 (2013～2015)
 キャリア情報センター副センター長 (2017)
 留学：
 資格：小学校教諭1種 中学校教諭1種・高等学校教諭1種(音楽) 司書教諭
 非常勤講師：東京学芸大学附属竹早小学校(音楽) 早稲田大学
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
音楽実技(ピアノ)における同一曲の習熟度別編曲による教材の作成	2009年4月～現在	履修学生のピアノ経験年数に応じて、同一曲を3～4レベルに編曲し、学生が自分のピアノ経験にあったレベルを選択して練習を始められるような教材を準備した。さらに演奏能力に差がある学生が1つの曲を合奏できるよう、パート毎に難易度を変えて編曲し、合わせる楽しさを体験して音楽指導に前向きになれるような教材を作成した。学生授業評価は2013年度後期3.95であった。
音楽劇による小学校へのアウトリーチ活動	2010年7月～現在	教科指導法(音楽)の授業内で学生に音楽劇を指導し、近隣の公立小学校で授業として構成して発表している。2011年度からは劇の中に子どもたちへの歌唱やリズムアンサンブルの指導場面を設定し、学生に指導を体験させている。その後ビデオを通してグループ協議を行い、子どもに対する実感をもたうえて模擬授業を行って学生の音楽の授業に対する理解を深めている。学生授業評価は2011年度前期平均値3.84、2012年度後期3.80、2014年度後期3.75であった。
小学校における読み聞かせ体験	2010年6月～現在	ゼミ履修学生(3年)に子どもたちの前に立つ体験として、読み聞かせの機会を近隣小学校にいただいている。毎年「なぞなぞライオン」を扱い、なぞなぞやしりとりを通して子どもたちとコミュニケーションをとりながら読み聞かせをする体験をさせ、児童理解と指導体験の機会としている。その発展として7月に行われる同小学校における保護者会主催の全校お楽しみ会にも読み聞かせで有志が参加し、自分達で作品を選び、脚色も加えながら練習を積んで臨んでいる。

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略
科研費研究2年次にあたり、小学校音楽専科の熟練教師、中堅教師、若手教師各1名の授業分析を実施した。特に若手教師については3回にわたり20項目による発話分析を行い、その結果をふまえて指示から対話へと意識を変えていくよう促すメンタリングを行った。その結果「行動の指示・促し」が初回の39%から3回目には22%まで減少し、子どもから学習のねらいに結びついたつぶやきが生まれる等、子どもの主体性がより発揮される授業へと変容が見られた。また熟練教師の授業では「行動の指示・促し」の割合が低く、「問いかけ」や「受容」の割合が高いという特徴が表れた。インタビューを通して熟練教師の指導や判断が教師自身の個人史によって支えられていることも明らかになった。これらの成果については日本学校音楽教育実践学会にて口頭発表、同学会誌に論文掲載、桐蔭論叢に論文掲載している。

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
小学校音楽科の授業における教師の発話分析カテゴリーについてー子どもの主体的な取り組みを支える手がかりとしてー	単著	2017年3月	学校音楽教育研究(日本学校音楽教育実践学会)2017vol. 21		73ー84頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(口頭発表)小学校音楽科の授業における指導行動のカテゴリー化についてー子どもの主体的な取り組みを支える熟練教師の特徴とはー	2016年8月20日	第21回日本学校音楽教育実践学会(北海道教育大学岩見沢校/北海道)			
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
東京学芸大学竹早地区幼稚園・小学校校内研究会講師	2017年2月15日	東京学芸大学附属竹早幼稚園・小学校	東京学芸大学附属竹早小学校		

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本学校音楽教育実践学会、日本教師教育学会、日本教育方法学会、日本教材学会

徳田英次（とくだ ひでじ）准教授



出生年：1969(昭和44)年
在籍：2004(平成16)年4月～
最終学歴：筑波大学大学院博士課程心理学研究科心理学専攻中退
学位：修士(心理学)
学位論文：覚醒度変化が注意機能に及ぼす影響－主観的覚醒度2因子モデルからの検討(未公刊)
専門分野：臨床心理学
前職：東京成徳大学文学部講師
学内役職等：
留資格：
非常勤講師：
受賞・表彰：

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本心理学会、日本カウンセリング学会、日本催眠医学心理学会、日本心理臨床学会、Society for Clinical and Experimental Hypnosis	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
	日本催眠医学心理学会広報委員

箱崎(李) 禧 承 (はこざき(い) ひすん) 准教授



出生年：1973(昭和48)年
 在籍：2012(平成24)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院博士課程教育学研究科学校教育学専攻
 修了
 学位：博士(教育学)
 学位論文：学校教育におけるハイパーメディア教材の利用に関する研究(博士論文)
 専門分野：教育工学、教育方法学、教育学
 前職：筑波大学人間総合科学研究科外国人受託研究員
 学内役職等：
 留学：筑波大学(1997年4月～2005年3月)
 資格：中等教育2級正教師資格(韓国)(教科:教育学、道徳)
 非常勤講師：筑波大学
 受賞・表彰：

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略					
韓国の情報倫理教育に関する調査を実施し、日本の情報モラル教育との比較した。特に、情報モラル教育の目標と教育内容を比較して韓国の情報倫理教育の特徴を捉えた。そして、この成果については、日本教育メディア学会年次大会で「韓国の情報倫理教育内容体系分析 — 日本の「情報モラル指導デカリキュム表」を手掛かりに—」のタイトルで研究発表した。また、桐蔭論叢では「韓国の情報倫理教育内容体系分析 — 日本の「情報モラル指導デカリキュム表」を手掛かりに—」が掲載された。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
韓国の情報倫理教育の内容体系の特徴	単著	2016年12月15日	桐蔭横浜大学桐蔭論叢第35号	李(箱崎) 禧承	pp.43-48
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
韓国の情報倫理教育内容体系分析 — 日本の「情報モラル指導デカリキュム表」を手掛かりに—	2016年11月27日(日)	日本教育メディア学会第23回年次大会(奈良教育大学/奈良県高畑町)	李 禧承		
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
筑波大学教員免許状更新講習講師(選択必修a「学校教育におけるICT活用—その可能性と課題を考える—」)	2016年6月25日、2016年7月9日	筑波大学・教員免許更新講習推進室	筑波大学(茨城県つくば市)		
○その他					
(海外出張)					
用件	出張期間	出張先			
韓国の「2015教育課程」における情報教育に関する調査	2017年3月19日～3月22日	京畿道ブコク初等学校、韓国国会図書館、キョウボ文庫			

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本教育メディア学会、日本デジタル教科書学会、日本教材学会、日本教育方法学会、日本教育工学会、筑波教育学会

木原 洋一 (きはら よういち) 専任講師



出生年：1976(昭和51)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院修士課程体育研究科修了
 筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科満期退学
 学位：修士(体育学)・修士(教育学)
 学位論文：演劇における「からだ」のレッスンの理論と実践(体育学)
 心身論を基盤とした体育の理念形成の検討 - 1931-45年
 の日本における体育的身体論を射程として - (教育学)
 専門分野：スポーツ教育学、学校教育学、比較文化学
 前職：筑波大学大学院博士課程
 学内役職等：
 留学：
 資格：中学校教諭専修免許(保健体育)
 高等学校教諭専修免許(保健体育)
 中学校教諭専修免許(社会)
 高等学校教諭専修免許(地理歴史)
 高等学校教諭専修免許(公民)
 柔道初段
 非常勤講師：
 受賞・表彰：平成23年度第9回茗溪会顕彰

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本体育学会、日本スポーツ学会、日本体育科教育学会、神奈川体育学会、日本体操学会		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
横浜市立みたけ台小学校および横浜市立荏子田小学校で、体操、マット、とび箱、球技などの基礎・基本の動きを指導。	2011年4月～(毎週火・木2コマ)	団体等名称: 体操教室

廣川 充志 (ひろかわ みつし) 専任講師



出生年：1977(昭和52)年
 在籍：2006(平成18)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院体育研究科スポーツ健康科学専攻
 学位：体育学修士
 学位論文：中高齢者の糖・脂質代謝および酸化LDLにおよぼす複合運動トレーニングの影響
 専門分野：体育科学
 前職：学校法人了徳寺学園職員
 学内役職等：
 留学：
 資格：講道館柔道六段
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

II 研究活動

○その他
(その他特記事項)
講話集「柔道への想い」 全日本柔道連盟発行 柔道ルネッサンス特別委員会編集 一部分担当
「柔道ルネッサンススピーチ集」 全日本柔道連盟発行 柔道ルネッサンス特別委員会編集 一部分担当

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体力医学会、日本運動生理学会、日本武道学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2008年4月～現在	神奈川県学生柔道連盟 常任理事
2009年4月～現在	神奈川県柔道連盟 強化委員
2010年4月～現在	関東学生柔道連盟 理事
2010年4月～現在	全日本柔道連盟 国際委員会委員
2012年11月～現在	全日本柔道連盟 ナショナルチーム強化コーチ

スポーツテクノロジー学科 (Department of Sport Technology)

殖田友子 (うえだ ともこ) 教授



出生年：
在籍：2014(平成26)年4月～
最終学歴：早稲田大学大学院スポーツ科学研究科博士後期課程単
位取得後退学
学位：修士(経営学)
学位論文：
専門分野：スポーツ栄養学、健康マーケティング、食育
前職：帝京大学医療技術学部スポーツ医療学科准教授
学内役職等：
留学：
資格：管理栄養士、健康運動指導士、公認スポーツ栄養士
非常勤講師：神奈川大学人間科学部、神奈川大学国際経営学部
受賞・表彰：

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体力医学会、日本スポーツ栄養学会、日本健康運動指導士会、日本栄養改善学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2010年7月～現在	日本スポーツ栄養学会評議員 (2013年12月日本スポーツ栄養研究会から学会に改組)
2013年4月～現在	大田区体育協会評議員

片山 富美代 (かたやま ふみよ) 教授



出生年：1960(昭和35)年
 在籍：2004(平成16)年7月～
 最終学歴：桜美林大学大学院国際学研究科環太平洋地域文化専攻
 博士後期課程修了
 学位：博士(学術)、修士(看護学)
 学位論文：人工血液透析患者の病気認知と病気適応に関する健康心理学的研究(博士論文)
 専門分野：基礎看護学、健康心理学
 前職：広島国際大学看護学部看護学科講師
 学内役職等：学生部副部長
 留学：
 資格：看護師免許、専門健康心理士資格
 非常勤講師：
 受賞・表彰：日本ヒューマン・ケア心理学会第一回学会論文賞(2011年7月)

I 教育活動

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略					
キャンパス内全面禁煙後の学生、教職員の意識および、喫煙関連の健康意識に関する研究					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「ライフコースの健康心理学」	共著	2017年3月30日	晃洋書房	森和代(監修)、石川利江(編集)、松田与理子(編集)、片山富美代、他25名	57-63頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「非喫煙者のキャンパス内全面禁煙に対する印象と喫煙認識および行動との関係 ―東北大学における調査から―」	2016年9月24日	日本ヒューマン・ケア心理学会学術集会第18回大会 埼玉県立大学	片山富美代、大北全俊、工藤成史		
「キャンパス内全面禁煙4年後の状況調査」	2016年10月5日	第54回全国大学保健管理研究集会 大阪国際会議場	工藤成史、大北全俊、片山富美代		

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本ヒューマン・ケア心理学会、日本健康心理学会、日本スポーツ健康科学学会、日本カウンセリング学会、日本看護研究学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2012年5月～現在	日本健康心理学会資格認定・試験委員会委員
2015年9月～現在	日本ヒューマン・ケア心理学会常任理事・事務局長

加藤 知生 (かとう ともお) 教授



出生年：1961(昭和36)年
 在籍：2009(平成21)年4月～
 最終学歴：日本体育大学体育学部健康学科卒業
 社会医学技術学院理学療法科卒業
 日本柔道整復専門学校卒業
 学位：
 学位論文：
 専門分野：アスレティック・リハビリテーション、スポーツ理学療法
 前職：日立横浜病院
 学内役職等：
 留学：
 資格：日本体育協会公認アスレティックトレーナー
 理学療法士、柔道整復師
 中学1級・高等学校1級教諭免許(保健体育)
 非常勤講師：学校法人花田学園 東京有明医療大学
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
トレーナー活動およびリハビリテーションの実践的指導の導入(学生の授業外における学習促進のための取組)	2009年度～現在	水泳日本代表および社会人アメリカンフットボールチームの合宿、試合、病院でのリハビリテーションなど医療レベルからトップアスリートまでの現場体験を行う。(対象:トレーナーコース、ゼミ専攻者)

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
頸部・体幹のスポーツ障害の理学療法における臨床推論 水泳による頸部・体幹の障害の理学療法における臨床推論—腰部の障害について—	共著	2016年10月28日	理学療法(東京) Vol.33 No.10. メディカルプレス	加藤知生, 三富陽輔	875-881
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
第16回世界水泳選手権大会/水球日本代表チーム 帯同報告—トレーナーサポートの実際と傷害状況—	2016年5月27日	第51回日本理学療法学会	濱中康治, 加藤知生, 半谷美夏, 金岡恒治		
一般演題 5「その他」6題を担当	2016年7月10日	日本アスレティックトレーニング学会(東京有明大学)	加藤知生(座長)		
講演テーマ:「ケガや使い過ぎによる痛みの改善と予防」	2016年10月23日	神奈川県エアロビク連盟「平成28年度 JAF資格更新研修会」神奈川県立スポーツ会館			
スポーツに関わる手立てと今後の可能性(2020東京オリンピック・パラリンピックを見据えて)	2016年10月30日	第36回関東甲信越ブロック理学療法士学会(パシフィコ横浜)	加藤知生(座長およびシンポジスト)		
水泳日本代表チームへのメディカルサポート体制の歴史と現状:1964から2019へ	2016年11月5日	第26回日本臨床スポーツ医学会学術集会(幕張メッセ国際会議場)	加藤知生(座長)		

マスターズスイマーのローテーターカフの機能評価とその特徴	2016年11月6日	第27回日本臨床スポーツ医学会学術集会(幕張メッセ国際会議場)	地神裕史, 小山稔, 三富陽輔, 加藤知生, 大内洋
テーマ:「水泳トレーナーに必要な基礎知識」	2017年2月18日	日本水泳トレーナー会議基礎研修会	
○その他			
(産学協同研究)			
研究内容	研究期間	協同研究の相手方の名称	
競技力向上コース事業	2010年4月～	神奈川県立体育センター	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本理学療法士協会、日本アスレティックトレーニング学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
1991年9月～現在(2011～)	日本水泳トレーナー会議役員(代表)	
1996年4月～現在	JOCオリンピック強化スタッフ	
2003年3月～現在(2010～)	日本体育協会公認アスレティックトレーナー(連携協議員)	
2007年4月～現在(2013～)	日本水泳連盟医事委員会(副委員長)	
2013年6月～現在	日本アスレティックトレーニング学会評議員	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
横浜市立平戸小学校にて学校保健委員会活動および保健体育授業(からだづくり)	2008年～(年3回)	横浜市教育委員会 学校運営評議会(2011年～)

河崎 賢三 (かわさき けんぞう) 教授



出生年：1966(昭和41)年
 在籍：2004(平成16)年4月～
 最終学歴：島根医科大学大学院医学研究科博士課程 修了
 学位：医学博士
 学位論文：
 専門分野：整形外科、スポーツ医学、関節外科、再生医療
 前職：島根医科大学文部教官助手
 学内役職等：
 留学：
 資格：医師、日本整形外科学会専門医、日本体育協会公認スポーツドクター
 非常勤講師：
 受賞・表彰：材料技術研究協会技術賞(2007)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
医学現場実習を重要視した授業	2006年4月～	医学現場に出向き、スポーツ医学の知識の取得に勤めている

II 研究活動

○その他 (雑誌・新聞記事等掲載)		
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称
スポーツと医療の現場から考える	2010年7月～現在 (連載中)	ブックハウスHD月刊Sports Medicine
ドクターKのベースボールメディカル	2013年3月～現在 (連載中)	侍アスリート社BaseballKanagawa
野球肘は防げる	2013年5月～現在 (連載中)	ベースボールマガジン社Hit&Run

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本整形外科学会、日本関節鏡学会、日本膝関節学会、日本整形外科スポーツ医学会 など	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
1991年6月～現在	日本整形外科学会会員
1997年4月～現在	日本関節鏡学会会員
1997年4月～現在	日本膝関節学会会員
1997年4月～現在	日本軟骨代謝学会会員
1999年4月～現在	日本整形外科スポーツ医学会会員
2010年4月～現在	日本スポーツクラブ協会専門委員
2010年4月～現在	日本オリンピック委員会強化スタッフ(医・科学スタッフ、野球)
2011年4月～現在	全日本アマチュア野球連盟選手強化本部医科学部会委員
2013年4月～現在	全日本野球協会選手強化本部医科学部会委員

(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
医師として臨床診療活動 (整形外科、スポーツ整形外科)	1991年5月～現在	病院にて整形外科、スポーツ整形外科として勤務年間約5000人の診察並びに約200件のスポーツ障害に関する手術施行

IV芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
桐蔭横浜大学硬式野球部チームドクター	2006年4月～現在		
桐蔭学園高校柔道部チームドクター	2007年4月～現在		
桐蔭横浜大学サッカー部チームドクター	2009年4月～現在		
桐蔭学園高校バレーボール部チームドクター	2009年4月～現在		
(5) 青森県光星学院高校硬式野球部チームドクター	2010年4月～現在		

吉 鷹 幸 春 (よしたか ゆきはる) 教授



出 生 年 : 1964(昭和39)年
 在 籍 : 1995(平成7)年～
 最 終 学 歴 : 筑波大学大学院修士課程体育研究科修了
 学 位 : 体育学修士
 学 位 論 文 : 柔道の「背負投」におけるバイオメカニクス的研究
 専 門 分 野 : 運動方法論、コーチ学、スポーツ心理学
 前 職 : 山形県教育庁
 学 内 役 職 等 : テクノロジー学科学科長(2016～)
 留 学 :
 資 格 : 専修免許状(保健体育)、全日本柔道連盟A級審判員、講道館柔道七段
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 : 文部科学省 国際競技大会優秀者(指導者)表彰(1999年)

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本武道学会、日本体育学会、日本スポーツ心理学会、日本応用心理学会、日本教育医学会		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
全日本柔道連盟公認審判員(Aライセンス)	2003年～現在	全日本柔道連盟
全日本学生柔道連盟理事	2010年4月1日～現在	全日本学生柔道連盟

小山桂史 (こやま けいじ) 准教授



出生年：1984(昭和59)年
 在籍：2012(平成24)年4月～
 最終学歴：順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科博士後期課程修了
 学位：博士(スポーツ健康科学)
 学位論文：Unstable shoes着用時の歩行特性に関する研究
 専門分野：スポーツバイオメカニクス
 前職：順天堂大学スポーツ医科学研究所研究補助員
 学内役職等：
 留学：
 資格：中学校教諭一種免許(保健体育)
 高等学校教諭一種免許(保健体育)
 トレーニング指導者
 低酸素シニアトレーナー
 非常勤講師：駒澤大学総合教育研究部非常勤講師
 受賞・表彰：第59回東総駅伝大会 優勝 区間賞(2005.12)
 栗本関夫記念奨学金受賞(2006.3)
 第26回佐倉朝日健康マラソン大会 10kmの部 優勝(2007.3)
 日本バイオメカニクス学会 国際学会参加助成 受賞(2010.9)

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略					
2015年度では足部アーチの役割を制限することによって、身体運動のパフォーマンスが低下する可能性が示唆された。足部アーチは足部内在筋群によって支えられており、それらの筋群はまた走・跳動作での離地直前の力発揮を増大させることや、姿勢保持に重要な役割を果たすことが考えられてきている。したがって、これらの筋群の力発揮を高めると、走・跳の運動能力や姿勢保持能力も向上することが考えられる。今年度は、足部内在筋群を鍛錬するトレーニングプログラムを考案し、実際にそのトレーニングプログラムの即時のおよび継続的な効果の両方を検討した。即時の効果においては、トレーニング直後では足部内在筋群の力発揮が低下するも、姿勢保持能力は低下することなく、むしろ片脚立位では姿勢保持能力が向上した。この現象とこの現象が生じた理由について次年度以降に検討する予定である。また足部内在筋群の断続的なトレーニング効果についても次年度以降の検討する予定である。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
裸足と裸足に類似したシューズでジョギングの接地中の下肢筋活動量の比較	共著	2016年9月	日本スポーツ健康科学誌3(1)	小山桂史, 栗巢玲生	pp.9-15
裸足と裸足に類似したシューズでジョギング時の衝撃力変数の比較	単著	2017年3月	靴の医学30(2)	小山桂史	pp.42-46
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
Maximum muscle strength and balance performance after the high intensity strength and agility exercise of the foot and leg muscles	2016年7月	21 th annual congress of the European College of Sport Science, Austria	Keiji Koyama, Yusuke Nagahuji, Junichiro Yamauchi		
足部と下腿部の筋力・パワートレーニングがバランス能力および跳躍時の力発揮能力に及ぼす効果	2016年9月	第71回 日本体力医学会大会、岩手	小山桂史, 長藤祐介, 山内潤一郎		

超音波法による柔道選手の足部の内在筋群の筋厚評価とその足指筋力との関係性	2016年10月	第29回日本トレーニング科学会大会、神奈川	小山桂史, 廣川充志, 吉鷹幸春, 山内潤一郎
跳躍パフォーマンスにおける足部筋力の重要性	2017年3月	第169回日本体力医学会関東地方会、東京	小山桂史, 山内潤一郎
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
平成28年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究C、分担	2016年4月～平成2019年3月予定	足部機能の発育発達様相を考慮した子どもの運動能力向上プログラムの開発 研究代表者: 森田 憲輝 共同研究者: 小山 桂史, 山内 潤一郎	
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
21th annual Congress of the European College of Sport Science, Oral	2016/7/6～9日	Austria Center Vienna Vienna (Vienna, Austria)	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本バイオメカニクス学会, 日本体力医学会, 日本体育学会, 日本トレーニング科学会, 日本バレーボール学会, 日本靴医学会, 日本スポーツ健康科学学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2013年4月～現在	日本スポーツ健康科学学会大会庶務・会計理事	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
中学校野球チームへの陸上指導	2015年6月～現在に至る	陸上指導
駒澤大学での生涯学習(健康づくり教室: ジョギングコース)	2016年9月～現在に至る	陸上指導

岡本 大 (おかもと だい) 専任講師



出生年：1973(昭和48)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：国際武道大学大学院 武道・スポーツ研究科 武道・スポーツ専攻修士課程 修了
 学位：修士(武道・スポーツ)
 学位論文：異なる床面性状が跳躍成績に与える影響
 専門分野：ハンドボール、コーチング論、ゲーム分析、バイオメカニクス
 前職：国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科助手
 タイナショナルチームヘッドコーチ、JOCジュニア強化コーチ
 学内役職等：
 留学籍：
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略

ハンドボールのゲーム構造を分析した。スポーツ支援ソフト「ダートフィッシュ」の活用性を探った。また女子ハンドボールにおいてボールタッチ数に着目し戦術の検証を試みた。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本体育学会、日本体力医学会、日本バイオメカニクス学会、日本ハンドボール学会

任期、活動期間等

2001年10月～

学会・機関・団体等における役職等

日本体育協会公認ハンドボールコーチ

(主な活動内容)

活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
岩手県ハンドボール協会コーチングセミナー 2017講師	2017年3月	岩手県ハンドボール協会
愛媛国体ハンドボール競技専属アドバイザー コーチ	2011年4月～2017年10月	愛媛県ハンドボール協会

IV 芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
第20回ハンドボール女子ジュニア世界選手権 (コーチ)	2016年7月	ロシア	20歳以下の世界選手権にコーチとして出場。世界ベスト16
(女子ハンドボール部監督)2016年全日本インカレ	2016年11月		全日本インカレ第3位 銅メダル

廣瀬立朗(ひろせ たつろう) 専任講師



出生年：1973(昭和48)年
在籍：2009(平成21)年4月～
最終学歴：東京大学大学院
学位：博士(学術)
学位論文：力学的除負荷が筋内コラーゲン代謝に与える影響
専門分野：運動生理学、運動生化学
前職：日本体育大学 助教
学内役職等：
留学：
資格：
非常勤講師：上智大学
受賞・表彰：

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略

ニコチンアミドジヌクレオチド(NAD)の前駆体であるニコチンアミドリボシド(NR)の摂取がラット骨格筋に与える影響を検討している。NRの摂取が骨格筋内NAD濃度を増加させることが知られている。高脂肪食ラットや肥満ラットにおいて脂肪代謝の亢進が報告されている。高強度運動時におけるパフォーマンスの変化を検討中である。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本体力医学会 physiology 日本スポーツ健康科学学会

スポーツ健康政策学科 (Department of Culture and Sport Policy)

今泉隆裕 (いまいずみ たかひろ) 教授



出生年：1975(昭和50)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：法政大学大学院人文科学研究科博士課程日本文学専攻
 単位修得退学
 学位：修士(文学)
 学位論文：修羅能の道程
 専門分野：日本文学、宗教学
 前職：法政大学国際日本学研究所学術研究員
 学内役職等：
 留学：
 資格：中学校教員専修免許状(国語)
 高等学校教員専修免許状(国語)
 博物館学芸員資格
 非常勤講師：法政大学非常勤講師(文学Ⅰ、文学Ⅱ)
 受賞・表彰：

Ⅱ 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
復曲(高安)謡本 増補版執筆監修	共著	2017年1月	高安能未来継承事業推進協議会	西野春雄、今泉隆裕、橋場夕佳、生一和哉、高安勝久	語釈担当
『かながわパラスポーツコーディネーターガイドブック』	共著	2017年3月	神奈川県スポーツ局スポーツ課	共著者：神奈川県スポーツ局スポーツ課、田中暢子、井上誠士郎、澁倉崇行、桜井智野風、河崎賢三、大野哲也、今泉隆裕、片山富美代、渡正、吉田勝光、加藤知生、星秋夫	第1章「10.ボランティア活動」担当
(学術論文)					
「玉川千之丞『高安通ひ』と番外曲(高安)」	単著	2016年6月15日	桐蔭論叢 第32号		
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(口頭発表) 「祭礼としての運動会」	2016年9月	日本宗教学会、第75回学術大会 於：早稲田大学	単独		
(公開講座・講師) 「研究トーク「高安」復曲までの道のり」	2017年1月28日	主催：高安能未来継承事業推進協議会、平成28年度文化庁 文化遺産を活かした地域活性化事業、於：八尾市文化会館	登壇者：西野春雄、橋場夕佳、今泉隆裕		

「曲目解説」 「能「高安」解説」	2017年2月25日	主催：高安能未来継承事業 推進協議会、平成28年度文 化庁 文化遺産を活かした地 域活性化事業、於：八尾市文 化会館プリズムホール	登壇者：西野春雄、金子直樹、今 泉隆裕、橋場夕佳、山中雅志
---------------------	------------	---	----------------------------------

○その他

(雑誌・新聞記事等掲載)

記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称
「女子マラソンっていつから？長距離種目排除と女性観」	2016年4月	Sportsmedicine2016、180号、46-47頁
「熱中症とスポーツ、あと森鷗外」	2016年5月	Sportsmedicine2016、181号、46-47頁
「短距離走スタート今昔」	2016年6月	Sportsmedicine2016、182号、46-47頁
「文化の祭典オリンピック／東京大会の芸術展示」	2016年7月	Sportsmedicine2016、183号、46-47頁
「オリンピックと万国博覧会／金銀銅メダルの起源」	2016年9月	Sportsmedicine2016、184号、46-47頁
「スポーツが「文化」でなかったころ」	2016年10月	Sportsmedicine2016、185号、46-47頁
「オリンピック・マラソン珍話」	2016年11月	Sportsmedicine2016、186号、46-47頁
「マラドーナと世阿弥」	2016年12月	Sportsmedicine2017、187号、46-47頁
「ドジャース起源の日本式管理野球」	2017年2月	Sportsmedicine2017、188号、46-47頁
「宗教とスポーツ／安息日とスポーツ」	2017年3月	Sportsmedicine2017、189号、46-47頁

(その他特記事項)

- (曲目解説)能「自然居士」解説、国立能楽堂、檜書店 No-tab(入稿済)
- (曲目解説)能「船橋」解説、国立能楽堂、檜書店 No-tab(入稿済)(運用時期未定)
- (曲目解説)能「経正」解説、国立能楽堂、檜書店 No-tab(入稿済)(運用時期未定)
- (曲目解説)能「皇帝」解説、国立能楽堂、檜書店 No-tab(入稿済)(運用時期未定)
- (曲目解説)能「野守」解説、国立能楽堂、檜書店 No-tab(入稿済)(運用時期未定)
- (曲目解説)能「大江山」解説、国立能楽堂、檜書店 No-tab(入稿済)(運用時期未定)
- (曲目解説)能「芦刈」解説、国立能楽堂、檜書店 No-tab(入稿済)(運用時期未定)
- (曲目解説)能「吉野天人」解説、国立能楽堂、檜書店 No-tab(入稿済)(運用時期未定)
- (曲目解説)能「小袖曾我」解説、国立能楽堂、檜書店 No-tab(入稿済)(運用時期未定)
- (曲目解説)能「御塩」解説、国立能楽堂、檜書店 No-tab(入稿済)(運用時期未定)

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本宗教学会、能楽学会、楽劇学会、漢文教育学会

岡田 俊 恵 (おかだ としえ) 教授



出生年：1954(昭和29)年
 在籍：1989(平成元)年4月～
 最終学歴：津田塾大学大学院修士課程
 学位：文学修士
 学位論文：A Study on Macbeth
 専門分野：英語英文学、英語教育、時事英語
 前職：静岡大学助教授
 学内役職等：桐蔭英語村村長、国際交流センター委員、教職課程委員会委員
 留学：
 資格：中学教員1級、高校教員1級免許
 非常勤講師：
 受賞・表彰：市川三喜賞(津田塾大学 1977年)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
マルチメディア教室を活用した双方向授業	2000年～現在	コンピュータ併用のCallシステムを利用して、各種メディアを使う語学授業を展開。
英語プレゼンテーション教育	2005年～現在	大学院生を中心に、英語による研究発表のための原稿作成から口頭発表練習までの指導。
2.作成した教科書、教材、参考書		
外国語特別活動の英語教材	2013年～現在	外国語特別活動(英語)の教材は、市販の教材だけではうまく授業展開できないため、殆ど手作り教材である。
4.その他教育活動上特記すべき事項		
生涯学習センターで社会人講座の担当	2006年1月～現在	生涯学習センターで社会人向け講座「学び直す英語中級」「学び直す英語上級」を担当。
桐蔭英語村の管理運営	2014年4月～現在	桐蔭英語村の職員およびネイティブ・スタッフ、日本人スタッフの統率。小中高大学生向け各種プログラムの作成指導。

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略		
(1)小学校教員養成課程で、英語を得意としない学生に対し、どのような英語力をつければ教壇に立って教えることができるかについて研究すると共に、ネイティブスタッフと共に小学生に教える英語教材の作成。 (2)ジェームズ朝初期の劇作家ジョージ・チャップマンの戯曲研究。		
○その他		
(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
Shakespeare Congressに参加	2016年7月29日～8月8日	Shakespeare Institute, London University(UK)

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本英文学会、日本シェイクスピア協会

並木 浩一 (なみき こういち) 教授



出生年：1961(昭和36)年
 在籍：2012(平成24)年～
 最終学歴：京都造形芸術大学大学院芸術研究科博士課程芸術専攻
 修了
 学位：博士(学術)
 学位論文：モーリス・ベジャール研究 ——メディアと芸術の関係を軸
 として(博士論文)
 専門分野：メディア論、表象文化論、身体論
 前職：大同大学情報学部教授
 学内役職等：入試・広報センター長(2013～)
 留学：
 資格：一般旅行業務取扱主任者(運輸省)
 【*現・総合旅行業務取扱管理者(国土交通省)】

非常勤講師：
 受賞・表彰：

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略					
沖縄の芸能、舞踊の研究を継続し、論文を発表。プロダクト批評の実践では新聞(読売新聞)への寄稿を行った。またマリー・アントワネットに関する小論を新聞(朝日・読売)に発表した。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
『沖縄民謡とメディア —— 嘉手苅林昌の神話 —— 』	単著	2016年12月	桐蔭論叢第35号		
○その他					
(雑誌・新聞記事等掲載)					
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称			
「時計見本市バーゼルワールド2017 過去の秀作を再構築」(寄稿)	2016年4月13日(夕刊)	読売新聞			
「腕時計 銀座で勝負」(コメント)	2016年5月3日	朝日新聞			
「王妃マリー・アントワネットと時計ブランド“ブレゲ”の親密なる関係」(寄稿・初出)	2016年10月31日	読売新聞			
「王妃マリー・アントワネットと時計ブランド“ブレゲ”の親密なる関係」(寄稿・再掲)	2016年11月4日	朝日新聞			

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本映画学会、日本コミュニケーション学会、日本観光学会、情報文化学会、デジタルアーカイブ学会

吉田 毅 (よしだ たけし) 教授(2017年度 新任教員)



出生年：1963(昭和38)年
 在籍：2017(平成29)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院体育研究科修士課程修了
 学位：博士(体育科学)
 学位論文：競技者の青年期における困難克服プロセスに関する社会学的研究—主体的社会化論を手がかりに—
 専門分野：スポーツ社会学
 前職：常葉大学健康プロデュース学部教授
 学内役職等：スポーツ健康政策学部研究紀要編集委員会委員長、自己点検評価委員会委員、教職課程委員会委員、FD委員会委員、学生委員会委員
 留資格：学：高等学校教諭一級普通免許(保健体育)
 中学校教諭一級普通免許(保健体育)

非常勤講師：常葉大学健康プロデュース学部
 受賞・表彰：日本体育学会 学会賞(2013年)

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略					
科学研究費補助金(日本学術振興会)基盤研究C「東日本大震災で被災した地域スポーツ界の復興要因に関する社会学的研究」として、対象とする地域スポーツ界のフィールドワークを実施するとともに、前年度までの研究成果として「東日本大震災で被災した総合型地域スポーツクラブのレジリエンスに関する社会学的研究—地域スポーツ論への一視角—」(体育の科学第66巻第7号、査読誌)と題する論文を著した。また、長年に亘って検討を進めている「アスリートのキャリア形成をめぐる諸問題」に関して、「中途身体障害者はどのような他者によってスポーツを継続するようになるのか—複線的スポーツキャリアを形成した元カーレーサーのライフストーリー—」(スポーツ社会学研究第24巻第2号、査読誌)と題する論文を著した。さらに、「地域スポーツクラブの持続要因に関する社会学的研究」として、対象とする地域スポーツクラブ(サッカークラブ及びバレーボールクラブ)の調査を実施した。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
①東日本大震災で被災した総合型地域スポーツクラブのレジリエンスに関する社会学的研究—地域スポーツ論への一視角—	単著	2016年7月	体育の科学第66巻第7号	吉田 毅	535-540頁
①中途身体障害者はどのような他者によってスポーツを継続するようになるのか—複線的スポーツキャリアを形成した元カーレーサーのライフストーリー—	単著	2016年10月	スポーツ社会学研究第24巻第2号	吉田 毅	53-68頁
○その他					
(補助金・助成金等)					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
東日本大震災で被災した地域スポーツ界の復興要因に関する社会学的研究	2014年4月～2017年3月	科学研究費補助金(日本学術振興会)基盤研究C			

(その他特記事項)
「体育学研究」(日本体育学会機関誌)の投稿論文査読を依頼され実施した。
「スポーツ社会学研究」(日本スポーツ社会学会機関誌)の投稿論文査読を依頼され実施した。
「スポーツ教育学研究」(日本スポーツ教育学会機関誌)の投稿論文査読を依頼され実施した。

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体育学会、日本スポーツ社会学会、日本社会学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2015年6月～2017年6月	日本体育学会体育社会学専門領域評議員
2015年6月～2017年6月	日本体育学会体育社会学専門領域奨励賞選考委員

吉田 勝光 (よしだ まさみつ) 教授



出生年：1949(昭和24)年
 在籍：2014(平成26)年4月～
 最終学歴：東亜大学大学院総合学術研究科法学専攻修士課程修了
 学位：博士(体育学) 法学修士
 学位論文：①体育・スポーツ事故に関する法学的研究(博士) ②スポーツ基本条例の制定に係る憲法上の諸問題に関する一考察(修士)
 専門分野：スポーツマネジメント、スポーツ行政・政策、スポーツ法学
 前職：松本大学人間健康学部スポーツ健康学科
 学内役職等：スポーツ健康政策学科長
 地域連携・生涯学習センターセンター長
 留学籍：①総合型地域スポーツクラブアシスタントマネージャー、②行政書士、③日本テニス協会公認指導者資格、④日本体育協会公認スポーツリーダー
 非常勤講師：
 受賞・表彰：学会賞(平成16年度日本体育・スポーツ経営学会)「法務経営の観点から見た学校体育・スポーツ事故に関する一考察」

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
ゼミ活動で大型書店(八重洲ブックセンター)に向き、学生たちにスポーツに関係するもので、卒業研究に繋がる本2冊選ば、それ回以降のゼミで内容の概要と自分の意見を発表させた。	2016年6月11日	
こどもの国・ベビーカー親子連れへの支援活動で、学生に地域貢献活動に関わらせた。	2016年7月12日	
2.作成した教科書、教材、参考書		
下掲『標準テキスト/スポーツ法学』、『よくわかるスポーツマネジメント』		

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略
地域スポーツ政策の観点から、年度前半は、昨年度から引き続いていた、「標準テキスト・スポーツ法学」の実質上の編集代表者として、同書第1章等を執筆しつつ、同書の編に尽力した。同年6月に同書は発行され、本学法学部の授業「スポーツ法学」においても、テキストとして使用されるにいたっている。また、大阪市立大学大学院准教授との共著『文化条例政策とスポーツ条例政策』(成文堂)に向けた作業を行った。同書は、2017年4月に発行されるに至った。現在、青葉区と連携しているウォーキング事業(本年度は「秋のふるさとミステリーウォーク」を2016年11月23日に開催)やこどもの国・青葉区と連携で、子育て支援事業として、こどもの国に来るベビーカー親子用のマップ作りを行った。このマップも、2017年5月3日にお披露目を行った。今後、これらの実践活動について、学会等で研究報告を行う予定である。

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
標準テキスト／スポーツ法学	共編著	2016年6月13日	エイデル研究所	浦川道太郎、吉田勝光、石堂典秀、松本泰介、入澤充編	<編集>第1編:スポーツ法学の入り口、第3編:刑事法とスポーツ<執筆>以下、すべて単著。第1編(全て):13-39頁。第2編:公法とスポーツ第2章:行政法(1.行政法の概要65-66頁。2.スポーツと行政法66-67頁。5.スポーツと住民訴訟71-73頁。6(4).スポーツ基本条例及びスポーツ推進計画との関係83頁。)
よくわかるスポーツマネジメント	共著	2017年3月	ミネルヴァ書房	柳沢和雄、吉田勝光、清水紀宏、中西純司	吉田執筆担当:第IV部「10 スポーツ法制度とスポーツマネジメント」のうち、3.地方のスポーツ政策:162-163頁。4.スポーツ行政のしくみ:164-165頁。5.スポーツ財政:166-167頁。
(総説・論説)					
[スポーツ仲裁評釈]U23世界選手権軽量級スラップカテゴリー代表選手決定をめぐる仲裁申立事件-日本スポーツ仲裁機構2015年6月4日JSAA-DP-2015-003仲裁判断-	単著	2016年12月	日本スポーツ法学会年報第23号		210-223頁。
(学術論文)					
総合研究・教育と法／高校でのスポーツ事故発生時の対応	単著	2016年6月	高校教育第49巻第8号		84-87頁。
スポーツ法学教育の普及・推進に関する声明について	単著	2016年12月	日本スポーツ法学会年報第23号		130-135頁。
大学・大学生のボランティア力のカー地域連携・生涯学習センターでの取り組みを中心として	単著	2017年2月	かながわ政策研究・大学連携ジャーナル第11号(※年2回発行)		31-32頁。

条例ナビ／千葉県AEDの使用及び肺蘇生法の実施の促進に関する条例	単著	2017年2月	判例地方自治第414号		100頁。
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目		年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所		共同発表者名
(シンポジウム司会)運動会の意義と事故予防		2016年7月	日本スポーツ法学会(夏期合同研究会中京大学/名古屋市)		
(口頭発表)「スポーツ法学教育の新たな試み～法学部教員の各専門法学分野からスポーツにアプローチする～」		2016年12月	中央大学		高瀬武志
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名		年月(西暦)	依頼先・研修会等名		開催場所
(講演)平成28年度「第19回大学で学ぼう～生涯学習フェア～」ミニ講座:スポーツと法との関係を考える!		2016年7月	かながわ大学生涯学習推進協議会		國學院大學たまプラーザキャンパス
(講演)平成28年度長野県総合型クラブ連絡協議会中信ブロックミーティング「総合型クラブと市町村の連携」		2016年12月	長野県教育委員会事務局中信教育事務所・長野県体育センター・長野県総合型クラブ連絡協議会		長野県松本市中央公民館(Mウイング)
○その他					
(雑誌・新聞記事等掲載)					
記事タイトル		掲載日		雑誌・新聞等名称	
①ベビーカー利用/マップ作り進む(こどもの国)②ベビーカー楽しく散策(こどもの国、マップ作成)桐蔭横浜大生ら協力③こどもの国園内「ベビーカーマップ」作成へ、地元大学生らも協力 ※横浜市青葉区、こどもの国、桐蔭横浜大学が連携して、全国緑化よこはまフェアの一環として、こどもの国に入園するベビーカー親子が快適に散策やウォーキングをするためのマップ作りを学生の協力も得て行う活動。		①2016年7月21日 ②2016年7月13日 ③2016年7月28日		①朝日新聞朝刊28面神奈川地域版。 ②神奈川新聞朝刊18面横浜地域版。 ③タウンニュース(青葉区版)。	
(その他特記事項)					
FMサルース「アフタヌーン・サルース/SPORTS Box/桐蔭横浜大学公開講座『スポーツと法を考える』」ゲスト出演(2016年6月17日13:20～13:50放送)【ITCOMスタジオたまプラーザ(たまプラーザ内)】					
FMサルースあおバリューRadio(青葉区役所の広報番組)「なしかちゃんコーナー」で健康づくり講演会「健康づくりの第一歩 ウォーキングでロコモ予防」(8月23日開催)の紹介(講演内容、展示内容、体力測定等)を生放送で行なった。放送日時;2016年8月11時00分～11時20分。					
かながわパラスポーツ・コーディネーターの手引き(仮)(平成28年度『かながわパラスポーツ』普及推進事業業務委託:田中暢子・櫻井智野風・松本格之祐・吉田勝光・加藤知生)平成28年10月頃発行					

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本体育・スポーツ政策学会、日本スポーツ法学会、日本体育・スポーツ経営学会、日本教育行政学会、日本スポーツ産業学会、日本スポーツ社会学会、日本公法学会、日本私法学会、文理シナジー学会等

任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2003年4月～現在	日本体育・スポーツ政策学会理事～現在()、理事長(2009年4月～2017年3月)	
2006年12月～現在	日本スポーツ法学会理事(～現在)、スポーツ法学教育の在り方検討委員会委員長(2013年10月～2016年12月)、事故判例研究委員会委員長(2013年12月～現在)	
2013年10月～現在	松本市スポーツ推進審議会委員(会長)	
2013年4月～現在	大町市スポーツ推進審議会委員	
2000年4月～現在	日本テニス協会評議員	
2008年7月～現在	日本スポーツ仲裁機構仲裁人・調停人候補者	
2016年6月～現在	青葉区フラワーネックレス青葉2017実行委員会委員	
2017年2月～現在	野球文化学会副会長(理事)	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
こどもの国ベビーカー親子支援散策マップづくり		社会福祉法人こどもの国、横浜市青葉区との連携事業

田中 暢子 (たなか のぶこ) 准教授



出生年：1967(昭和42)年
 在籍：2013(平成25)年～
 最終学歴：ラフバラ大学大学院スポーツ・レジャー政策研究科博士課程スポーツ政策学・スポーツマネジメント学修了
 学位：博士(スポーツ政策学・スポーツマネジメント学)
 学位論文：“An analysis of the policy-making process for disability sport in Japan and the UK/ England: The cases of wheelchair basketball, CP sport and intellectual disability”(ラフバラ大学2013年)

専門分野：スポーツ政策学、健康政策学、スポーツ社会学、障害学

前職：中央大学保健体育研究所 客員研究員

学内役職等：国際交流センター副センター長

留学：ラフバラ大学

資格：弓道2段、中学校社会科教諭第一種免許、高等学校社会科教諭第一種免許、図書館司書教諭免許、障害者職業カウンセラー、上級介護予防運動スペシャリスト

非常勤講師：中央大学、筑波大学大学院TIAS、ウースター大学スポーツエクササイズ学部名誉准教授

受賞・表彰：1990年 関東学院大学学長賞受賞
 1998年 オーストラリア知的障害者スポーツ・レクリエーション協会表彰
 2003年 ラフバラ大学大学院国際奨学生受賞
 2010年 警察庁長官賞受賞(高齢者エアロビックプログラム開発)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
授業の内容をまとめたパワーポイントやワードを資料として配布。		資料には、参考資料は必ず掲載する。特に学生の学習意欲を高めるために、映像やグループディスカッションといった参加型の授業も展開する。たとえば、高齢化社会論では、高齢者の身体特性を学んだ後に、運動プログラムを班ごとに作成し、発表する機会を提供した。なお、発表に至るまでは、教員が何度もプログラム内容についてアドバイスする時間も設けた。
2.作成した教科書、教材、参考書		

		<p>文部科学省(2010)スポーツ政策調査研究(共著), 田中暢子(2012)障がい者とスポーツ, 川西正志と野川春夫(編), 一般社団法人日本パラリンピアンズ協会(2012)パラリンピック選手の競技環境 その実態と意識調査(共著)、加藤千恵子、喜岡恵子、渋谷英雄、杉本富利、田中暢子、田村美智子、鳥田部達(2011)失敗しない社会調査法(共著)他</p>
--	--	---

4.その他教育活動上特記すべき事項		
		<p>科研研究などのテーマは国際比較(特に政策学的分析)を行っているが、2013年10月には、専門とする精神障害者の国際シンポジウム・のコーディネーター及び、国際会議の議長を務めた(日英で)。</p>

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略					
<p>2016年は、第1回精神障害者ソーシャルフットボール国際大会の開催、並びに大会報告書作成、ドキュメンタリービデオ(イタリア・ローマ映画祭ドキュメンタリー部門最優秀賞受賞作品)への出演など、2013年～2016年科研調査の成果として、国際大会への開催にこぎつけた成果を多くのメディアに取り上げられた。また、2016年9月に実施した第3回パラリンピック選手の競技環境 その意識と実態調査は、テレビ、ラジオ、ネットニュースなどに取り上げられ、研究成果が世に出た。また、この結果に対するコメントが、多くのメディアに取り上げられた。また、桐蔭横浜大学が協定を結んだウースター大学との連携の成果として、日本財団と共催したシンポジウムのコーディネータや講演、日本体育学会などを始めとする学会のパネリストなどを務めた。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
ロンドン2012年後のスポーツ政策を読み解くーパラリンピックへ与えられたスポーツにおける平等な競技環境とその課題ー	単著	2017年3月	平成25-28年度科学研究費補助金「基盤研究(B)」研究成果報告書、「新しい公共」形成をめぐる民間スポーツ組織の公共性に関する国際比較研究(研究課題番号(25282190))	田中暢子	109-118頁
(学術論文)					
(論文)					
第3回パラリンピック選手の競技環境 その意識と実態調査	共著	2016年8月	日本パラリンピアンズ協会	田中暢子, 日本パラリンピアンズ協会	全74頁
自立神経指標を用いた発達障害者のコミュニケーション支援:エアロビック競技指導における一考察(査読あり)	共著	2016年8月	明治大学理工学部 vol.53(109)	小野弓絵, 嶋田総太郎, 岸川学, 田中暢子	1-8頁
海外文献紹介『英国における障害者スポーツ研究』(依頼研究書評)	単著	2017年3月	スポーツ社会学研究 25(1), 88-91	—	88-91頁
(報告)					
世界の精神障害者スポーツ推進システムの動向 研究の背景、目的、方法	単著	2016年5月	精神障害者スポーツ推進システムに関する国際比較研究 (研究課題番号:25350785) 研究代表者:田中暢子 共同研究者:菊幸一, 奥田睦子	—	4-13頁

精神保健先進国イタリアにおける精神障害者スポーツ推進の意義と課題～社会連帯を追い求める必要性～	単著	2016年5月	精神障害者スポーツ推進システムに関する国際比較研究 (研究課題番号:25350785) 研究 代表者:田中暢子 共同研究者:菊幸一, 奥田睦子	—	14-19頁
デンマーク労働者スポーツ協会で推進される精神障害者スポーツの現状と課題	単著	2016年5月	精神障害者スポーツ推進システムに関する国際比較研究 (研究課題番号:25350785) 研究 代表者:田中暢子 共同研究者:菊幸一, 奥田睦子	—	20-26頁
イングランドにおけるスポーツの枠組みとしての精神障害者スポーツの課題	単著	2016年5月	精神障害者スポーツ推進システムに関する国際比較研究 (研究課題番号:25350785) 研究 代表者:田中暢子 共同研究者:菊幸一, 奥田睦子	—	45-46頁
第3回パラリンピック選手の競技環境 その意識と実態調査	共著	2016年8月	日本パラリンピアンズ協会	田中暢子, 日本パラリンピアンズ協会	全74頁
(雑誌)					
イギリスにおけるパラリンピック(教育)と障がい者のスポーツ(依頼原稿)	単著	2016年8月	みんなのスポーツ 2016.Vol.425	—	21-23頁
障害のある人とスポーツ, 第1回パラリンピックの歴史と起源(依頼原稿)	単著	2016年8月	すべての人の社会, No.432 6	—	4月5日
イギリスにおけるパラリンピック(教育)と障がい者のスポーツ	単著	2016年8月	みんなのスポーツ 2016.Vol.425	—	21-23頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名		
(シンポジウム)					
A Comparative Cross-national study of Policies for Paralympics	2016年5月	The 14th ASFAA Congress, Macaou, (開催場所: 牆報全日於場地展示)	山口泰雄, 田中暢子, 山口志郎, 石沢信弘		
障がい者スポーツ推進の国際比較(その理念)について	2016年8月	第67回日本体育学会大会体育経営管理専門領域企画シンポジウム(開催場所: 大阪体育大学キャンパス)	シンポジスト		

Paralympic and legacies ~ Focusing on Japanese history of disability sport	2016年10月	Ghent University produces, workshop, Study on Legacy of Olympic games between Belgium and Japan(開催場所: 明治神宮)	シンポジスト
かわさきパラムーブメントシンポジウムーパラアスリートたちが、社会を進化させる	2016年10月	かわさきパラムーブメントシンポジウム, 川崎市(開催場所: 川崎市産業振興会館)	シンポジスト
桐蔭横浜大学・日本財団主催第22回特別公開ワークショップ「イギリスにおけるインクルーシブスポーツの取り組みと実践～2012年ロンドンパラリンピック競技大会における戦略とレガシー」	2016年12月	第22回特別公開ワークショップ(開催場所: 日本財団)	ファシリテーター
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
第3回パラリンピック選手の競技環境 その意識と実態調査報告会	2016年8月	日本パラリンピアンズ協会 調査報告会	電通PR本社
第1回かながわパラスポーツコーディネーター養成会	2016年11月	神奈川県 かながわパラスポーツコーディネーター養成会	桐蔭横浜大学
第2回かながわパラスポーツコーディネーター養成会	2016年12月	神奈川県 かながわパラスポーツコーディネーター養成会	相模原市民会館, 相模原市立体育館
第3回かながわパラスポーツコーディネーター養成会	2017年1月	神奈川県 かながわパラスポーツコーディネーター養成会	国立特別支援教育総合研究所
○その他			
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
オランダ外務省招待	2016年11月	オランダナショナルトレーニングセンター、オランダスポーツ省、オランダオリンピック委員会他	
日本パラリンピック委員会海外研修	2017年3月	日本パラリンピック委員会の海外研修の企画、現地視察のコーディネート、通訳をした。訪問先は、イギリスパラリンピック委員会、イングランド障害者スポーツ協会、ウースター大学他	
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
Inclusive the key to Tokyo Paralympic Legacy British Experts	2016年5月	Mainichi Daily News (5月6日) コメントの掲載	
五輪とパラ、一体で強化 中核拠点に集約、「相乗効果」期待 「移動、楽に」分散化も併用	2016年7月	毎日新聞(7月12日)朝刊 コメントの掲載	
パラリンピックの歴史と起源	2016年8月	「みんなの社会」 第1回障害のある人とスポーツ, 原稿投稿	
パラリンピック施設 なお壁	2016年8月	東京新聞8月25日付朝刊 コメントの掲載	

データで知るパラリンピック	2016年9月	日本経済新聞電子版(9月6日公開) コメントの掲載等
パラスポーツ、体験会や研修広がる リオ8日開幕	2016年9月	日本経済新聞(9月7日)朝刊 コメントの掲載
(その他特記事項)		
障害のある人にもっとスポーツを	2016年5月	NHKラジオ「夕方先読みニュース」(5月18日) ゲスト出演
NHK おはよう日本	2016年8月	NHK「おはよう日本」パラリンピック開会式を4年後に控えた8月25日にコメントが放送
中西哲男のクロノス+Plus パラリンピック選手の施設利用について	2016年8月	東京FM「中西哲男のクロノス」9月6日放送 障害者の施設利用についてコメントが放送
2020ニュース 特集	2016年10月	NHKニュースシブ(10月19日) コメントの放送
追跡! 衝撃の現場はいま(ニュース)	2016年12月	NHK首都圏ネットワーク(12月21日) コメントの放送

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体育学会、日本スポーツ社会学会、日本スポーツ精神医学会、日本社会福祉学会、日本体育・スポーツ政策学会、障害学会、日本障害者体育・研究会 他	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2004年4月～	NPO法人山下ウェルキャブの会ドルフィンズ理事(現在に至る)
2011年5月～	神奈川県エアロビック連盟諮問委員会委員長(現在に至る)
2012年3月～	一般社団法人日本パラリンピアンズ協会アドバイザー(現在に至る)
2012年4月～	日本スポーツ精神医学会役員理事(平成28年9月迄)
2012年10月～	精神障害者スポーツ国際化実行委員会委員・事務局長(現在に至る)
2013年2月～	NPO法人日本ソーシャルフットボール協会理事/国際委員会委員長(平成28年6月迄)
2013年3月～	文部科学省スポーツ青少年局 技術審査委員会委員(現在に至る)
2014年3月～	文部科学省競技スポーツ課 技術審査委員会委員(現在に至る)
2014年6月～	一般社団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会参与(現在に至る)
2014年6月～	一般社団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 参与(現在に至る)
2014年10月～	神奈川県スポーツ推進審議会委員(現在に至る)
2014年10月～2016年9月	特定非営利法人日本障害者スキー連盟理事
2015年4月～	一般社団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 街づくり検討委員会(現在に至る)
2015年4月～	日本体育スポーツ政策学会理事(現在に至る)
2015年4月～	International Journal of Sport and Health Science 編集委員(現在に至る)
2016年3月～	一般社団法人日本車椅子バスケットボール連盟理事(現在に至る)

2016年3月～	日本障がい者サッカー連盟理事(現在に至る)
2016年6月～	NPO法人日本ソーシャルフットボール協会参与(現在に至る)
2016年9月～	日本スポーツ精神医学会評議員(現在に至る)
2016年9月～	日本体育学会体育社会学専門部会評議員(現在に至る)
2017年3月～	日本体育学会アダブテッドスポーツ科学専門部会評議員(現在に至る)

福 浦 一 男(ふくうら かずお) 准教授 (2017年度 新任教員)



出 生 年 : 1967年(昭和42)年
 在 籍 : 2017年(平成29)年4月～
 最 終 学 歴 : 京都大学大学院文学研究科博士後期課程所定の研究指導認定退学
 学 位 : 博士(文学)
 学 位 論 文 : 「北タイ、チェンマイの霊媒集団とその宗教実践」
 専 門 分 野 : 比較社会学・文化人類学
 前 職 : 滋賀医科大学非常勤講師
 学 内 役 職 等 :
 留 学 : チェンマイ大学(タイ)
 資 格 :
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
反転授業による授業改善 (於滋賀医科大学)	2015(平成27)年4月1日～2017(平成29)年3月31日	講義「社会学入門」実施にあたり、通常の講義形式の授業に加えて、講義内容に即したテーマに関する学生のプレゼンテーションと質疑応答を授業の主軸に据えることにより、実践的な教育を達成。さらに各回リアクション・ペーパーを使用して授業に関する学生の要望や質問を聴取し、授業改善に生かすと共に、学生とのよりよいコミュニケーションを達成。
2.作成した教科書、教材、参考書		
レジュメ・画像・映像等からなるオリジナル教材の作成 (於龍谷大学)	2008(平成20)年4月1日～2017(平成29)年3月31日	講義「地域社会学」実施にあたり、各種メディアを組み合わせたオリジナル教材を作成・使用し、政治的動乱の最中にある現代タイ社会の現状と其中で宗教が果たす役割をリアルタイムでフォローすることにより、実践的でタイムリーな教育を達成。

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略			
<p>2016年2月に単著『霊媒のいる街——北タイ、チェンマイの宗教復興』を刊行した。そのなかで北タイの事例を民衆文化の「創造性」発揮の典型例としてとらえ、現代の宗教文化研究では近代化との関係それ自体でなく、近代化のなかで自律性を保持し、独自の時空間を切り開く宗教実践とその可能性に注目すべきと論じている。2016年度は、この議論をさらに広範に展開することに注力した。</p> <p>2016年5月には日本文化人類学会第50回研究大会で研究発表を実施し、現代世界で増大するさまざまな宗教現象を論じる際には、歴史性、宗教実践の自律性・独自性、宗教実践による地域社会の社会的紐帯の形成など、既存の研究が看過しがちな諸点の重要性を指摘した。2016年10月には第89回日本社会学会大会で研究発表を実施し、グローバル化と宗教現象の直接的関係を前面に押し出す「宗教現象の近代論」とは異なる、文化構築的な儀礼復興とその戦略について論じた。2017年度からはじまる科研費による研究(15K02280)を通して一連の研究をより一層発展させる所存である。</p>			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
「北タイ、チェンマイの霊媒術と精霊信仰——その歴史性と現代性」	2016年5月29日	日本文化人類学会第50回研究大会(南山大学/愛知県名古屋)	
「北タイ、チェンマイの宗教復興と地域社会の現在」	2016年10月9日	第89回日本社会学会大会(九州大学/福岡県福岡市)	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本文化人類学会、日本社会学会、日本宗教学会、関西社会学会

小笠原 一 彰 (おがさわら かずあき) 専任講師



出 生 年 : 1972(昭和47)年
 在 籍 : 2014(平成26)年4月～
 最 終 学 歴 : 横浜国立大学大学院教育学研究科健康・スポーツ系教育
 専攻
 学 位 : 修士(教育学)
 学 位 論 文 : 競泳選手のクリティカル・スイム・スピードの決定
 専 門 分 野 : コーチング学、トレーニング科学、運動生理学、スポーツ心
 理学
 前 職 : 桐蔭学園中高社会科教員(専門:日本史)
 学 内 役 職 等 :
 留 学 :
 資 格 : 中高社会科教員1種免許(地理歴史)
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 : 早稲田大学体育名誉賞(1993)、神奈川県水泳連盟特別
 功労賞(2012)

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体育学会、日本体力医学会、運動生理学会、水泳水中運動学会、スポーツ心理学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
1995年4月～現在	神奈川県水泳連盟強化委員
2000年4月～現在	神奈川県高校体育連盟水泳専門部常任委員

佐藤 国正 (さとう くにまさ) 専任講師



出生年：1983(昭和58)年
 在籍：2012(平成24)年4月～
 最終学歴：日本体育大学大学院体育科学研究科体育科学専攻博士前期課程修了
 学位：修士(体育科学)
 学位論文：スポーツと暴力に関する文化論的研究－運動部活動の指導場面に着目して－(修士論文)
 専門分野：スポーツ哲学、バレーボール
 前職：桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部(助手)
 学内役職等：
 留学：
 資格：国際バレーボール連盟公認コーチ資格(レベルII)
 公益財団法人日本バレーボール協会公認講師
 財団法人日本体育協会上級コーチ
 財団法人日本体育協会公認スポーツリーダー
 中学校・高等学校教諭専修免許状(保健体育)
 中学校・高等学校教諭1種免許状(保健体育)
 実用フランス語技能検定3級
 自然体験活動指導者(自然体験活動リーダー)

非常勤講師：
 受賞・表彰：

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略			
我が国における大学スポーツが転換期を迎えようとするなかで、今日の大学スポーツの実態と課題を明らかにした。日本版NCAAの構築が齎す功罪を指摘している。			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
(一般研究発表・ポスター) シンガポールでの交流活動	2016年8月	日本バレーボール学会、2016バレーボールミーティング	佐藤国正
(一般研究発表・ポスター) 大学スポーツの振興に関する原理的考察－学生スポーツの存立－	2017年3月	日本バレーボール学会、第22回日本バレーボール学会大会	佐藤国正、馬場大拓

III 学会等および社会における主な活動

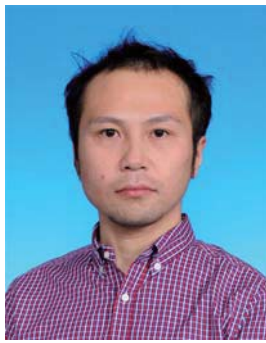
所属学会・機関・団体等の名称	
日本体育学会、日本バレーボール学会、日本体育・スポーツ哲学学会、日本運動・スポーツ科学学会、日本オリンピックアカデミー、	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2015年6月1日～2017年5月31日	日本オリンピックアカデミー総務委員会 幹事

IV 芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
(女子バレーボール部監督)			
2016年度春季関東大学バレーボールリーグ戦女子5部Aリーグ	2016年4月～5月	東京大学、他	女子4勝1敗(リーグ1位/総合2位)

2016年度神奈川県知事杯大学バレーボールリーグ戦女子2部	2016年6月	神奈川大学、他	女子2勝2敗(3位)
2016年度東日本バレーボール大学選手権大会女子	2016年6月	墨田区総合体育館、他	トーナメント1回戦敗退
2016年度秋季関東大学バレーボールリーグ戦女子4部Aリーグ	2016年9月	埼玉大学、他	女子3勝2敗(3位/総合5位)
2016年度神奈川県大学バレーボール連盟トーナメント(女子)	2016年11月	神奈川大学	女子:2回戦敗退
2016年度全日本バレーボール大学選手権大会女子	2016年11月	墨田区総合体育館	予選リーグ突破 決勝トーナメント1回戦敗退

田中宏和 (たなか ひろかず) 専任講師



出生年：1977(昭和52)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科博士後期課程
 単位取得後退学
 学位：修士(体育科学)
 学位論文：戦後日本におけるスポーツ政策の展開に関する研究－「体育政策」から「スポーツ政策」への転換－
 専門分野：スポーツ行政学、スポーツ政策学、スポーツマーケティング
 前職：国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科 助手
 学内役職等：
 留学：
 資格：中学校教諭専修免許(保健体育)
 高等学校教諭専修免許(保健体育)
 非常勤講師：東洋大学、東京有明医療大学
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
映像を用いた実技授業	2008年4月～現在	実技科目(剣道・剣道指導法・剣道コーチング論)において、習得すべき技術を映像等を用いて説明を実施し、学習の促進を行った。
レポートによる種目特性の習得	2008年4月～現在	実技科目(剣道・剣道指導法)において実技技能以外の種目特性の習得のためレポートの作成等の工夫を行っている
映像を用いた授業	2014年4月～現在	地域スポーツ経営論において地域スポーツの現状を把握するために映像等を用いて説明を実施し、学習の促進を行った。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本体育学会、日本体育・スポーツ政策学会、日本NPO学会、日本体育・スポーツ経営学会、日本スポーツマネジメント学会

大学院工学研究科 (Graduate School of Engineering)

杉本 恒美 (すぎもと つねよし) 教授



出生年 : 1964(昭和39)年
 在籍 : 1993(平成5)年4月～
 最終学歴 : 東京工業大学大学院博士課程
 学位 : 博士(工学)
 学位論文 : 放射圧を用いた生体組織の硬さ計測に関する基礎的研究
 専門分野 : 超音波工学、音響工学、生体医用工学
 前職 :
 学内役職等 : 研究推進部副部長(2011～)
 大学院アドミッション委員(2012～)
 環境エネルギー学環 研究推進チームメンバー(2011～)
 留資格 :
 留資格 : 第一種情報処理技術者
 日本超音波医学会「超音波工学Fellow」(1999～)
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 : Scilab Toolbox Japan Contest 2009, 一般部門 最優秀賞
 建設施工と建設機械シンポジウム2014 論文賞

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
基礎情報処理	2015年4月～	数値計算システムであるScilabを用いて、実験データの計算処理が行えるようになるためのプログラミング基礎を解説。大学院授業で使用。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
「世界中のコンクリート欠陥探査の常識が変わる!？」 -最新 非接触音響探査法のすべて-	2014年9月27日～	学園祭フロンティアセミナーにおける講演、非接触音響探査法に関する最新Topic(参加者、理数科約30名)(2014年より3年連続担当)
4.その他教育活動上特記すべき事項		
「風も無いのに葉っぱが揺れる？」 おもしろ理科教室	2013年～	パラメトリック音源を用いた音響放射圧の実験(2013年より4年連続担当)
「音波に関する実験」 桐蔭高校理数科課題研究	2013年～	パイプを用いた楽器作り(共振)、各種音源特性(指向性)等の実験(2013年より4年連続担当)

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略
・農工融合計測 1. 音波振動を用いた植物の健康状態評価に関する研究(基盤C、代表研究者2年目) 2. 植物映像のゆらぎ解析による作物給水ニーズの推定(基盤C、代表研究者1年目) ・非破壊計測 1. 非接触音響探査法の欠陥検知アルゴリズムに関する研究(基盤C、分担研究者2年目) 2. 非接触音響探査法によるスポット溶接の健全度評価システムの開発(豊橋市イノベーション創出等支援事業に係る研究開発、代表研究者2年目) 3. 音響探査法を用いた検査手法の基礎検討その他作業の指導(受託研究 佐藤工業(株) H28.5-H29.3) 4. 非接触音響探査法の航空宇宙部品への適用性検討(合同研究 ㈱IHIエアロスペース H28.8-H29.3) 5. 軟性容器に対する非接触音響検査手法の適用性に関する検討(合同研究 プロテック(株) H28.9-H29.8) 6. 音響探査法の開発のうち、大型超音波音源の開発(奨学寄付金 佐藤工業(株) H27.6-H28.5) 7. 非接触音響探査法を用いた現地実験およびその指導(奨学寄付金 佐藤工業(株) H28.10-H29.9) ・医用計測 1. コロトコフ音波解析による健康管理指標値の研究(アクアメイトでの計測を継続)

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
強力超音波音源を用いた音響探査技術の開発	共著	2016年6月1日	建設機械施工, Vol.68, No.6, pp71-77, (2016.6)	歌川紀之, 黒田千歳, 杉本恒美	71-77頁
遠距離非破壊計測のための高速非接触音響探査法	共著	2017年 1月25日	超音波テクノ Vol.29, No.1	杉本恒美 , 杉本和子, 歌川紀之, 片倉景義	31-35頁
(学術論文)					
「縦挿し型送受信機を用いた土壌中の伝搬速度計測」	共著	2016年06月28日	桐蔭論叢,第34号	白川 貴志, 大平 武征, 中川 裕, 佐野 元昭, 杉本 恒美	135-138頁
「植物の葉の固有振動数のモデル化に関する研究」	共著	2016年06月28日	桐蔭論叢,第34号	内川千春、 杉本恒美 、佐野元昭、中川裕	139-144頁
「高分子厚膜の圧力センサを用いた土壌圧力の測定に関する研究」	共著	2016年06月28日	桐蔭論叢,第34号	大平武征、 杉本恒美 、佐野元昭、白川貴志、中川裕、内川千春	145-148頁
「空中放射音波を用いたコンクリート構造物のための非接触検査法に関する研究、-統計解析によるコンクリート健全部の評価-」	共著	2016年06月28日	桐蔭論叢,第34号	杉本和子、 杉本恒美	149-154頁
「レーザ変位計を用いた葉の同時多点振動解析による植物の水ストレスの推定」	共著	2016年06月28日	桐蔭論叢,第34号	佐野元昭、内川千春、中川裕、安齋拓也、大平武征、白川貴志、 杉本恒美	155-158頁
「マルチトーンバースト波を用いた高速非接触音響探査法の検討」	共著	2016年07月06日	コンクリート工学年次論文集、Vol.38	杉本 恒美・杉本 和子・黒田 千歳・歌川 紀之	2103-2108頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「非破壊検査のための非接触音響探査法に関する研究 -高速計測に関する検討-」	2016年5月17日	物理探査学会第134回(平成28年度春季)学術講演会 早稲田大学国際会議場	杉本恒美 , 杉本和子, 黒田千歳, 歌川紀之		
“The Non-contact Acoustic Inspection Method for Concrete Structures using the Defect Detection Algorithm that Combined Spectrum Entropy with Vibrational Energy Ratio”	2016年6月14日	19th World Conference on Non-Destructive Testing (WCNDT2016) Tu.3.H.4(Modelling and Data Processing - Algorithms 1) International Congress Center Munchen (Munich, Germany)	K.Sugimoto,T. Sugimoto ,N.Utagawa,K.Katakura		
“Study on the Long Distance Non-contact Acoustic Inspection Method using a Strong Ultrasonic Sound Source”	2016年6月14日	19th World Conference on Non-Destructive Testing (WCNDT2016) We.4.A.3(Civil Engineering - Ultrasonic Testing) International Congress Center Munchen (Munich, Germany)	T.Sugimoto , K.Sugimoto,N.Utagawa,K.Katakura		
「コンクリート非破壊検査のための非接触音響探査法に関する研究 -高速計測のためのマルチトーンバースト波のS/N比に関する検討-」	2016年9月15日	日本音響学会秋季講演大会 富山大学	小菅信章, 杉本恒美 , 杉本和子, 歌川紀之		

「音響探査法を用いたコンクリート表層欠陥探査技術の開発 —長距離計測に関する検討—」	2016年9月9日	土木学会第71回年次学術講演会 東北大学 川内北キャンパス	上地樹, 杉本恒美 , 杉本和子, 宮本裕輔, 歌川紀之
「音響探査法を用いたコンクリート表層欠陥探査技術の開発 —計測速度向上に関する検討—」	2016年9月7日	土木学会第71回年次学術講演会 東北大学 川内北キャンパス	杉本恒美 , 杉本和子, 上地樹, 黒田千歳, 歌川紀之
「音響探査法を用いたコンクリート表層欠陥探査技術の開発 —健全部評価に関する検討—」	2016年9月7日	土木学会第71回年次学術講演会 東北大学 川内北キャンパス	杉本和子, 杉本恒美 , 千星 淳, 黒田千歳, 歌川紀之
「音響探査法を用いたコンクリート表層欠陥探査技術の開発 -強力超音波音源に関する検討-」	2016年9月7日	土木学会第71回年次学術講演会 東北大学 川内北キャンパス	黒田千歳, 歌川紀之, 阪本泰士, 杉本和子, 杉本恒美
“High speed acoustic inspection method for civil engineering structure using acoustic irradiation-induced vibration -Study about the S/N ratio of the multi-tone burst wave-”	2016年10月29日	11th Toin International Symposium on Biomedical Engineering Sophos Hall, Toin Gakuen Academium B1F	Nobuaki KOSUGE, Tsuneyoshi SUGIMOTO
“Basic study on the estimation of the welding diameter of the spot welding by acoustic measurement”	2016年10月29日	11th Toin International Symposium on Biomedical Engineering Sophos Hall, Toin Gakuen Academium B1F	Yutaka NAKAGAWA, Tsuneyoshi SUGIMOTO
“Examination of sound wave propagation velocity and volume water content in Komatsuna (Japanese mustard spinach) settled compost ”	2016年10月29日	11th Toin International Symposium on Biomedical Engineering Sophos Hall, Toin Gakuen Academium B1F	Takeyuki OHDAIRA, Tsuneyoshi SUGIMOTO , Motoaki SANO, Takashi SHIRAKAWA, Yutaka NAKAGAWA, Chiharu UCHIKAWA
“Propagation velocity in soil using Handheld Sound Source and Sensors(II)”	2016年10月29日	11th Toin International Symposium on Biomedical Engineering Sophos Hall, Toin Gakuen Academium B1F	Takashi SHIRAKAWA, Takeyuki OHDAIRA, Yutaka NAKAGAWA, Motoaki SANO, Tsuneyoshi SUGIMOTO
“Study on Non-contact Inspection Method for Concrete Structures - Detection of cracks due to reinforced corrosion -”	2016年10月29日	11th Toin International Symposium on Biomedical Engineering Sophos Hall, Toin Gakuen Academium B1F	Kazuko SUGIMOTO, Tsuneyoshi SUGIMOTO , Yutaka KAWANO, Takeyuki NISHIDO
“Study on the modeling of the resonance frequency of a plant leaf (II)”	2016年10月29日	11th Toin International Symposium on Biomedical Engineering Sophos Hall, Toin Gakuen Academium B1F	Chiharu UCHIKAWA, Tsuneyoshi SUGIMOTO , Motoaki SANO, Yutaka Nakagawa, Takeyuki OHDAIRA
“Study on non-contact acoustic inspection method for concrete non-destructive inspection -Study about Long distance measurement-”	2016年10月29日	11th Toin International Symposium on Biomedical Engineering Sophos Hall, Toin Gakuen Academium B1F	Itsuki UECHI, Tsuneyoshi SUGIMOTO
「空中放射音波を用いた非接触欠陥検出法に関する研究 —マルチトーンバースト波を用いた高速非接触音響探査—」	2016年10月6日	日本非破壊検査協会平成28年度秋季講演大会 ハーネル仙台2F松島A	杉本恒美 , 杉本和子, 小菅信章, 黒田千歳, 歌川紀之

「空中放射音波を用いた非接触欠陥検出法に関する研究 —マルチトーンバースト波の計測速度とS/N比に関する検討—」	2016年10月6日	日本非破壊検査協会平成28年度秋季講演大会 ハーネル仙台2F松島A	小菅信章, 杉本和子, 杉本恒美 , 黒田千歳, 歌川紀之
“High Speed Non-Contact Acoustic Inspection Method for Civil Engineering Structure using Multi Tone Burst Wave”	2016年11月16日	The 37th Symposium on UltraSonic Electronics (USE2016) Pukyong National University (釜慶大学校、釜山、韓国)	Tsuneoyoshi Sugimoto , Kazuko Sugimoto, Nobuaki Kosuge, Noriyuki Utagawa, Kageyoshi Katakura
“The non-contact acoustic inspection method for concrete structures using the defect detection algorithm based on the statistic evaluation for a healthy part of concrete”	2016年11月30日	5th Joint Meeting Acoustical Society of America and Acoustical Society of Japan Hilton Hawaiian Village, Honolulu, Hawaii	Kazuko Sugimoto, Tsuneoyoshi Sugimoto , Nobuaki Kosuge, Chitose Kuroda, Noriyuki Utagawa
“Study on the measurement speed and signal to noise ratio of multi tone burst wave for high speed non-contact acoustic inspection method”	2016年11月30日	5th Joint Meeting Acoustical Society of America and Acoustical Society of Japan Hilton Hawaiian Village, Honolulu, Hawaii	Nobuaki Kosuge, Tsuneoyoshi Sugimoto , Kazuko Sugimoto, Chitose Kuroda, Noriyuki Utagawa
“High speed non-contact acoustic inspection method using multi tone burst wave”	2016年11月30日	5th Joint Meeting Acoustical Society of America and Acoustical Society of Japan Hilton Hawaiian Village, Honolulu, Hawaii	Tsuneoyoshi Sugimoto , Kazuko Sugimoto, Nobuaki Kosuge, Chitose Kuroda, Noriyuki Utagawa
「非接触音響探査法を用いたスポット溶接径の推定に関する研究」	2017年2月21日	アコースティック・イメージング研究会 産業技術総合研究所(つくば東事業所)	中川裕, 杉本恒美 , 田中幹人
「コンクリート非破壊計測のための非接触音響探査法に関する研究 —健全部評価に関する検討—」	2017年3月15日	日本音響学会春季研究発表会 明治大学生田キャンパス	杉本和子, 杉本恒美 , 上地樹, 小菅信章, 歌川紀之
「コンクリート非破壊検査のための非接触音響探査法に関する研究 —長距離計測に関する検討—」	2017年3月15日	日本音響学会春季研究発表会 明治大学生田キャンパス	上地樹, 杉本恒美 , 杉本和子, 小菅信明, 歌川紀之
「音響加振による位相差を用いたスポット溶接径の推定に関する研究」	2017年3月17日	日本音響学会春季研究発表会 明治大学生田キャンパス	中川裕, 杉本恒美
「通常のCCDカメラを用いた葉の固有振動数解析による植物の水ストレス推定」	2017年3月17日	日本音響学会春季研究発表会 明治大学生田キャンパス	佐野元昭, 内川千春, 中川裕, 大平武征, 白川貴志, 杉本恒美
「コンクリート非破壊検査のための非接触音響探査法に関する研究」	2017年3月17日	日本音響学会春季研究発表会 明治大学生田キャンパス	小菅信章, 上地樹, 杉本和子, 杉本恒美 , 歌川紀之

○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「音波照射加振とレーザドブブラ振動計による土木構造物の非接触・非破壊検査法」(招待講演)	2016年6月3日	日本学術振興会フォトニクス情報システム第179委員会第43回研究会	弘済会館
「遠距離音波照射加振を用いた土木構造物のための高速非接触音響探査法(招待講演)」	2016年9月5日	日本音響学会秋季講演大会	富山大学
「世界中のコンクリート欠陥検査の常識が変わる!? 最新 非接触音響探査法のすべて」	2016年9月25日	2016 桐蔭学園 フロンティアセミナー	桐蔭学園高等学校
○その他			
(特許申請等)			
特許名	年月日	特許番号	申請者名(共同の場合)
「非接触音響探査法および非接触音響探査システム」	2016年12月14日	特願2016-241941	学校法人桐蔭学園、佐藤工業(株)(杉本恒美, 杉本和子, 歌川紀之, 黒田千歳)
非接触音響探査システム	2017年2月17日	特願2016-027908	学校法人桐蔭学園、テクノシステム(株)(杉本恒美, 中川裕, 田中幹人)
解析装置および解析システム	2017年2月17日	特願2016-027909	学校法人桐蔭学園、テクノシステム(株)(杉本恒美, 中川裕, 田中幹人)
(産学協同研究)			
研究内容	研究期間	協同研究の相手方の名称	
奨学寄附金「大型超音波音源の検討」	2015年6月～2016年6月	佐藤工業(株) 寄付金額100万円(直接90万、間接10万)	
奨学寄附金「音響探査法の開発のうち、大型超音波音源の検討」	2016年6月～2017年6月	佐藤工業(株) 寄付金額100万円(直接90万、間接10万)	
奨学寄附金「非接触音響探査法を用いた現地実験およびその指導」	2016年10月～2017年9月	佐藤工業(株) 寄付金額151万円(直接136万、間接15万)	
受託研究「音響探査法を用いた検査手法の基礎検討その他作業の指導」	2016年5月～2017年3月	佐藤工業(株) 受託研究費216万円(間接21.6万)	
共同研究「非接触音響探査法の航空宇宙部品への適用性検討」	2016年8月～2017年3月	(株)IHエアロスペース 合同研究費178.2万円(直接162万、間接16.2万)	
共同研究「軟性容器に対する非接触音響検査手法の適用性に関する検討」	2016年9月～2019年8月	(株)プロテック 合同研究費1425万円(直接1296万、間接129.6万)	
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
受託研究「非接触音響探査法による溶接の健全度評価システムの開発」	2015年度～2016年度	豊橋市イノベーション創出等支援事業(株)サイエンス・クリエイト、テクノシステム(株)(2年間、約530万円(間接53万))	
基盤研究(C)「非接触音響探査法の欠陥検知アルゴリズム改善に関する研究」	2015年度～2017年度	文部科学省科研費、研究代表者:杉本和子、分担研究者:杉本恒美 約380万円(間接経費114万)	
基盤研究(C)「音波振動を用いた植物の育成状態評価に関する検討」	2015年度～2017年度	文部科学省科研費、研究代表者:杉本恒美、分担研究者:佐野元昭 約390万円(間接経費117万)	
基盤研究(C)「植物映像のゆらぎ解析による作物給水ニーズの推定」	2016年度～2018年度	文部科学省科研費、研究代表者:佐野元昭、分担研究者:杉本恒美 約380万円(間接経費114万)	

(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
19th World Conference on Non-Destructive Testing (WCNDT2016)出席・発表	2016年6月11日～19日	International Congress Center Munchen (Munich, Germany)
The 37th Symposium on UltraSonic Electronics (USE2016) 出席・発表	2016年11月15日～17日	Pukyong National University (釜慶大学校、釜山、韓国)
5th Joint Meeting Acoustical Society of America and Acoustical Society of Japan 出席・発表	2016年11月26日～12月4日	Hilton Hawaiian Village (Honolulu, Hawaii)
(雑誌・新聞記事等掲載)		
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称
「強力超音波音源を用いた音響探査技術の開発」	2016年7月10日	建設機械施工, Vol.68, No.6 71-77頁
「トンネル劣化音波で診断」	2016年7月29日	富山新聞 27面
(その他特記事項)		
「超音波シンポジウム運営委員会委員」2016/4/1～2017/3/31 超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム運営委員会委員		
「衝撃弾性波法研究委員会 委員」2016/4/1～2018/3/31		
物理探査学会第134回(平成28年度春季)学術講演会 座長 5月18日 第1会場 土木5・地震 10:20-11:40 早稲田大学国際会議場 (2016.5.18)		
「Presider(Poster session, 11th Toin BME symposium)」2016/10/29 Presider Tsuneyoshi Sugimoto Poster presentations, Frontier Engineering 4:45-6:15 Sophos Hall, Toin Gakuen Academium B1F 11th Toin International Symposium on Biomedical Engineering		

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本音響学会、日本超音波医学会、日本生体医工学会、IEEE-UFFC、物理探査学会、日本土木学会、日本非破壊検査協会、日本コンクリート工学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
1999年7月～現在	超音波工学フェロー(日本超音波医学会認定 EJSUM-69)
2010年5月～現在	超音波シンポジウム運営委員
2010年5月～現在	電子情報通信学会 常任査読委員
2014年3月1日～現在	「日本音響学会 アコースティックイメージング研究委員会 委員」
2014年4月～2018年3月	衝撃弾性波法研究委員会委員
2016年3月31日～2018年3月31日	日本音響学会編集委員会 査読委員

星 秋 夫 (ほし あきお) 教授



出 生 年 : 1954(昭和29)年
 在 籍 : 2008(平成20)年4月～
 最 終 学 歴 : 日本体育大学大学院体育学研究科体育学専攻 修了
 学 位 : 体育学修士(日本体育大学)、医学博士(順天堂大学)
 学 位 論 文 : Effects of swimming and weight loading on bone density and mechanical properties of femoral bone in mice
 専 門 分 野 : 環境衛生学、生気象学、健康・スポーツ科学
 前 職 : 日本歯科大学生命歯学部共同利用研究センター准教授
 学 内 役 職 等 : スポーツ科学研究科長(2015～)
 留 学 :
 資 格 :
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 :

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略					
我が国の夏季における環境は急激に悪化し、熱中症をはじめとする暑熱障害の発症が問題となっている。そこで、我々の研究グループは熱中症予防対策を構築することを目的に、実験的、疫学的手法を用いて各種分野から研究を行っている。2020年東京オリンピックの対策については検討課題として取り組んでいる。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
2020年東京オリンピック競技開催予定地における環境温度の予測	共著	2016年8月	日本スポーツ健康科学誌3巻1号	榎村修生、南 和広、 星 秋夫	1-7頁
Heat disorder-related mortality rates of major Japanese cities	共著	2016年8月	Jpn,J.Sport.Health.Sci. 3(1)	Akio Hoshi , Osamu Kashimura, Seiji Sakate	53-60
Prediction of WBGT for the TOKYO 2020 Olympic Marathon	共著	2016年12月	Jpn.J.Biometer.53(4)	Osamu Kashimura, Kazuhiro Minami, Akio Hoshi	139-144
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(シンポジウム)熱中症ってなーに?熱中症発生の現状とそ特徴	2016年5月15日	日本生気象学会主催・環境省共催シンポジウム	星 秋夫		
(口頭発表)救急搬送の多変量解析による生気象学的検討	2016年11月4日	第55回日本生気象学会大会(北海道)	永田侑加, 星 秋夫 , 榎村修生		
(ポスター発表)大学陸上競技選手における熱中症発生の実態	2016年11月5日	第55回日本生気象学会大会(北海道)	島崎あかね, 榎村修生, 齊藤雄司, 南 和広, 星 秋夫		

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本衛生学会、日本生気象学会、日本体力医学会、日本スポーツ健康科学学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
1999年4月～現在	日本衛生学会評議員
1999年9月～現在	日本体力医学会評議員
2001年4月～2009年3月	日本生気象学会編集委員
2003年10月～現在	日本生気象学会評議員
2009年4月～2014年3月31日	日本生気象学会編集委員長
2009年4月～現在	日本生気象学会幹事
2013年2月～現在	日本スポーツ健康科学学会長
2013年2月～現在	日本スポーツ健康科学会理事
2014年4月～現在	日本生気象学会学会長

櫻井 智野風 (さくらい ともぶ) 教授



出生年：1966(昭和41)年
 在籍：2014(平成26)年4月～
 最終学歴：横浜国立大学大学院教育学研究科保健体育学専攻修了
 学位：博士(運動生理学), 教育学修士
 学位論文：運動による骨格筋損傷とその治癒過程における一酸化窒素の関与
 専門分野：運動生理学, スポーツ科学, トレーニング科学
 前職：東京農業大学 生物産業学部 准教授
 学内役職等：就職指導部副部長(2016), 大学院スポーツ科学研究科専攻長
 留学：アメリカ・ウィスコンシン州立大学マディソン校キネシオロジー学部 客員研究員(1999～2000)
 資格：小学校教諭一種免許, 中学校教諭一種免許(保健体育), 高校学校教諭専修免許(保健体育), 日本体育協会公認コーチ(陸上競技), 国際陸上競技連盟 レベル I 講師
 非常勤講師：青山学院大学
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
運動生理学の基礎と発展 (フリースペース)	2002年4月～	体育概論の教科書として使用.
パソコンで学ぶ元気で生きる健康科学 (三共出版)	2011年4月～	体育実技の教科書として使用.

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体育学会, 日本体力医学会, 日本トレーニング科学会(理事), 日本生理学会, 日本臨床生理学会, 日本発育発達学会, 日本生気象学会, 日本健康医学会, 日本宇宙航空環境医学会, 日本陸上競技学会(理事), 日本スプリント学会, 日本スポーツ健康科学学会(理事), American College of Sports Medicine(アメリカスポーツ医学会)	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2007年4月～現在	日本トレーニング科学会理事、編集委員会委員長
2012年4月～現在	日本陸上競技学会理事
2013年4月～現在	日本スポーツ健康科学会理事
2014年4月～現在	日本生理学会評議員
2014年4月～現在	日本体力医学会評議員

澁倉 崇行 (しぶくら たかゆき) 准教授



出生年：1972(昭和47)年
 在籍：2014(平成26)年4月～
 最終学歴：名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士課程(後期課程)心理発達科学専攻修了
 学位：博士(心理学)
 学位論文：「高校運動部員の心理的ストレスに関する研究:部活動ストレスモデルの構築と介入プログラムの作成」(博士論文)
 専門分野：スポーツ心理学
 前職：新潟県立大学人間生活学部准教授
 学内役職等：
 留学：
 資格：中学校教諭専修免許状(保健体育), 高等学校教諭専修免許状(保健体育)
 非常勤講師：国士舘大学
 受賞・表彰：日本体育学会学会賞(平成26年度)(共著者)

II 研究活動

○その他		
(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
青少年スポーツ活動における保護者の問題行為の発生機序と対処過程(研究代表者)	2015年4月～2019年3月	科学研究費補助金:基盤研究(B), 日本学術振興会

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本体育学会, 日本スポーツ心理学会, 日本教育心理学会, 日本健康心理学会, 日本ストレスマネジメント学会

法科大学院 (Law School)

江口 眞樹子 (えぐち まきこ) 教授



出生年：1958(昭和33)年
在籍：2007(平成19)年4月～
最終学歴：神戸大学大学院法学研究科博士後期課程
学位：法学修士
学位論文：企業の社会的責任について－フランス法におけるsociétéとassociationに関する法の歴史の変遷を通じて
専門分野：商法、金融商品取引法
前職：平成国際大学法学部助教授
学内役職等：法科大学院 教務委員長
留学：ドイツ連邦共和国ミュンヘン大学法学部(1987～1989)
資格：
非常勤講師：平成国際大学大学院法学研究科
受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
演習ノート会社法 第7版	2016年6月	会社法演習問題

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
演習ノート会社法〔第7版〕	共著	2016年6月	法学書院	奥島孝康・鳥山恭一	204-213頁 228-233頁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本私法学会、日本経済法学会

大澤 恒夫 (おおさわ つねお) 教授



出生年：1954(昭和29)年
 在籍：2005(平成17)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科民事法専攻博士後期課程修了
 学位：法学博士
 学位論文：「弁護士業務における対話の理念と技法—法と対話の専門家をめざして」
 専門分野：法的対話論、司法アクセス論、弁護士論、ADR論、(弁護士としての主要業務)IT分野における知的財産法、競争法、企業再建
 前職：
 学内役職等：メディアエーション・交渉研究所センター長 (2014～)
 留学：
 資格：弁護士(1981年～現在)
 非常勤講師：中央大学法科大学院客員教授(裁判外紛争解決)
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
ケースメソッド	2005年4月～	裁判例(特に第1審判決)等により、具体的事実やそこから伺われる現実の複雑さ、法実践での事実の切り出し方、自分自身の取り組みとしてどのように考えるか、などを検討する。
実演、ロールプレイと振り返り	2005年4月～	人と人が話し合うプロセスについて、台詞を用意して行う実演やケースを設定して行うロールプレイを実施し、参加者全員で振り返りを行うことにより、法運用をめぐる実践知の内面化への契機をつかむ。
プレゼンテーションとファシリテーション	2005年4月～	プレゼンテーション(発表)とファシリテーション(議論の支援)について、その技法を理解し、実践してみることを通じて、コミュニケーション力の向上への契機をつかむ。
授業ごとの短時間小レポート課題	2005年4月～	各授業の最後の15～20分程度を使い、その日の授業(または前回の授業)の復習になる事項について、設問を示して(あるいは自由に課題を設定させ)その場で、ミニレポートを書かせることにより、授業内容の理解の促進と短時間での手書き文章力の向上を図る。
学生自身の紛争体験から紛争プロセスを振り返る	2005年4月～	学生自身の紛争体験(大小や種類は問わない)を振り返り、そのプロセスを丁寧に辿ることにより、紛争の発生から解決・克服への過程の中に含まれる重要な実践知に気付くとともに、これからの法律学習への動機付けを高める。
5.その他教育活動上特記すべき事項		
ソフトウェア情報センター「ソフトウェアの知的財産権入門講座」講師	2001年2月～現在	IT関連の法務担当者や若手弁護士等を対象に、ITに関連する知的財産と独占禁止法上の諸問題について解説。
大学間交渉コンペティション審査員	2004年12月～現在	大阪大学・上智大学「平成16年度・特色ある教育支援プログラム(特色GP)」事業(住友グループ広報委員会・日本仲裁人協会等後援)により、国際的に活躍する交渉者の育成を目指して、毎年2日間にわたる模擬仲裁、模擬交渉による競技会が行われ、その審査員を務めている。

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本民事訴訟法学会、日本法社会学会、法とコンピュータ学会、仲裁ADR法学会、司法アクセス学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2005年4月～現在	法とコンピュータ学会理事
2006年4月～現在	司法アクセス学会理事
2005年4月～現在	財団法人ソフトウェア情報センター(SOFTIC)評議員
	ソフトウェア紛争解決センター運営委員
	「司法制度改革と先端テクノロジー」研究会委員
	日本仲裁人協会会員、日弁連業務改革委員会幹事
	インターカレッジ・ネゴシエーション・コンペティション審査員

蒲 俊 郎 (かば としろう) 教授



出 生 年 : 1960(昭和35)年
 在 籍 : 2005(平成17)年4月～
 最 終 学 歴 : 慶應義塾大学法学部法律学科
 学 位 :
 学 位 論 文 :
 専 門 分 野 : 電子商取引(EC)、労働法(使用者側)
 前 職 : 桐蔭横浜大学客員教授
 学 内 役 職 等 : 法務研究科長 (2014～)
 留 学 :
 資 格 : 弁護士(第二東京弁護士会)
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 :

I 教育活動

2.作成した教科書、教材、参考書		
レジュメの配布	2006年4月～	全ての講義においてオリジナルレジュメを作成し配布した(科目によってはプロジェクターを使用し、パワーポイントによる講義を実施)。
4.法律実務教育に関する特記事項		
講演:「企業における情報管理体制の構築・改善～悪意を持った内部者から情報を守るためにどうすれば良いか」	2016年5月	ビッグロブ株式会社 主催
講演:「事業者団体への独占禁止法上の規制について」	2016年5月	一般財団法人全国携帯電話販売代理店協会 主催
講演:「悪意を持った内部者からも情報を守る 企業における情報管理体制～「応報教育」と「部下の動態観察」の重要性」	2016年11月	株式会社 ジュピターテレコム 主催
講演:「情報管理マネジメントについて」	2016年12月	三菱化学株式会社 主催

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
おとなのIT法律事件簿 職場編(インプレスR&D)	単著	2016年12月	インプレスR&D	蒲俊郎	
(学術論文)					
「悪意を持った内部者からも情報を守る 企業における情報管理体制の構築・改善」	単著	2016年4月	みずほ総合研究所「BUSINESS TOPICS」	-	1-20頁

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2006年3月～現在	ガンホー・オンライン・エンターテイメント株式会社 監査役
2007年8月～現在	株式会社ケイブ 監査役
2013年6月～現在	株式会社ティーガイア 監査役
2014年6月～現在	学校法人桐蔭学園 理事
2015年3月～現在	株式会社ピアラ 監査役
2015年6月～現在	一般財団法人東京都営交通協力会 理事
2017年4月～現在	株式会社J.SCORE 監査役

久保利 英明 (くぼり ひであき) 教授



出生年：1944(昭和19)年
 在籍：2015(平成27)年4月～
 最終学歴：東京大学法学部卒業
 学位：
 学位論文：
 専門分野：コーポレートガバナンス及びコンプライアンス、M&A、株主総会運営、金融商品取引法、独禁法等企業法務、知的財産権(特にエンターテインメント・ビジネスや通信・放送ビジネス等)

前職：大宮法科大学院大学教授、桐蔭法科大学院客員教授
 学内役職等：
 留学：
 資格：弁護士
 (日比谷パーク法律事務所代表/第二東京弁護士会)

非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
レジュメの配布	2014年4月～	全ての講義でオリジナルのレジュメを配布し、講義内容に合わせた文献等の資料を用意した。
ゲストスピーカーの招聘	2014年4月～	独自の人脈により、第一線で活躍する方々をゲストとしてお呼びし、法曹の魅力を伝えた。また、受講者以外にも広く聴講を認め、多くの学生に参加の機会を与えた。
2.作成した教科書、教材、参考書		
著書： 『久保利英明ロースクール講義 一君は<正義>のために闘えるか?』	2016年8月	ゲストスピーカー講義の回を書籍にまとめ、講義でもとりあげた。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
桐蔭学園(桐蔭高校) 高校生向け 「主権者教育～18歳からの選挙権～」講演	2016年6月8日	主権者教育～18歳からの選挙権～に関する講演を行った。
2016 桐蔭学園 フロンティアセミナー	2016年9月25日	最強の自由業―「弁護士の将来像」に関する講演を行った。
4.法律実務教育に関する特記事項		
株式会社商事法務 新任役員セミナー	2016年6月3日	「役員のための総会運営法」
証券取引等監視委員会 市場監視専科研修	2016年7月25日	「不祥事対応のプリンシプル」について概要と監視に対する期待」
東京弁護士会法友会70周年記念シンポジウム	2016年9月8日	「弁護士の未来、日本の未来、私たちの務め」
日弁連「第三者委員会セミナー」	2016年9月14日	「上場会社における不祥事対応のプリンシプル」
株式会社商事法務 トップ・マネジメントセミナー	2016年9月16日	「今求められる取締役の役割と責務」
日本取締役協会 経営幹部のためのコーポレート・ガバナンス研修	2016年9月23日	「ガバナンスとコンプライアンスの本義・企業の今日的在り方について」

IPBA 講演会	2016年9月27日	「世界へ羽ばたけ！」
福岡県弁護士会研修会	2016年9月30日	「新時代の企業法務と弁護士の役割」
日本取引所グループ コンプライアンス講演会	2016年11月14日	「やるきの出るコンプライアンス」
産業経理協会「経営財務法務研究会」	2017年1月24日	「第三者委員会の論理と運用」
株式会社商事法務 平成29年株主総会準備対策講座	2017年2月15日(東京) 3月15日(福岡)	「企業不祥事の防止と発生した不祥事への対応」
平成28年度 全道漁協トップセミナー	2017年3月3日	「やるきの出るコンプライアンス」

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の 年 月 日 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
久保利英明ロースクール講義 一君は<正義>のために闘えるか?	共著	2016年8月	日経BP		1-100頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名		
臨床法学教育学会創立10周年記念プレシ ンポ パネリスト	2016年7月23日	臨床法学教育学会 創立10周年記念プレシ ンポ	早稲田大学		
第2回桐蔭CRECシンポジウム 「企業と国のガバナンス」	2016年9月15日	第2回桐蔭CRECシンポジ ウム	桐蔭横浜大学法科大学院 東京 キャンパス		
第3回桐蔭CRECシンポジウム 「中小企業とコンプライアンス」	2017年3月15日	第3回桐蔭CRECシンポジ ウム	桐蔭横浜大学法科大学院 東京 キャンパス		
○その他					
(雑誌・新聞記事等掲載)					
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称			
東洋ゴム工業不祥事/監査役 不提訴の判 断について	2016年7月29日	日経産業新聞			
社外取締役 ガバナンス について	2016年8月1日	文藝春秋2016年8月号			
医療・社会福祉法人はガバナンスをどう築く か! (長隆税理士と対談)	2016.10.18号	財界			
粉飾決算などの企業不正をどう見抜き、ある いは防止するか	2016.12.20号	週刊エコノミスト			
第三者委員会報告書の社会的意義と今後の 課題	2017.1.23号/2017.1.30号	週刊経営財務			

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
法と経済学会, 租税訴訟学会, 日本法社会学会, 日本内部統制学会, 法とコンピュータ学会

任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2006年9月～現任	金融庁総務企画局参事(法令等遵守調査室顧問)	
2008年6月～現任	農林中央金庫 経営管理委員	
2011年6月～現任	東京証券取引所グループ(現 日本取引所グループ)取締役(社外)	
2011年6月～2017年6月	東京証券取引所自主規制法人(現 日本取引所自主規制法人)外部理事	
2014年6月～現任	ソースネクスト株式会社 取締役(社外)	
2013年3月～2016年6月	規制改革会議 創業・IT等WG 専門委員	
2004年4月～2017年5月	NPO法人エンターテインメント・ロイヤーズ・ネットワーク理事長	
2017年5月～現任	NPO法人エンターテインメント・ロイヤーズ・ネットワーク理事	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
ロースクールと法曹の未来を創る会 代表	2014年5月～	ロースクールと法曹の未来を創る会
第三者委員会報告書格付け委員会 委員長	2014年4月～	第三者委員会報告書格付け委員会

熊田 彰英 (くまだ あきひで) 教授



出生年：1969(昭和44)年12月25日
 在籍：2014(平成26)年4月～
 最終学歴：京都大学法学部
 学位：法学士
 学位論文：
 専門分野：刑事法, 刑事実務, 国際司法, 韓国法制
 前職：法務省大臣官房秘書課(検事)
 学内役職等：
 留学：
 資格：弁護士(のぞみ総合法律事務所)
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
実際の事件・実務を意識した教育	2014年4月～	毎回、判例・時事問題のほか、自らが実務で担当した事件等について適宜言及し、現在習得しようとしている理論・知識が将来実務においてどのような形で役立つか、また、いかなる場面で必要か、学生が具体的なイメージを持てるよう適宜工夫している。

II 研究活動

○その他
(その他特記事項)
ドラマ「HERO」リーガルアドバイザー (2014年7月～)
ニュースコメンテーター (2014年7月～)

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
第二東京弁護士会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
平成28年4月～	国際委員会

IV 法律実務に関する活動

会の名称	年月日	場所	内容等
弁護士	2014年4月～現在	のぞみ総合法律事務所	司法実務

小林 学 (こばやし まなぶ) 教授



出生年：1969(昭和44)年
 在籍：2002(平成14)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科博士後期課程
 学位：法学修士
 学位論文：自律的規範構造モデルの構築による民事訴訟法学の学問的復権—実体法と訴訟法の規範的連関論—
 専門分野：民事訴訟法、司法アクセス、法曹論
 前職：桐蔭横浜大学法学部教授
 学内役職等：学務部副部長(2013年4月～)、法務専攻長(2015年4月～)
 非常勤講師：亜細亜大学法学部
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(3) Syllabus@Net、スマートキャンパスによるレジュメの公開と課題出題	2012年度～2017年度	法科大学院科目の「民事法総合演習3」のレジュメ(課題含む)をSyllabus@Net上にアップロードしたうえ、受講者が各自でダウンロードして教室に持参するよう指示した。なお、法科大学院科目の「民事訴訟法」についても、2013年度以降、同様の方法による授業展開を実施している(2016年度よりスマートキャンパスを利用)。

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略					
1. 平成28年度に引き続き、平成29年度も「優れた取組」として採択された文部科学章・法科大学院公的支援見直し強化・加算プログラム「職域拡大に向けた“コンプライアンスのパイオニア養成”」に関与した経験に基づいて、単なる法令順守にとどまらないコンプライアンスの核心に何があるのか、法の用い方と意思決定プロセスの関係いかなどについて考察を進め、その成果の一部を桐蔭論叢に寄稿した(「企業コンプライアンスと法—組織における意思決定プロセス—」桐蔭論叢35号57頁以下)。 2. 確認の利益に代表される確認訴訟をめぐる諸問題を再考するための準備作業として、アメリカ法の「宣言判決(declaratory judgment)」および「プリーディング基準(pleading standard)」をめぐる議論に関する立法論および判例法理をリサーチする作業を進めた。その際、確認訴訟を再考する際の留意点を書きとどめ、公開した(「確認訴訟の再考に向けて—アメリカ法における宣言判決およびプリーディング基準をめぐる議論から—」比較法雑誌50巻4号43頁以下)。 3. 2014年11月に華東政法大学(中国・上海市)で開催された第7回東北アジア民事訴訟法学会国際シンポジウムにおける報告論文を土台として、スラップ訴訟をテーマとした一章を加筆したうえで、司法アクセスの観点から纏め直すなどの大幅な加除訂正を行った(「民事訴訟による不正義の体現—SLAPP訴訟、判決の無効・騙取—」桐蔭法科大学院紀要5号21頁以下)。 4. 平成23年度に実施した「碩学にきく」の文章を整える作業を継続している。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「民事証拠収集の拡充—中韓の動向を踏まえて—」	単著	2016年6月30日	比較法雑誌50巻1号	—	175-199頁
「企業コンプライアンスと法—組織における意思決定プロセス—」	単著	2016年12月	桐蔭論叢35号	—	57-63頁
「確認訴訟の再考に向けて—アメリカ法における宣言判決およびプリーディング基準をめぐる議論から—」	単著	2017年3月30日	比較法雑誌50巻4号	—	43-68頁

「民事訴訟による不正義の体現— SLAPP訴訟、判決の無効・騙取 —」	単 著	2017年3月31日	桐蔭法科大学院紀要 5号	—	21-58頁
○その他					
(雑誌・新聞記事等掲載)					
記事タイトル		掲載日		雑誌・新聞等名称	
【コメント掲載】 法テラス10年に関するコメント		2016年11月15日(夕刊)		読売新聞(全国版)	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本法社会学会、日本民事訴訟法学会、日本私法学会、仲裁ADR法学会、司法アクセス学会、東北アジア民事訴訟法国際学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2008年10月～現在	東北アジア民事訴訟法国際学会日本事務局
2010年12月～2017年3月	司法アクセス学会事務局
2016年7月9日～現在	仲裁ADR法学会理事

中 島 肇 (なかじま はじめ) 教授



出 生 年 : 1955(昭和30)年
 在 籍 : 2007(平成19)年4月～
 最 終 学 歴 : 東京大学法学部
 学 位 :
 学 位 論 文
 専 門 分 野 : 民法、企業法、倒産法、農業法、医療・福祉法
 前 職 : 東京高等裁判所判事
 学 内 役 職 等 :
 留 学 :
 資 格 :
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 :

Ⅲ学会等および社会における主な活動

任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2008年～現在	司法試験考査委員(商法)	
	全農福岡パールライス株式会社不適正取引調査委員会・委員長	
	事業再生研究機構(理事長・多比羅誠)会員研究員	
	地方自治法務研究会(座長・交告尚史東大教授)監事	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
全国銀行協会あっせん委員会小委員長	2011年4月～現在	全国銀行協会
参議院情報後悔苦情審査会委員	2011年4月～現在	参議院事務局
原子力損害賠償紛争審査会委員	2011年4月～現在	文部科学省

Ⅳ法律実務に関する活動

任期、活動期間等	活動内容等
	弘済事業株式会社民事再生手続申立代理人(東京地方裁判所)
	国際書房民事再生事件申立代理人(東京地方裁判所)
	破産事件管財人3件(東京地方裁判所)

福井康佐 (ふくい こうすけ) 教授



出生年 : 1961(昭和36)年
在籍 : 2012(平成24)年4月～
最終学歴 : 学習院大学大学院法学研究科法律学専攻博士後期課程
学位 : 博士(法学)
学位論文 : 「国民投票の研究」(博士論文)
専門分野 : 直接民主制・憲法訴訟・選挙運動規制
前職 : 大官法科大学院教授
学内役職等 : 法務研究科法務専攻長(2012～2014)
留学 :
資格 :
非常勤講師 :
受賞・表彰 :

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

憲法理論研究会、比較憲法学会

宮 島 里 史 (みやじま さとし) 教授



出 生 年 : 1951(昭和26)年
在 籍 : 1994(平成6)年4月～
最 終 学 歴 : 中央大学大学院博士後期課程終了
学 位 : 法学修士(中央大学)
Master of Laws (Northwestern Univ. School of Law)
学 位 論 文 : 弁護権の意味と機能(中央大学)
Waiver of the Sixth Amendment Right to Counsel at the
Pretrial Stages (Northwestern Univ. School of Law)
専 門 分 野 : 憲法、刑事訴訟法、少年法
前 職 :
学 内 役 職 等 :
留 学 : Northwestern Univ. School of Law (U.S.A)
資 格 :
非 常 勤 講 師 :
受 賞 ・ 表 彰 :

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本刑法学会、日米法学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2008年2月～現在	第二東京弁護士会懲戒委員会委員

菅谷 貴子 (すがや たかこ) 准教授



出生年 : 1972(昭和47)年
 在籍 : 2010(平成22)年4月～
 最終学歴 : 慶應義塾大学法学部法律学科
 学位 :
 学位論文 :
 専門分野 : 刑事法、労働法、会社商事関係全般 等
 前職 :
 学内役職等 :
 留学 :
 資格 : 弁護士(第二東京弁護士会)
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本民事訴訟法学会、(財)日本法律家協会、司法アクセス学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2004年4月～現在	(財)金融情報システムセンター (現(公財)金融情報システムセンター) 検討部会委員
2006年5月～現在	(株)キーウォーカー 監査役
2006年6月～現在	(社)全国民営職業紹介事業協会 (現(公社)全国民営職業紹介事業協会) 理事
2007年6月～現在	(株)フェイス 監査役
2010年3月～現在	(財)楠田育英会 (現(一財)楠田育英会) 常務理事
2010年6月～現在	コロムビアミュージックエンタテインメント(株) (現 日本コロムビア(株)) 監査役
2014年4月～現在	家事調停委員 (東京家庭裁判所 所属)
2014年9月～現在	トーセイ・リート投資法人 監督役員
2015年4月～現在	(学)清泉女子大学 評議員
2015年8月～現在	(株)クオレ・シー・キューブ ハラスメント対策委員会 実行委員長
2016年6月～現在	日通商事(株) 監査役
2016年12月～現在	(一財)軽井沢風越学園設立準備財団 評議員
2017年4月～現在	(学)東邦大学 非常勤講師
2017年6月～現在	(一社)日本ゲーミング協会 理事

千葉 理 (ちば おさむ) 准教授



出生年 : 1963(昭和38)年
 在籍 : 2010(平成22)年4月～
 最終学歴 : 東京大学法学部
 学位 :
 学位論文 :
 専門分野 : 会社法・商法
 前職 : 三菱商事株式会社勤務(1987～1999)
 学内役職等 :
 留学 :
 資格 : 弁護士(第二東京弁護士会)・曙綜合法律事務所
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
4.法律実務教育に関する特記事項		
複数の顧問先への会社法等の研修会(買収防衛策及び会社法の改正動向等)に講師として参加した。またいくつかの株主総会指導を行い株主総会に参加した。		
5.その他教育活動上特記すべき事項		
教務委員会委員として教務委員会にまた定期的で開催されるFD研究会に参加し、よりよい法科大学院としての教員の質の向上のための議論に参加した。		

III 学会等および社会における主な活動

任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2006年4月～現在	第二東京弁護士会民事介入暴力被害者救済センター運営委員会委員

中野邦保 (なかの くにやす) 准教授



出生年：1976(昭和51)年
 在籍：2005(平成17)年4月～
 最終学歴：名古屋大学大学院法学研究科博士後期課程
 学位：法学修士
 学位論文：行為基礎論における等価関係破壊の評価
 専門分野：民法
 前職：
 学内役職等：
 留学：
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)ソクラテスマソッドによる講義	2005年度～	少人数の講義において、出欠席・評価とを連動しつつ、問答形式で、学生の理解度を確認しながら民法の授業を行っている。

II 研究活動

○著書・論文等					
(学術論文)					
「立法提案:民法改正研究会『日本民法典改正案 第一編 総則』(1)～(3・完)」	単著	2016年4月、7月、10月	消費者法ニュース107号～109号		205-207頁、261-263頁、144-147頁
○その他					
(補助金・助成金等)					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
日本民法典財産法・担保法編の改正(課題番号:25245011、代表:加藤雅信)	2013年4月～2018年3月	科学研究費補助金(基盤研究(A)) 研究分担者			

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本私法学会、日本法哲学会

弓削田 博 (ゆげた ひろし) 准教授



出生年 : 1974(昭和49)年1月9日
 在籍 : 2010(平成22)年4月～
 最終学歴 : 明治大学法学部
 学位 : 法学士
 学位論文 :
 専門分野 : 知的財産法, 企業法務, 広告規制法
 前職 :
 学内役職等 :
 留学 :
 資格 : 弁護士(2000年登録 小林・弓削田法律事務所)
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書 講義レジュメの作成		教科書を使用する科目でもすべてオリジナルレジュメを作成しているが、特に「債権回収と担保」では、教科書を指定せず、講義に耐えうる自作レジュメを作成し、それのみでの講義を行っている。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本工業所有権法学会, 法とコンピュータ学会, エンターテインメント・ロイヤーズ・ネットワーク, 全国倒産処理弁護士ネットワーク

IV 法律実務に関する活動

任期、活動期間等	活動内容等
2014年4月～現在	工業所有権審議会臨時委員(特定侵害訴訟代理業務試験委員)

平岩 桃子 (ひらいわ ももこ) 助手



出生年 : 1980(昭和55)年
在籍 : 2011(平成23)年1月～
最終學歷 : 桐蔭横浜大学法科大学院法務研究科博士課程修了
學位 : 法務博士
學位論文 :
専門分野 :
前職 :
学内役職等 : 法科大学院教育助手
留学 :
資格 : 弁護士(城山タワー法律事務所)
非常勤講師 :
受賞・表彰 :

加藤 幸嗣 (かとう こうじ) 特任教授



出生年：1953(昭和28)年
在籍：2004(平成16)年10月～
最終学歴：東京大学法学部
学位：法学士
学位論文：
専門分野：行政法、地方自治法、環境法
前職：参議院法制局参事、山口大学助教授、国土舘大学教授等

学内役職等：
留学：
資格：
非常勤講師：
受賞・表彰：

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本公法学会、日本行政学会、自治体学会、日本環境学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
	行政経営フォーラム(PMFJ)等における行政関係者等との交流活動等

先端医用工学センター (Biomedical Engineering Center)

奥井 理 予 (おくい みちよ) 専任講師



出 生 年 : 1972(昭和47)年
 在 籍 : 2005(平成17)年4月～
 最 終 学 歴 : 広島大学大学院医学系研究科博士課程後期修了
 学 位 : 博士(薬学)
 学 位 論 文 : ダウン症関連領域からクローニングされたMNB遺伝子の発現解析
 専 門 分 野 : 分子生物学、細胞生物学
 前 職 : 慶応義塾大学医学部助手
 学 内 役 職 等 :
 留 学 : St. Jude Children's Research Hospital (アメリカ) (2008年11月～2010年9月)
 資 格 : 薬剤師免許
 公認スポーツファーマシスト
 非 常 勤 講 師 : 国立大学法人電気通信大学
 受 賞 ・ 表 彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
4.その他教育活動上特記すべき事項		
公認スポーツファーマシスト	2016年4月1日～	

II 研究活動

○2016年度の研究活動概略			
2016年度は、ヒト乳がん細胞株を用い、2015年度に同定した3種類のmicroRNAについて解析を行った。ヒト乳がん細胞に3種類のmicroRNAを同時に過剰発現させ、細胞増殖実験を行った結果、がん細胞の増殖が抑制されることを確認した。			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
(ポスター発表) MicroRNA-141,146a, and 203 modulates olaparib sensitivity in medulloblastoma cells	2016年7月24～29日	Gordon Research Conference (香港)	Junya Kobayashi, Kenshi Komatsu, Youngsoo Lee, Helen R. Russell, Peter J. McKinnon
(ポスター発表) PARP阻害剤感受性を亢進するmicroRNAの同定	2016年11月30～12月2日	第39回日本分子生物学会年会(横浜)	小林純也、小松賢志、李榮穂、Helen R. Russell, Peter J. McKinnon
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
科学研究費補助金 基盤研究(C) PARP阻害剤感受性を亢進するmicroRNAの同定と新規併用療法の開発	2015年4月～2018年3月	科学研究費補助金(日本学術振興会)	
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
Gordon Research Conference (Genome Instability)	2016年7月24日～29日	香港科技大学(中国)	

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本薬学会、日本癌学会、日本分子生物学会、アメリカ癌学会(American Association for Cancer Research)

公開講座・セミナー・シンポジウム・イベント等開催

(国際シンポジウム開催)

桐蔭医用工学国際シンポジウム2016(第11回)

The 11th Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2016

日時:2016年10月29日(土)9:00~18:15

場所:桐蔭学園アカデミウム

Program

Plenary session –invited speakers–

Session 1 : Quality of Life Enhancement: Low Frequency(20kHz), Low Intensity(100mW/cm²) Ultrasound Treatment of Chronic Wounds

Dr. Peter A. Lewin
Richard B. Beard Distinguished University Professor
Electrical and Computer Engineering and Biomedical Engineering
Director, Biomedical Ultrasound Research and Education Center
Drexel University, U.S.A.

Session 2 : Current Trends in Reversible Cell Membrane Manipulation

Dr. Seyedeh Moosavi Nejad
Senior Researcher, Department of Anatomy, School of Medicine
Fukuoka University, JAPAN

Session 3 : Role of Biomedical Engineering in the Advancement of Forensic DNA Typing – Past, Present, and Future Directions

Dr. Khalid M. Lodhi
Associate Professor, Forensic Biology
Director, Forensic Science Program
Department of Biological Sciences
Fayetteville State University, U.S.A.

Session 4 : Diversity of Magnesium Transporters Involved in Magnesium Homeostasis

Dr. Akira Kato
Associate Professor, Center for Biological Resources and Informatics
Tokyo Institute of Technology, JAPAN

Oral presentation

Presentation 1 : Mr. Masaya KANI
Graduate Student / Graduate School of Engineering, TOIN University of Yokohama

Presentation 2 : Mr. Akihiko KONO
Graduate Student / Graduate School of Engineering, TOIN University of Yokohama

Presentation 3 : Mr. Hiroaki SUGAMATA
Graduate Student / Graduate School of Engineering, TOIN University of Yokohama

Presentation 4 : Mr. Yuki TAGUCHI
Graduate Student / Graduate School of Engineering, TOIN University of Yokohama

Presentation 5 : Mr. Peerathat PINPITHAK
Doctoral Student / Graduate School of Engineering, TOIN University of Yokohama

Presentation 6 : Dr. Takuro MURAKAMI
Senior Researcher / Research Center for Photovoltaics, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology

Presentation 7 : Dr. Mutsuo ISHIKAWA
Lecturer / Faculty of Biomedical Engineering, TOIN University of Yokohama

Presentation 8 : Dr. Kentaro OHNUMA

Lecturer / Faculty of Biomedical Engineering, TOIN University of Yokohama

Presentation 9 : Dr. Keitaro HAGIWARA
Researcher / Faculty of Biomedical Engineering, TOIN University of Yokohama

Presentation 10 : Dr. Kazunori OKANO
Postdoctoral fellow / Graduate School of Materials Science, Nara Institute of Science and Technology

Presentation11 : Dr. Takeyoshi UCHIDA
Researcher / Acoustic and Ultrasonics Standard Group, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology

Poster presentation

BIOMEDICAL ENGINEERING — 22 posters

CLINICAL ENGINEERING — 23 posters

FRONTIER ENGINEERING — 11 posters

(イベント/学内)

第18回おもしろ理科教室

日時： 2016年8月18日(木)10:00～15:30

場所： 桐蔭横浜大学 法学部棟 他

対象： 小学生以上の児童、生徒およびその保護者 他

実施テーマ

「じゃんぼシャボン玉に挑戦」

「筋肉と脂肪を見てみよう！」

「空気砲を作ろう！」

「生物の光を作ってみよう」

「新しいそろばん -足し算・引き算・掛け算・割り算がすぐにできる-

「なりきり裁判官」

「礼儀作法」

「電気の力でコインを飛ばそう」

「モーターを作ってみよう」

「力を実感してみよう」

「風も吹いていないのに葉っぱが揺れる？」

「さわれない黒いかべ！ 偏光って何だ？」

「わくわく病院ごっこ」

「マイクロの世界を探険しよう」

「ボールレンズ顕微鏡を作ってみよう！」

「ペットボトルで遊ぼう」

「ブーメランを飛ばそう」

「挑戦！チビッコオリンピック」

「体育館遊園地化計画」

「折り紙飛行機を作って飛ばそう」

「桐蔭英語村」(英語で遊ぼう)

「陪審法廷見学」

特別授業「子どもの足大研究」

特別授業「海や山は楽しいな。でもこんな生物毒には注意！」

(魚介類、キノコ、植物など)

桐蔭学園中学校(男・女)&中等教育学校 案内コーナー

(イベント/学外)

大学で学ぼう生涯学習フェア

日時： 2016年7月2日(土)・3日(日) 10時～16時

場所： 國學院大学たまプラーザキャンパス

主催： かながわ大学生涯学習推進協議会(県内68大学と県教育委員会、県立図書館生涯学習サポート課)

内容： 記念講演 國學院大学 客員教授 岩下尚史氏『「粋な人」とは？ ～東都の文芸に学ぶ～』を講演。
本学は、ミニ講座 吉田勝光先生「スポーツと法の関係を考える」 水野麻子先生「基礎から学ぶ特許翻訳」

かながわ発・中高生のためのサイエンスフェア

日時： 2016年7月16日(土) 10時～17時30分

場所： そごう横浜店 新都市ホール

主催： かながわ発・中高生のためのサイエンスフェア実行委員会(県、県教育委員会、参加大学、神奈川科学技術アカデミー、県内25大学・県内3社)

内容： 科学の不思議や理工系の魅力を直接体験できる。各参加大学による実験体験ブース。
本学は医用工学部 大辻先生、清水先生、濤川先生「超音波による心臓のエコー画像の紹介、ヘモグロビンを調べ体調を見る実験及びストレスチェック」を行った。

中高生のサイエンスキャリアプログラム

日時： 2016年7月30日(日) 10時30分～15時30分

場所： 桐蔭横浜大学 先端医用工学センター

主催： 県立青少年センター

内容： 医用工学部 米坂先生「医療系技術者について」講演。 体験学習で蓮沼先生「血液型・輸血検査の体験」、山内先生「医療機器の操作体験」を行った。

子ども科学探検隊

日時： 2016年8月18日(木) 10時30分～15時

場所： 桐蔭横浜大学

主催： 県立青少年センター

内容： 小学4年生から6年生が参加し、アカデミウム見学・英語村見学・おもしろ理科教室参加。

健康づくり講演会

日時： 2016年8月23日(火) 13時～16時

場所： 青葉公会堂

主催： 青葉区役所福祉保健課健康づくり係・桐蔭横浜大学

内容： 松本大学大学院 根本先生「健康づくり第一歩 ウォーキングでロコモ予防」をテーマに講演。
スポーツ健康政策学部 吉田先生、学生による健康チェックを行った。

ヨコハマ大学まつり

日時： 2016年10月1日(土)・2日(日) 10時30分～18時30分
場所： みなとみらい21地区 クイーンズスクエア
主催： ヨコハマ大学まつり実行委員会(県内29大学)
共催： 大学・都市パートナーシップ協議会、横浜市
協力： 一般社団法人横浜みなとみらい21
内容： 市内参加大学が各団体ステージパフォーマンスを行ったり、教室で講座や実験・体験を行う。
本学はステージパフォーマンスでダンスサークル2団体、音楽部が参加。

秋のふるさとミステリーウォーク

日時： 2016年11月23日(日) 9時30分～14時
場所： 桐蔭周辺(寺家)
主催： 青葉区役所福祉保健課健康づくり係・桐蔭横浜大学
内容： ミニ講座(櫻井先生によるウォーキングのコツ)、コース解説、桐蔭の学生と一緒にウォーキング、交流タイム。

子育て支援「ベビーカーマップ作り」

日時： 2016年5月～
場所： こどもの国
主催： 青葉区区政推進課地域力推進係・こどもの国
内容： フラワーネックレス青葉2017事業の一環で子育て支援として、こどもの国、青葉区区政推進課及び本学が、ベビーカー親子の散策、ウォーキングコース作りを行っている。

青葉区リレー講座

日時： 2016年7月2日(土)・3日(日) 10時～16時
場所： 國學院大学たまプラーザキャンパス
主催： 青葉区区政推進課企画調整係・青葉6大学
内容： 今年は、「大学で学ぼう生涯学習フェア」で行った。吉田勝光先生「スポーツと法の間を考える」 水野麻子先生「基礎から学ぶ特許翻訳」

第1回 花と緑で健康づくり講演会

日時： 2017年3月12日(火) 13時30分～16時
場所： たまプラーザテラス ゲートプラザ2F
主催： 青葉区役所福祉保健課健康づくり係・桐蔭横浜大学
内容： 飯島健太郎非常勤講師による講演「眺める緑・活用する緑でもっと健康になろう！」
ジャパンガーデンデザイナーズ協会 副会長 吉田祐治による講演「簡単にできる寄せ植え 花雑貨を使った素敵なガーデン装飾」

高齢者向け「シニアマップ作り」

日時： 2017年1月～
場所： こどもの国
主催： 青葉区区政推進課地域力推進係・こどもの国
内容： フラワーネックレス青葉2017事業の一環として、こどもの国、青葉区区政推進課及び本学が、高齢者向けの「シニアマップ」ウォーキングコース作りを行っている。

2016年度第 I 期 地域連携・生涯学習センター講座一覧表

講座番号	講座名	講師	講義日	時間	回数	受講料
01	現代と宗教	八木 誠一 (元桐蔭横浜大学教授)	4月14日～ 7月21日	10:40～ 12:10	14	21,000
02	短歌 実作の楽しみ	佐佐木 朋子 (歌誌「心の花」編集委員)	4月19日～ 7月19日	13:00～ 14:30	12	18,000
03	日本書紀を読む(1)	寺田 恵子 (日本女子大学非常勤講師)	5月23日～ 7月11日	10:40～ 14:30	14	21,000
04	イスラームとキリスト教の対話	久山 宗彦 (カイロ大学客員教授)	4月20日～ 7月13日	10:40～ 12:10	12	18,000
05	ゼロから始めるスペイン語 -入門編-	高橋 悦子 (日本ペルー共生協会副会長) 山城 リタ (スペイン語講師)	4月18日～ 7月4日	10:40～ 12:10	11	16,500
06	基礎スペイン語講座 -文化と共に学ぶ-		4月20日～ 7月6日	10:40～ 12:10	11	16,500
07	中級スペイン語		4月20日～ 7月6日	10:40～ 12:10	11	16,500
08	スペイン語会話 -ネイティブの先生と共に学ぶ-	山城 リタ (スペイン語講師)	4月20日～ 7月6日	13:00～ 14:30	11	16,500
09	街角のフランス語	照木 健 (元桐蔭横浜大学教授)	4月16日～ 7月2日	10:40～ 14:30	16	24,000
10	ゼロから始める中国語	韓 寧 (桐蔭横浜大学准教授)	4月14日～ 7月21日	13:00～ 14:30	14	21,000
11	中級中国語		4月11日～ 7月11日	13:00～ 14:30	13	19,500
12	上級中国語		4月11日～ 7月11日	14:40～ 16:10	13	19,500
13	ゼロから始める韓国語 -入門編-	兪 三善 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	4月15日～ 7月22日	13:00～ 14:30	14	28,000
14	中級韓国語		4月15日～ 7月22日	10:40～ 12:10	14	28,000
15	簡単だけれど、お洒落な英語の読み書き -Creative Reading and Writing-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	4月12日～ 7月12日	13:00～ 14:30	13	19,500
16	英語で歌を歌おう	上山 美恵子 (ソプラノ歌手)	4月11日～ 7月11日	10:40～ 12:10	13	26,000
17	学びなおす英語 -中級程度-	岡田 俊恵 (桐蔭横浜大学教授)	4月15日～ 7月15日	13:00～ 14:30	12	18,000
18	学びなおす英語 -上級程度-		4月15日～ 7月15日	14:50～ 16:20	12	18,000
19	English is fun! -初級英会話A-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	4月14日～ 7月14日	13:00～ 14:30	13	19,500
20	A Beautiful World! -初級英会話B-	リチャード・ブラッドナム (桐蔭学園講師)	4月12日～ 7月5日	10:50～ 12:20	11	16,500
21	You Can Do it in English! -中級英会話A-	ジェームズ・グラジアニ (桐蔭学園講師)	4月11日～ 7月11日	10:50～ 12:20	11	16,500
22	Broaden Your Horizons! (自分の視野を広げる)-中級英会話B-	アンドリュー・バーク (桐蔭学園講師)	4月14日～ 7月21日	13:00～ 14:30	11	16,500
23	Advanced English Conversation -上級英会話-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	4月14日～ 7月14日	10:40～ 12:10	13	19,500
24	特許翻訳講座⑧ -訳語選択の「なぜ」を考える-	水野 麻子 (特許翻訳者)	4/27,5/11,5/25 6/8,6/22,7/6	10:40～ 12:10	6	9,000
25	朗読を楽しむ I	鈴木 正導 (元NHKアナウンサー)	5月12日～ 7月21日	10:40～ 12:10	11	16,500
26	朗読を楽しむ II		5月12日～ 7月21日	13:00～ 14:30	11	16,500
27	楽しい写真講座 -一眼レフを使いこなそう!-(午前クラス)	玄一生 (写真家)	4月12日～ 7月12日	10:40～ 12:10	13	26,000 (保険料等 別途500円)

2016年度第Ⅰ期 地域連携・生涯学習センター講座一覧表

講座番号	講座名	講師	講義日	時間	回数	受講料
28	楽しい写真講座 -一眼レフを使いこなそう！-(午後クラス)	玄一生 (写真家)	4月12日～ 7月12日	13:00～ 14:30	13	26,000 (保険料等 別途500円)
29	たのしいフルートアンサンブル (午前クラス)	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	4月22日～ 7月15日	10:40～ 12:10	11	22,000
30	たのしいフルートアンサンブル (午後クラス)		4月22日～ 7月15日	13:00～ 14:30	11	22,000
31	表現を豊かにするワークショップ	真山 葉瑠 (元宝塚歌劇団)	4月15日～ 7月22日	15:15～ 16:45	13	19,500
32	ちょこっとSALSA!		4月15日～ 7月22日	18:00～ 19:30	13	19,500
33	健康体操 -リズム&ストレッチ-		4月15日～ 7月22日	13:15～ 14:30	13	16,250
34	季節の薬膳12カ月&食材帳 -春夏編-	大根田 笑子 (国際中医薬膳師)	4/21,5/12,6/2 6/23,7/14	13:00～ 14:30	5	7,500

2016年度第Ⅱ期 地域連携・生涯学習センター講座一覧表

講座番号	講座名	講師	講義日	時間	回数	受講料
01	現代と宗教	八木 誠一 (元桐蔭横浜大学教授)	10月6日～ 2月16日	10:40～ 12:10	16	24,000
02	短歌 実作の楽しみ	佐佐木 朋子 (歌誌「心の花」編集委員)	10月4日～ 2月21日	13:00～ 14:30	16	24,000
03	日本書紀を読む(2)	寺田 恵子 (日本女子大学非常勤講師)	2月9日～ 2月27日	10:40～ 14:30	12	18,000
04	イスラームとキリスト教の対話	久山 宗彦 (カイロ大学客員教授)	10月5日～ 1月18日	10:40～ 12:10	13	19,500
05	ゼロから始めるスペイン語 -入門編-	高橋 悦子 (日本ペルー共生協会副会長) 山城 リタ (スペイン語講師)	10月3日～ 2月13日	10:40～ 12:10	12	18,000
06	基礎スペイン語講座 -文化と共に学ぶ-		10月5日～ 2月1日	10:40～ 12:10	12	18,000
07	中級スペイン語		10月5日～ 2月1日	10:40～ 12:10	12	18,000
08	スペイン語会話 -ネイティブの先生と共に学ぶ-	山城 リタ (スペイン語講師)	10月5日～ 2月1日	13:00～ 14:30	12	18,000
09	街角のフランス語	照木 健 (元桐蔭横浜大学教授)	10月1日～ 12月10日	10:40～ 14:30	18	27,000
10	ゼロから始める中国語	韓 寧 (桐蔭横浜大学准教授)	10月6日～ 2月23日	13:00～ 14:30	17	25,500
11	中級中国語		10月3日～ 2月27日	13:00～ 14:30	16	24,000
12	ゼロから始める韓国語 -入門編-	兪 三善 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	10月5日～ 2月22日	10:40～ 12:10	16	32,000
13	初級韓国語		10月7日～ 2月24日	13:00～ 14:30	16	32,000
14	中級韓国語		10月7日～ 2月24日	10:40～ 12:10	16	32,000
15	簡単だけれど、お洒落な英語の読み書き -Creative Reading and Writing-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	10月4日～ 2月21日	13:00～ 14:30	17	25,500
16	英語で歌を歌おう	上山 美恵子 (ソプラノ歌手)	10月3日～ 2月20日	10:40～ 12:10	15	30,000
17	学びなおす英語 -中級程度-	岡田 俊恵 (桐蔭横浜大学教授)	10月7日～ 2月24日	13:00～ 14:30	16	24,000
18	学びなおす英語 -上級程度-		10月7日～ 2月24日	14:50～ 16:20	16	24,000
19	English is fun! -初級英会話A-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	10月6日～ 2月23日	13:00～ 14:30	17	25,500
20	A Beautiful World! -初級英会話B-	リチャード・ブラッドナム (桐蔭学園講師)	10月4日～ 1月17日	13:00～ 14:30	12	18,000
21	You Can Do it in English! -中級英会話A-	ジェームズ・グラジアニ (桐蔭学園講師)	10月3日～ 2月27日	10:50～ 12:20	16	24,000
22	Broaden Your Horizons! (自分の視野を広げる)-中級英会話B-	アンドリュー・バーク (桐蔭学園講師)	10月6日～ 2月16日	10:50～ 12:20	13	19,500
23	Advanced English Conversation -上級英会話-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	10月6日～ 2月23日	10:40～ 12:10	17	25,500
24	特許翻訳講座⑨ -訳語選択の「なぜ」を考える-	水野 麻子 (特許翻訳者)	10月5日～ 2月15日	10:40～ 12:10	9	13,500
25	朗読を楽しむⅠ	鈴木 正導 (元NHKアナウンサー)	10月6日～ 2月23日	10:40～ 12:10	14	21,000
26	朗読を楽しむⅡ		10月6日～ 2月23日	13:00～ 14:30	14	21,000
27	楽しい写真講座 -一眼レフを使いこなそう!-(午前クラス)	玄一生 (写真家)	10月4日～ 2月21日	10:40～ 12:10	15	30,000 (保険料等 別途500円)

2016年度第Ⅱ期 地域連携・生涯学習センター講座一覧表

講座番号	講座名	講師	講義日	時間	回数	受講料
28	楽しい写真講座 -一眼レフを使いこなそう！-(午後クラス)	玄一生 (写真家)	10月4日～ 2月21日	13:00～ 14:30	15	30,000 (保険料等 別途500円)
29	たのしいフルーツアンサンブル (午前クラス)	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	10月7日～ 12月16日	10:40～ 12:10	11	22,000
30	たのしいフルーツアンサンブル (午後クラス)		10月7日～ 12月16日	13:00～ 14:30	11	22,000
31	表現を豊かにするワークショップ	真山 葉瑠 (元宝塚歌劇団)	10月7日～ 2月24日	15:15～ 16:45	16	24,000
32	ちょこっとSALSA!		10月7日～ 2月24日	18:00～ 19:30	16	24,000
33	健康体操 -リズム&ストレッチ-		10月7日～ 2月24日	13:15～ 14:30	16	20,000
34	薬膳入門&おうちでできる四季の薬膳 -からだの中から元気に！-	大根田 笑子 (国際中医薬膳師)	10月17日～ 12月12日	13:00～ 14:30	5	7,500

桐蔭横浜大学学術交流レポート2016

2018年2月発行

発行人：佐藤宣践

発行所：桐蔭横浜大学

編集：桐蔭横浜大学 学長室

〒225-8503

横浜市青葉区鉄町1614

TEL. 045(972)5881(代)

<http://toin.ac.jp/univ/>
